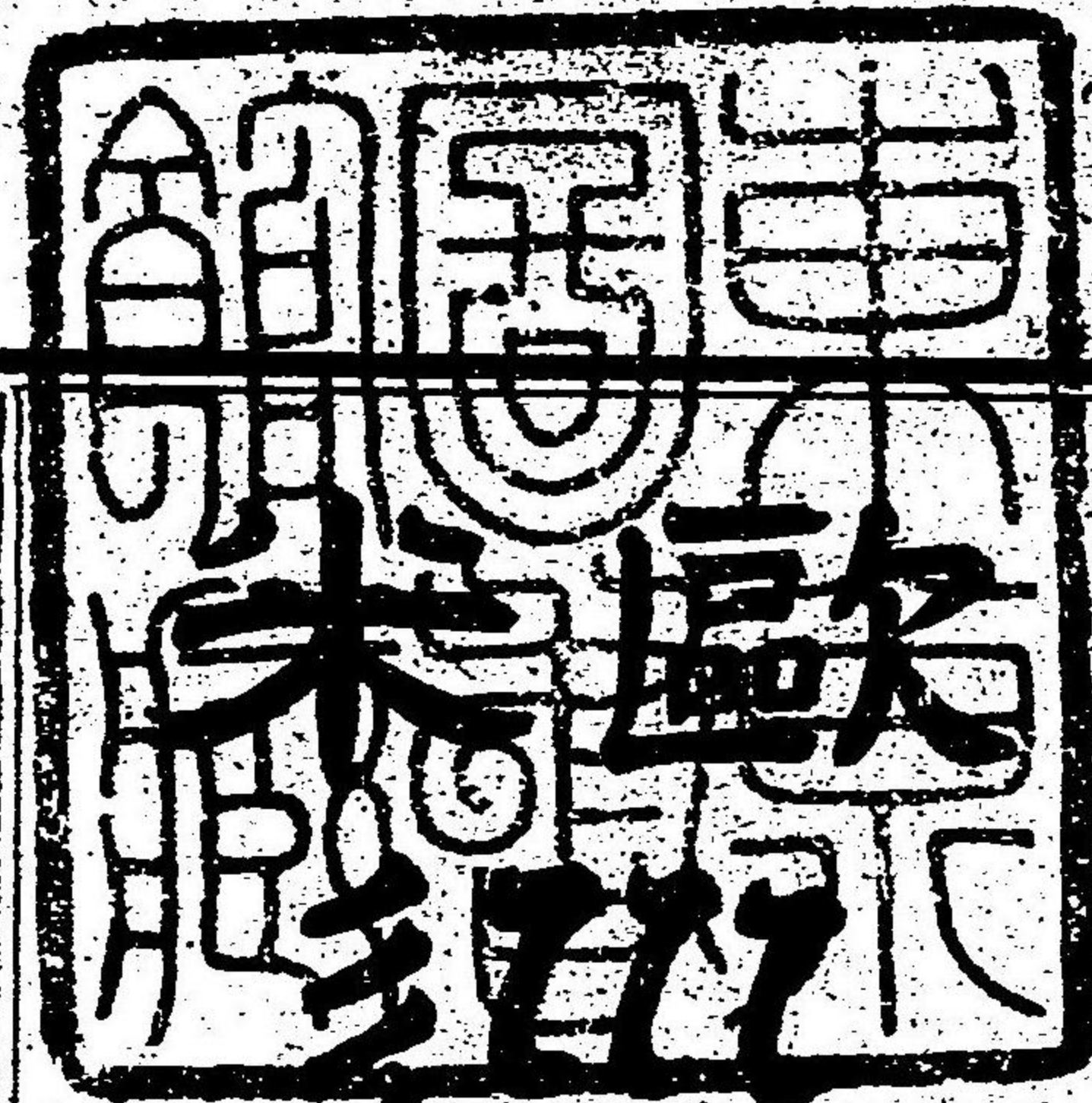


No. 9003



明治二十一年二月刊行

回取調書

獨蘭那漁業
之部全 七



農商務省藏版

緒言

漁業ニ遠海近海及淡水ノ別アリ從ツテ其獎勵保護ノ法モ同シキヲ能
ハス各國各是等法律規則ノ在ルアリト雖要之ニ其必用ニ從ツテ設ク
ヘキハ自然ノ數ナレハ獨逸國ノ如キハ濱海ノ地寡ク僅カニ四五州ニ
過キサルヲ以テ字國ノ漁業制度ハ淡水漁業ノ保護ヲ主トシ之ニ反シ
テ荷蘭陀及諾威二國ノ如キハ海ニ濱スルノ地多ク殊ニ荷蘭陀國ノ如
キハ青魚ノ漁業頗ル盛ニシテ據テ以テ生計ヲ營ム人民多キカ故ニ其
漁業律モ亦タ專ラ海上ノ事ヲ主トス然而シテ本取調書ハ本省ノ參考
ニ供スルモノナレハ各國施行ノ法律規則中最モ着目スルモノ及取締
上ニ關スル事項ヲ掲載シタルモノナリ

凡例

- 一本篇ハ獨逸國荷蘭陀國及諾威國漁業上ノ制度取締等ニ關スルモノヲ取調ヘ本省ノ參考ニ供スルニアリ
- 一本篇中地名、川名、海名ハ雙柱(國名中等ニモ世ニ普ク識ラレサルモノト想フモノニハ雙柱ヲ加フ)人名ハ單柱、物名、數量、貨幣名ニハ「」ヲ加フ然レモ已ニ譯名ノ普ク世ニ識ラレタルト想フモノニ之ヲ加ヘサルハ其繁ヲ省クニアリ又適々右傍ニ假名ヲ附シタルハ原語ニシテ左傍ナルハ邦語ナリ
- 一尺度量衡及貨幣ノ名稱ハ其國ノ制ニ隨ヒ割註ヲ以テ本邦トノ比例ヲ示ス但シ最初ニ之ヲ示シタルモノハ後ニ省クヲ例トス

目次

獨逸國ノ部

- 李國漁業制度 一 丁
- 李國漁業律 二十五 丁
- 破墨隣州漁業律執行條例 百 七 丁
- 漁業協會 百二十七 丁
- 獨逸漁業協會規則 同 丁
- 細勒西、奇拉斯天州中央漁業協會ノ組織及業務 百三十一 丁
- 獨逸海學術研究委員會 百三十七 丁
- 千八百八十四年乃至八十五年度李國政府漁業獎勵ニ關スル支出額 百四十五 丁
- 漁業ニ關スル税法 百五十五 丁

荷蘭陀國ノ部

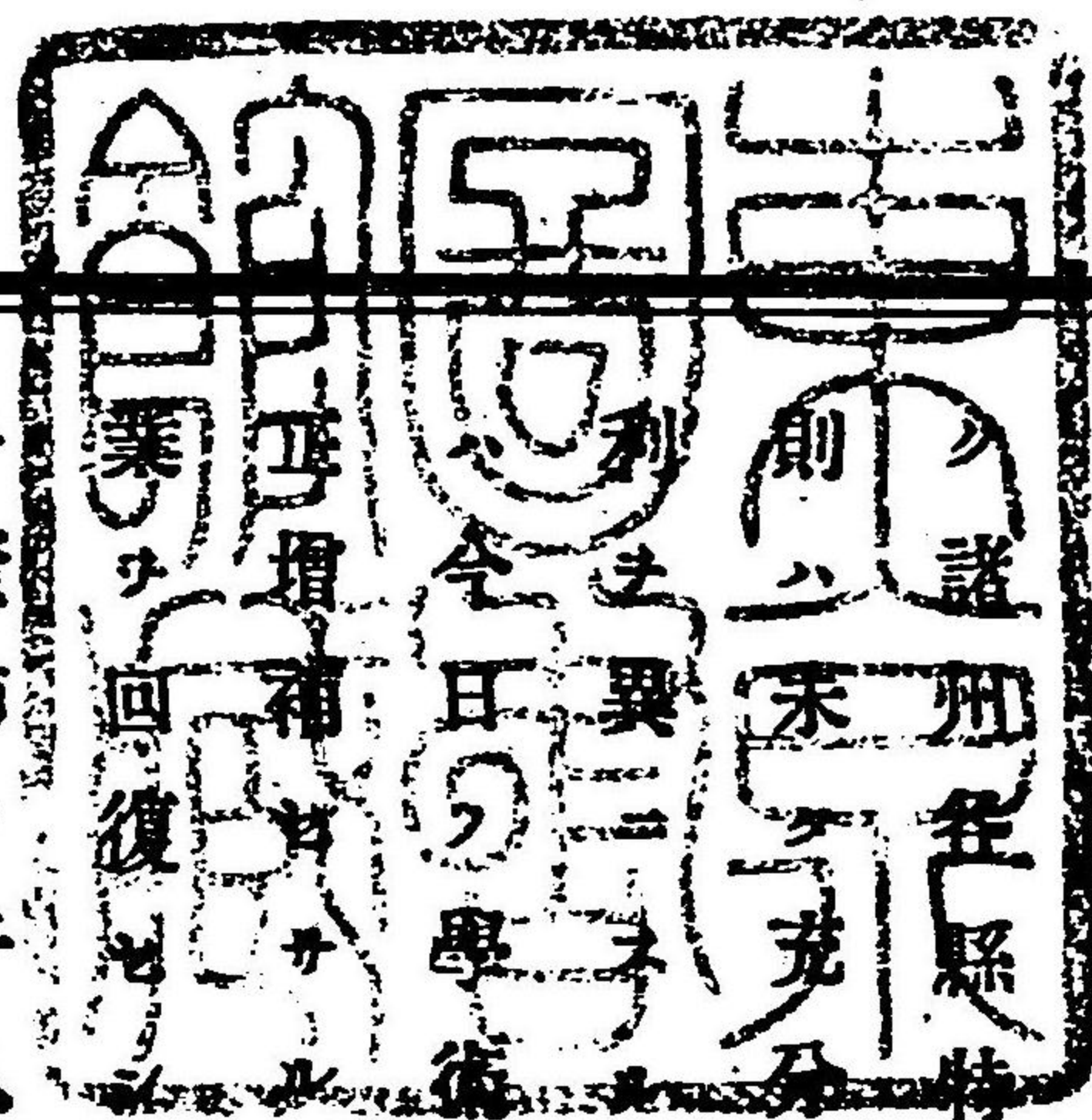
○海上漁業律	百五十九丁
○海上漁業者逃亡處分法	百六十七丁
○海上漁業局員數及經費	百六十九丁
○海上漁業局條例	百七十三丁
○海上漁業局集會規則	百七十七丁
○海上漁業局書記心得	百八十三丁
○海上漁業監督長心得	百八十七丁
○氣象局	百九十三丁
○暴風警報規則	百九十五丁
○メヘルデ河及シリラソ州河川漁業律	二百一丁
○荷蘭陀及白耳義國漁業及魚類販賣定約	二百十七丁
○獨逸荷蘭陀及瑞西國鮭魚漁業定約	二百二十五丁
○荷蘭陀國淡水漁業協會規則	二百三十三丁
○フライルザンゲン漁業者貯金救濟會規則	二百三十九丁

○青魚漁業律	二百九十四丁
○青魚監定官心得	二百六十一丁
○荷蘭陀國漁夫漁獲青魚監定稅表	二百六十七丁
○シリラソ州ハルゲン、ナツアグム養蠟場經費	二百六十九丁
○船主船長及漁夫定約	二百七十三丁
○北海漁業警察萬國定約	二百七十五丁
○諸威國ノ部	
○遠海及沿岸漁業	二百九十三丁

孝國漁業制度

抑モ千八百七十四年以前ハ孝國普通法典ニ掲ケタル私權上ノ制規ヲ
 除クノ外該國ニ於テハ漁業ニ關スル取締規則ヲ制定スルコトハ全ク州
 廳若クハ縣廳ノ掌ル所ニシテ曾テ全國ニ普及スヘキ法律ナルモノナ
 ラズ諸州在縣特
 則ハ未ダ充分
 利ヲ異ニス
 全日ノ學術
 正價補償ナル
 業ヲ回復セシ
 上ヨリ論スレハ頗ル事理ニ協ハサルモノアリテ到底改
 モノアリ或ハ全ク背馳シタル目的ヲ有スルモノアリ或
 ニ漁業ヲ保護スルニ足ラス故ナクシテ甲所ト乙所ノ權
 異ノ漁業規則ヲ設ケタリシ然ルニ此多般異様ノ漁業規
 則ハ未ダ充分
 利ヲ異ニス
 全日ノ學術
 正價補償ナル
 業ヲ回復セシ
 上ヨリ論スレハ頗ル事理ニ協ハサルモノアリテ到底改
 モノアリ或ハ全ク背馳シタル目的ヲ有スルモノアリ或
 ニ漁業ヲ保護スルニ足ラス故ナクシテ甲所ト乙所ノ權
 異ノ漁業規則ヲ設ケタリシ然ルニ此多般異様ノ漁業規

チ發布シ千八百八十年三月三十日ノ法律ヲ以テ少シク之ヲ修正シタ
 リ此ノ漁業律ハ沿海及政府ノ所有ニ屬スル湖河ノ漁業ニ關スルモノ
 ニシテ内外ノ有害物ニ對シテ漁業ヲ警察的ニ保護スルヲ以テ目的ト
 ス然レモ總テ州廳ニ於テ定メタル從前ノ規約殊ニ水ノ所有權、漁權ノ



區域等ハ新漁業律ニ抵觸セザル限リハ敢テ之レヲ變更セシメス唯從前發行シタル漁業取締規則ニシテ新漁業律ニ矛盾スルモノハ悉ク之ヲ廢止セシメタリ而シテ帝國政府カ其漁業律ノ原案ヲ國會ニ下附スルニ際シ共ニ提出シタル説明書ノ大意左ノ如シ

沿岸ノ漁業及他ト連通シタル内地漁場ニ於テハ他ノ職業ニ比スレハ法律上及行政上ノ保護ヲ加ユル事篤カラサルヘカラス如何トナレハ機械工業ノ進歩スルニ從ヒテ製造場ノ汚穢水汽船ノ進航等ノ爲メニ魚類ヲ盡滅スルノミナラス漁業ノ方法宜キヲ得サルヨリシテ魚類ノ繁殖ヲ害スルモノ多クレバナリ

此故ニ漁業律ノ目的ハ此二種ノ大弊害ヲ除キ他ノ職業ノ大ナル利益ヲ害セザルノ範圍内ニ於テ適當ナル漁業ヲ行フニ必用ナル保護ヲ與フルニアリ

帝國從來ノ漁業ヲ顧レハ一モ満足スベキモノナシ

遠海漁業ニ就テハ敢テ此漁業律ノ關係スル處ニ非ス千八百六十六年

以來漸次ニ衰頹シ爾來之レヲ挽回スルノ方法ヲ試ミタルモ未ダ好結果ヲ得ス遠海漁業ノ基礎ヲ改正スルハ現今ノ一問題ニ屬ス

沿海漁業ノ景況ハ他ニ比スレハ甚敷衰頹ヲ顯ハサス沿海漁業ハ東海ニ盛ニシテ北海ニハ盛ナラス東海中ニ於テハ年々或ル季節ニ於テ有用ニシテ貴重ナル海魚ヲ漁スルノ數頗ル多シ此故ニ其海岸ニ住スル漁民ノ經濟及人口ハ先年ニ比スレハ寧ロ増加スルモ減少スルコトナリ且ツ運搬ノ便利ヲ開キタルト水産ノ防腐貯蓄及使用法ヲ改良シタル事ハ大ニ是等ノ漁夫ノ營業ヲシテ隆盛ニ赴カシムルノ基トナレリ

特リ内地漁業即淡水漁業ニ於テハ全ク之レニ異ナリ

内地漁業ノ衰頹ニ赴キタル事ハ之ヲ訴フル事已ニ久シキハ人皆熟知スル所ナリ只員數ヲ擧テ之レカ證左ヲ示スベキ適當ナル統計ナシト雖モ之レヲ實際ニ徵スルニ内地漁業ノ衰微シタルヤ明ナリ内地漁業ノ目的ハ各種ノ水中ニ在ル貴重ナル魚類ヲ保存スルニ有リ

此貴重ナル魚類ト稱スベキモノハ本邦ニ於テハ鱈鱒ヲオレルレニエツ

セ「マレ」子「鰻魚鱸等」ヲ以テ主トス然ルニ是レ等ノ魚類中非常ニ減少
シタルモノ多シ谷川及小河ハ往事鮭魚類フナレ産スル事頗ル多カリシモ今
ヤ至處ル非常ニ減シ「エツセ」ノ如キハ殆ント跡ヲ絶ツニ至レリ鮭ハ往
昔殆ント獨逸全國ノ諸川ニ於テ漁獲シ得タルモノナリ故ニ鮭ヲ漁獲
スルコトハ大ナル職業ノ一ニシテ收穫モ亦甚著シカリシ然ルニ現在眞
ニ鮭漁ヲ營ムハ唯萊因地方ノミニ該地方ニ於テモ亦甚其漁獲ヲ減
シタリ「チーデル」河及其支流ニ於テハ亦殆ント鮭魚ノ片影ヲ見スエ
ル「ベ」河及其支流ハ魚類ニ富ムヲ以テ曾テ著名ナリシモ今ヤ其景況ハ
粗ホ前ノ諸川ニ類スルニ至レリ「ウエーセル」川ノ鮭魚モ又時々一二尾
ヲ得ルニ止ルノミ
鱒魚ヲ漁獲スルハ北獨逸ノ諸川殊ニ「エムス」エル「ア」イ「デル」ナリ然
ルニ之レモ又非常ニ減少シ其支流ノ如キニ至テハ亦此貴重ナル魚ヲ
得ル事能ハス加之「ナ」ラス獨逸國ノ固有貴重ナル「ウエ」ル「ス」魚ハ次第ニ
其産額ヲ減シ鰻魚ノ減少モ亦疑ヒテ容レス一尾ニシテ數斤ナル大魚ハ

吾カ内地ノ水中ニ於テハ極メテ稀ニ得ル處トナレリ
右ノ如ク魚類ハ總テ減少スルモ他ニ之レニ換ユヘキ物産ヲ生シテ此
損失ヲ償フ事ナシ吾人ノ廣大ナル内地漁場ナル大湖(東部ノ諸州)ハ
總テ貴重ナル魚類ヲ有セスト云モ誣ヒサルニ至リタリ此故ニ漁場ヲ
賃貸シテ得ル處ノ利益非常ニ減少シ公水中ノ漁權ノ如キニ至ツテハ
之レヲ賃借スルモノ無キニ至レリ
今ヤ農業大ニ進歩シ職業交通ノ道大ニ開ラケ諸川水路ノ改良通船ノ
利益等ノ急務ナルヨリシテ内地ノ水中ニ於ケル魚類ハ大ニ其繁殖ヲ
妨ケラレタリ何トナレハ内地ノ諸水ハ農業及經濟上ノ生産ノ爲メニ
沼澤ヲ乾燥シ排水法ヲ行ヒ湖水ノ水ヲ減少スル等ノ爲メニ面積ト滋
養力ヲ減少シタレハナリ
獨逸國ノ諸川河ニ於ケル通船ハ年々逐テ頻繁トナレリ日夜水ヲ動搖
シテ魚類ノ通行及繁殖ヲ害シ殊ニ蒸氣船ヲ改良シタルカ如キハ更ニ
非常ノ影響ヲ及シ是等ノ職業ノ進歩スルニ從テ水中ノ魚類ハ殆ント

跡ヲ絶タンドス
 此故ニ如此魚類ノ繁殖ヲ妨クル處ノ種々ノ目的ノ利益ヲ妨害スルコト
 ナクシテ特ニ魚類ノ繁殖ヲ妨ケシメザル方法ヲ講究スルハ水産上ノ
 要務ト爲ス
 然ルニ特ニ他ノ職業ノ影響ヲ蒙ルノミナラス内地漁業ニ至ツテハ其
 方法宜キヲ得ズ漁業自ラ此貴重ナル魚類ヲ盡滅セシムルコトナシト云
 ベカラス
 抑内地漁業ノ目的ハ其水族ヲ増加シ及其餌トナルヘキ物質ヲ増加ス
 ルニアリ此目的ヲ達セント欲スレハ魚類ノ放卵ヲ保護シ魚苗ヲ休養
 スルヲ專ラトス魚卵及魚苗ヲ保護スルノ必用ナルハ止水ヲ專有シテ
 其漁權ヲ有スル者ノ管能ク知テ行フ處ナリ
 然ルニ數十名ノ漁者競争シテ營業スル處ノ諸川河ニ於テハ嚴格ナル
 法律ヲ以テ之ヲ保護スルニ非レハ水族ハ將ニ滅絶ヲ告ケントス何ト
 ナレハ斯ル流水中ニ於テハ一人若注意シテ幼魚ヲ捕獲セサルモ忽チ

他人ノ爲メニ捕獲セラレ己レノ休養シタルノ結果ハ何時之レヲ得ヘ
 キヤノ望ミナシ故ニ目下ノ利益ヲ謀リ永遠ノ事ヲ顧ミルニ暇ナキヲ
 以テナリ然ルニ此目下ノ利益ナルモノハ則魚類ヲ維持スルニ向ツテ
 ノ大弊害ナリ

如斯景況ハ年已ニ久シキヲ以テ法律上漁業ヲ監督シ散卵魚ヲ保護シ
 魚苗ヲ休養スルノ目的ヨリシテ種々ノ制限ヲ設クルノ必用ナル事ヲ
 感シタリ然ルニ魚類生育ノ實況ヲ誤解シタルカ爲メニ魚類ノ消滅ヲ
 防禦スヘキ適當ナル方法ヲ得ル事甚タ難カリシ

獨逸國ノ新漁業律中瓦敦堡王國ノ千六百六十五年十一月廿七日ノ漁
 業律索遜王國ノ千八百六十八年十月十五日ノ漁業律巴丁大公國ノ千
 八百七十年三月三日ノ漁業律ハ大ニ原理ニ協ヒ満足スヘキ進歩ヲ爲
 シタルモノト云ヘシ

宇國ニ於テハ普通法典ノ私權上ノ規則ニ關スルモノ、外ハ漁業ニ關
 スル法律ハ悉ク地方ノ事務ニ屬シ全國ニ渉ルヘキ漁業警察的ノ規則

ナルモノナシ從來ノ法律及勅令中漁業ニ關スル緊要ナルヲ舉レハ左ノ如シ

(一) フロイセン州ニ於テハ千八百四十五年内地漁業ニ關スル漁業律及ハツフノ爲メニハ千八百四十五年三月七日ヲ以テ漁業律ヲ發布シタリ

此漁業律ノ執行規則ハケイニグスベルグムピンテン、ダンチヒ、マリインウエルデルノ縣廳ヨリ警察規則トシテ之ヲ發行シ其要領ハ主トシテ休漁期ニ關スルモノアリ

(二) ポーゼン州ニ於テモ又フロイセン州ト同日ニ其主要ナル場所ニ於ケル内地漁業ニ關スル法律ヲ發布シタリ其法律ノ箇條モ亦前ニ同シ

(三) シュレージン州ニ於テハ千八百六十六年ニ至ル迄警察規則上一モ漁業ニ關スルモノナカリシニ千八百六十六年二月ニ於テブレスタウリ、グノツ及チツベルン縣廳ヨリ漁業ニ關スル警

察規則ヲ發布シタリ

(四) ボンメルン州ニ於テハ各縣特別ナル漁業警察規則ヲ有シタリケスリン縣ニ於テハ千八百六十六年二月廿一日ノ縣命ヲ以テ内地漁業ノ取締ヲ設ケタリ

ステッテン縣ニ於テハ警察規則中ニ掲ケタルモノ、外ボンメルン州中ニ在ルナイデル河ノ一部分ハツプ及其支流ノ漁業ニ關スル法律ヲ千八百五十九年七月二日ニ發布シタリ
ストラールツント縣ノ漁業ハ千八百六十五年九月三十日ノ漁業律ヲ以テ其取締ヲ爲セリ

(五) プランドンブルグ州ノ漁業警察ニ關スル規則ハ千八百七十年三月十四日ナイデル河畔ノフランクフルト縣廳ノ達及千八百六十七年三月十六日ノボッダム縣廳ノ達ナリトス
(六) サクセン州ニ於テハ漁業ニ關スル規則ハ區々ナリ殊ニエルフルト縣ノ如キハ漁業ニ關スル多クノ舊規則アリテ其多分ハ廢

減ニ歸シタルモノナリ則チイゲンリユック及ツイセンゼー郡ニ於テハ千八百十一年十一月二日ノ漁業律ヲ達シゲスー郡ニ於テハ同年七月廿八日ノ獸獵漁業律ヲ奉スシユロイシゲン郡ニ於テハ千六百九十七年一月五日ノ漁業律アリアイヘスヘルド郡ニハ多クノ舊法律アリ又ミウルハウセン及ハイリゲンスタツト郡ニ於テハ千八百六十六年六月二日ノ縣廳達ヲ以テ漁業取締ノ規則ト爲ス

マクテブルグ縣ノマクテブルグ府内ニ於テハ千八百二十五年十月一日ノ漁業警察規則ノイハルデンスレーメン、アジエルスレーベン、ハルベルスタット、及カルデレーゲン縣ハ千八百五十六年二月九日ハーフエル地方ニ於テハ千八百五十五年九月十六日ノ縣廳ノ達ヲ以テ漁業取締規則ヲ設ケタリ

メルセブルグ縣ニ於テハ千八百五十五年十月二十一日ノ縣廳ノ達ヲ以テ漁業取締規則トナス

(七)

ハンブルグ州ノ漁業ニ關スル法律モ亦不完全ナルモノニシテ千八百四十七年五月二十五日ノ警察規則ニ休漁期ノ事ヲ擧ケタレト「フオレルレ」魚ヲ除クノ外總テ食生魚及鱈魚鮭魚ニ及ホサハルノミナラス沙潮ノ滿干スル水中ニ於テハ休漁期ヲ設ケサリシ

千八百二十五年七月十日ノ法律ヲ以テ網目ノ程度ヲ定メタルモ唯一地方ニ止マリ其後千八百四十年四月十六日省達ヲ以テ之ヲ廢止シタリ

其他漁業ニ關スル法律規則ナク偶々アレハ一縣一郡限りノ規則ニシテ多クハ徒法ニ屬シタル陳腐ノ規則ノミナリ

シユレースウキック、ホールスタイン州ノ漁業モ亦頗ル整理セス唯千八百七十年七月十九日及千八百七十二年四月二日ノ縣命ヲ以テ所謂ユル「ツエーセン」漁(帆ヲ掲ケテ行ク)ヲ制限シタルノミシテ別ニ漁業ニ關スル警察規則ノ現行スルモノアルトナシ

(九) ウエストフハーレン州ニ於テハ千八百五十七年十二月十五日
 ナ以テアルンスベルグ縣廳ヨリ千八百五十七年三月十六日及
 千八百五十九年二月八日ヲ以テミンデン縣廳ヨリ漁業警察ニ
 關スル規則ヲ發布シタリ

(十) ライン州ニ於テ漁業警察規則ハ頗ル區々ニシテ多クハ頻繁錯
 雜ナル徒法ノミ

(十一) ヘッセン、ナッサウ州ニ於テモ亦甚ク不完全ナルモノトス

(十二) ホーヘンツォルレン國ニ於テハ更ニ漁業ニ關スル警察規則ナ
 ルモノナシ

右ノ如ク諸州種々ノ法律規則アルモ未ク充分ナル保護ヲ與フルニ足
 ラス土地ノ情況等ニ關スル特別ノ理由ナクシテ甲地ト乙地ト規則ヲ
 異ニシ且不完全ニシテ欠點多ク之ヲ今日ノ學術ニ徵スルニ魚類ノ性
 質及生活ニ適當セサルモノ寡ナカラス就中稍ヤ完全ナリト稱スヘキ
 プロイセン、ボンメムン及ボーセン州ノ漁業律ノ如キモ尙ホ増補改正

スヘキノ點甚多シ且其罰則ノ如キハ現行刑法ノ法理ニ背キタルモノ
 アルノミナラス要スルニ眞ニ漁業ヲ保護スルニ足ラサル徒法ノ多シ
 ヲ
 右ノ如キ法律規則ノミナルカ爲メニ内地漁業ハ年ヲ追テ退歩シ終ニ
 衰滅ニ歸セントス此漁業ノ衰退ヲ挽回セント欲スレハ是等ノ法律ヲ
 悉ク改正セサルヘカラス之レ新クニ漁業律ヲ發布セントスル所以ナ
 リ
 新漁業律ヲ發布セントスルニ先ツテ一問題アリ他トシ從前ノ如ク總
 テ漁業ノ取締ハ一縣或ハ一地方ニ專任スヘキ乎或ハ又全國ニ通スヘ
 キ畫一ノ法律ヲ設クベキヤニアリ
 此問題ニ關シ精細ニ調査シタル所ニ由ルニ漁業ノ方法及水産ノ種類
 ハ極メテ多繁ナルモ全宇國ノ漁業ヲ保護シ得ヘキ手段ヲ法律上ニ於
 テ設クルハ能ク全國畫一ナルヲ得ヘシ
 是等ノ手段トハ濫漁ヲ禁シ漁業權ヲ整理シ有害ナル漁法及漁具ヲ禁

時期ヲ定メテ漁獵ヲ禁シ魚苗ヲ保護シ禁漁區ヲ設ケ昇降魚ノ爲メ
 ニ魚道ヲ設ケ魚水ヲ汚濁スル事ヲ防キ漁業ヲ監督シ其罰則ヲ定ムル
 等ニアリ
 右等ノ手段ハ畢竟漁業ヲ振作スルニ止ルモノナレハ何レノ州ヲ問ハ
 ス土地ト氣候ノ關係ヲ論セス漁業上實ニ必用ナルモノトス
 右等ノ理由ナルヲ以テ如斯法律ヲ發布スルハ經濟上止ムヘカラサル
 ノ事トナス是等ノ法律ニシテ其實効ヲ擧ケシメントスレハ全國一般
 ニ之ヲ遵奉セシメサルヘカラス
 新漁業律ハ未ダ全ク詳悉シタルモノニ非ス特ニ諸點ニ於テハ其地方
 ノ關係ニ從テ定ムヘキ餘地ヲ殘シ又列國ノ條約書ニ基キテ定ムヘキ
 餘地ヲモ殘シタリ之レ等ノ諸點ニ特別ナル規則ヲ發布シテ之レヲ補
 充スヘシ即チ該法律第二十二條第一項乃至第六項ニ掲ゲタル店頭ニ
 置キ販賣シ或ハ運搬スルヲ免サ、ル魚類ノ寸尺或ハ重量休漁期ヲ
 延長スルヲ漁具ノ使用法構造法ヲ定ムルヲ等ノ如キ是ナリ

右等ノ規則ハ漁業ノ種類ヲ異ニスルニ從テ各地方ニ於テ定ムヘキモ
 ノニシテ畫一ノ規則ニ因ラシムヘカラザルハ又疑ヒテ容レス一河流
 中ト雖モ土地ト氣候ノ關係ニヨリ漁期ヲ同フセザルモノ多シ此故ニ
 漁業律ヲ以テ之ヲ確定スルハ其目的ニ背クノミナラス錯雜冗長ニシ
 テ理解シガタク屢改正セサルヲ得ス加之學術ノ進步スルニ從ヒ又經
 験ヲ經ルニ因リ改正ヲ加フベキモノナルガ故ニ本法律中ニ設ケザル
 モノトス
 總テ近時ノ獨逸國ノ漁業律中千八百六十八年十月十五日ノ流水漁業
 ニ關スル索遜王國ノ法律第五條千八百七十年三月三日ノ巴丁大公國
 ノ漁業保護規則第九條千八百六十五年十一月廿七日ノ瓦敦堡王國ノ
 漁業律第六條及千八百七十一年一月廿四日ノ伊國法律草按第六條第
 七條十九條二十五條ハ能ク右等ノ點ニ注意シ捕魚ノ最小量休漁期ノ
 長短漁具ノ性質ヲ確定スルヲ以テ本法律以外ノモノトナシ特ニ其
 地方ノ便宜ヲ謀リ別ニ勅令ヲ以テ之ヲ定ムルノ法ナリ之レ法律上ノ

一大進歩ト云ヘシ
 右ノ如ク各地方ニ適當ナル法律ヲ設クルノ事ニ必用ナルヲ覺エタル
 カ故ニ既ニ其調査ニ着手シ速ニ之ヲ制定セントスルノ見込ナリ
 此漁業律ハ沿海及内地漁業ニ適用スルモノトス
 沿海漁業トハ學國ノ主權内ニ屬スル海中ノ漁業ヲ指スモノニシテ所
 謂ル公海及自由海上ノ漁業ヲ云フモノニ非ス内地漁業ト沿海漁業ト
 ハ自ラ其性質ヲ異ニスト雖モ本法律ニ掲ケタル條件ニ對シ彼我利益
 ノ抵觸スルモノナシ
 既ニ最初ニ論シタルカ如ク全長ナル漁業律ヲ設ケント欲スレハ連通
 シタル水中ニ於テハ漁業ヲシテ他ノ職業ノ大ナル利益ヲ妨害スルコ
 ナク充分ノ保護獎勵トヲ受クル事ヲ得セシムル事ニ注意セサルヘカ
 ラス
 法律上是等ノ目的ヲ達スヘキ手段ヲ略言スレハ凡左ノ如シ
 (一) 總テ漁權所有者無權利者カ魚類繁殖維持ニ顧慮スル事ナクシテ
 濫

リニ内地漁場ニ於テ漁業管ヲ禁スルコト
 本法律ハ總テ從來ノ漁權ニ影響スル事ナシ唯其九條十條ニ於
 テ他ト運通シタル大漁業區ニ於テハ其監視ト取締方法ヲ容易
 ナラシメ魚類ノ保護ヲ周到ナラシムルカ爲メニ其漁權者協議
 シテ組合ヲ設ケ共同シテ其經濟ト魚水使用ノ目的ヲ定ムヘシ
 トノ注意ヲ與ヘタリ
 一町村ノ人民悉ク漁權ヲ採用スルハ本法律ノ見テ以テ宜キヲ
 得ストスル處ナリ此故ニ如斯漁權ハ舉ケテ町村有ト爲シシメ
 (第六條)且從來自由漁業ヲ爲シタル處ノ悉皆ノ内地漁場ニモ又
 此法ヲ及シタリ(第七條)本法律第八條ニ於テハ右ノ如ク町村有
 ニ屬スル内地漁業ハ町村ニ於テ之レヲ他人ニ貸貸シ或ハ特別
 ニ漁夫ヲ置キテ漁撈セシムヘキ事トセリ
 無權利者ノ漁撈スル事ヲ防キ且監視法ヲ容易ナラシムルガ爲
 ニ本法律(第十一條乃至第十五條)ニ於テハ總テ他人ノ漁權ヲ有

スル漁場内ニ於テ漁業ヲ營ムモノハ其漁權所有主ノ許可狀ヲ携帶シ及(第十六條)自己ノ漁場内ニ於テ漁業ヲ營ムモノハ認証狀ヲ所持スヘキ事ヲ定メタリ本法律第五條ハ政府及關係アル漁權所有主ニ他人ガ所有スル權利ニシテ魚類ノ繁殖ヲ著ク損害シ漁業上ノ經濟ニ反對スルモノアレハ其權利ヲ賠償シテ之ヲ敗止シ或ハ制限スルノ權利ヲ與エタリ

(二) 實際有害ナル漁撈法及魚具ハ必ス禁止シ或ハ制限セサルヲ得ス

此點ニ於テハ本法律ハ唯第二十條及第二十一條ノ制限ニ止メ他ハ第二十二條ニ示シタル規則ヲ以テ之ヲ定メシム魚類ヲ負傷セシムル事(小銃又鎗等)水面或ハ氷上ヲ鼓キ其他甚敷音ヲ爲シ夜間篝火松明等ヲ焚キテ魚類ヲ一所ニ集メ之ヲ捕獲スルヲ禁スルハ一般ニ有害ナルカ如クナルヲ以テ本法律ニ於テ之ヲ禁スルモ可ナルカ如シ然レモ是等ノ捕獲法ハ果シテ一般ニ

(三)

有害ニシテ禁止セサルベカラザルモノタルヤ否ヤ尙ホ疑ヲ容ルヘキモノ無キニ非ス故ニ之ヲ第二十條及第二十一條中ニ加エスシテ第二十二條ノ成規ニ任シタリ

休漁期中ハ漁業ニ一定ノ制限ヲ設ケザルベカラス而シテ捕獲スヘカヲサカス魚類ノ寸尺或ハ重量ニ注意シテ如此魚類ヲ販賣シ及運搬スルヲ法律上ニ於テ禁止スベシ漁業律第二十二條第二項及第二十三條乃至二十七條ニ於テ右ノ法律ヲ設ケタリ

常置漁具或ハ所謂ル穿漁(漁具)ハ休漁期中使用スル事ヲ禁スル事ヲ得ヘシ

(四)

魚類ヲ維持スルカ爲メニハ各般ノ漁業ヲ禁止スル處ノ禁漁區ヲ設クルヲ必用ト爲ス

禁漁區ニ二種アリ一ハ魚類ノ放卵魚卵孳化魚苗ノ發育ヲ爲スニ適當ナル場所ニシテ之ヲ魚卵休養區ト云ヒ一ハ海中ヨリ内海ニ入ル處ノ咽喉ニシテ之ヲ魚類休養區ト爲ス

(五)

ノ目的ヲ達スルニハ必ス此ノ二者ナカルニカラス故ニ本法律
 第二十九條乃至三十四條ヲ以テ之レヲ定メタリ
 内地漁業ヲ保護スルカ爲メニ昇降魚ノ通路ヲ妨クル處ノ妨碍
 物ハ成ルヘク除却セシムルヲ勸ムルヲ要ス
 本邦ノ貴重ナル魚類ハ所謂ニル昇降魚ニシテ其蕃殖ノ爲メニ
 海中ヨリ河川(時トシテハ最上流ニ至ル)ニ遡リ或ハ江河ヲ降りテ海中ニ入ル
 モノアリ又常ニ淡水中ニ生活スレト時ト場合トニヨリ蕃殖或
 ハ需餌ノ爲メニ遠ク他方ニ移ルモノアリ
 鮭魚ハ海中ヨリ江河ニ遡リ遠ク水源地方ニ至リ冬期溪流小川
 ニ於テ放卵作用ヲ爲シ然ル後流ニ從ヒ降りテ海中ニ入ル一般
 ノ經驗ニ依ルニ其魚兒ハ凡ソ一年ヲ經テ海中ニ入り蕃殖作用
 ナ爲シ得ルニ至レハ其始メ孕化シタル水流中ニ歸リ來ルモノ
 ナリ
 鱒魚モ亦右ニ同シキ目的ヲ以テ初春海中ヨリ河流ニ遡ルモノ

ナリ然レモ從來ノ經驗ニ依ルニ鱒魚ハ多クハ河流ノ本線ニ止
 マリ支流ニ入ルモノ寡ナシトス
 「フナレルレ」(鱒魚)ハ往時清淨ナル急流小川ニハ至ル處多カリシ
 魚類ナリ其放卵期ニ至レハ山間ノ溪流ニシテ礫石多キ場所ニ
 遡ルモノナリ
 鰻魚ノ蕃殖法及生活法ハ今尙ホ不明瞭ナルモノ多シト雖モ其
 時ニ移住スルノ一事ハ殆ント爭フヘカラサルノ事實ナリ即秋
 季ニ海中ニ入りテ蕃殖作用ヲ爲シ春期絲大ノ幼魚群ヲ成シテ
 海中ヨリ江河ニ遡リ遠ク諸方ノ池沼等ニ入ルモノトス総テ北
 海及東海ニ注ク所ノ諸川河ト連通スル水中ニハ鰻魚アラサル
 ハナシ唯從前ノ經驗ニ由ルニ多腦河ニハ鰻魚ヲ産セス
 魚類ノ昇降ハ其生活或ハ蕃殖作用ノ爲メニ必要ナルヲトナス
 然ルニ堰堤樋門等ハ大ニ其通路ヲ妨碍ス此等ノ妨碍物アレハ
 魚類ハ復々上流ノ放卵場ニ至ルヲ得サルヲ以テ終ニ盡滅ニ

歸セサルヘカラス否實ニ既ニ盡滅シタルノ例寡ナカラス右等ノ妨碍物ハ平水及涸水ノ時魚類ノ通行ヲ許サ、ルノミナラス獨國ノ諸川ニハ洪水ノ時ト雖モ亦魚類ノ交通スルヲ能ハサルモノ多シ今之レカ一例ヲ掲ケレハエムス河ナリ即チリンゲンヨリ一流ハ全ク昇降魚ノ通路ヲ断テタルモノト謂フヘシ是故ニ本律ハ此ノ弊害ヲ除却スルノ目的ヲ以テ第三十五條乃至第四十二條ヲ設ケタリ魚道ヲ布設スルハ即チ昇降魚ノ蕃殖ヲ助クルニ外ナラス抑モ魚道ヲ設ケルハ甚ク簡單ニシテ費用モ亦多カラス而シテ其非常ニ効驗アルヲハ之ヲ英國及米國ニ徵シテ明了ナル所トス

魚類ヲ消滅スルニ足ルヘキ物質ヲ注流セシメテ水ヲ汚濁セシムルノ一事ハ他ノ職業上ノ利益如何ヲ酌量シタル後可及的除却シ或ハ制限セサルヘカラス

右ハ第四十三條及第四十四條ニ示シタルモノニシテ此ノ點ニ

(六)

(七)

於テハ種々ノ困難アリトス蓋シ漁業律ハ水ヲ汚濁セシムルヲ(殊ニ衛生上ノ關係ヨリシテ)嚴禁スルヲ得ス唯魚類ヲ害スルニ足ルヘキ分量ノ有害物ヲ注入投棄スル事ハ成ルヘク減少セシムルニ過キサルモノナリ

政府ヨリ漁業監視ノ方法及機關ヲ設ケ漁業ノ改良進歩ヲ謀ラサルヘカラス

本法律第四十六條乃至第四十八條ハ此ノ目的ニ出タルモノニシテ組合ヲ設ケシメ適當ナル監視法ヲ行ハシムルニアリトス

李國漁業律

千八百七十四年五月三十日發布

天祐ヲ享有シテ李漏西國王タル朕維廉茲ニ王國國會上下兩院ノ贊議
ヲ經テ左ノ法律ヲ公布セシム

有効區域

第一條 本漁業律ハ我首權ノ治下ニ在ル沿海及内地ノ漁業ニ適用セ
シム

(參照) 第一條乃至第四條ハ法律有効ノ範圍ヲ示シタルモノナリ
即李國ノ版圖内ニアル内地漁場及萬國公法上其首權ノ下ニア
ル東海及北海ノ漁場ニ適用スルモノトス
内地漁業及沿海漁業ノ區別ハ第七、八、十、四十六條ニ於テ之ヲ判
別シタリ之ヲ區別スルニ其方法及魚類ヲ以テセスシテ土地ヲ

以テ之ヲ區別シタルハ判定ニ便ナルヲ以テナリ

第二條 蝦、牡蠣、介類其他有用ナル水中動物ニシテ獸獵規則ノ範圍内ニ在ルモノヲ捕獲スルコトモ亦此ノ法律ニ所謂ユル漁業中ニ算入ス此ノ法律ニ於テ魚類ト稱スルモノハ總テ右等ノ動物類ヲモ包含スルモノトス

第三條 此法律ニ於テ沿海漁業ト呼フモノハ我首權ノ治下ニ屬スル北海及東海ノ一部分港灣其他江河ノ海口ニ於テ營ム所ノ漁業ヲ指シス

此ノ法律ニ於テ内地漁業ト稱スルモノハ前項ニ指示シタル以外ノ水中及沿海漁業ノ境界ヨリ上流ノ河流中ニ於テ營ム所ノ漁業ヲ謂フ

沿海漁業ト内地漁業トノ境界ハ各關係諸州ノ州會ノ認承ヲ經テ後國王ノ勅令ヲ以テ之ヲ確定スヘシ

第四條 此ノ法律ニ於テ堰斷水ト稱スルモノハ左ニ掲クル所ノモノ

ヲ指示ス但シ漁權ノ私人ニ屬スルモノニ限ル

(一) 天然ノ水流ニ通スルト否トニ係ハラス總テ人工ヲ以テ掘設シタル養魚池

(二) 魚類ノ出入交代スヘキ通路ヲ欠キタル池湖或ハ池湖等ハ此ノ法律ニ所謂ユル堰斷水ト見做スヘキモノナルヤ否ヤノ争議ハ司法以外ニ於テ行政ノ處分ニ任セシム

(參照) 本法律ノ精神ハ堰斷セサル水中ニ於ケル漁業上内外ノ障礙ヲ防禦スルニアリ然レモ堰斷水中ト雖モ亦此ノ法律ノ保護ヲ仰シヘキモノ多シ此等ノ堰斷水中ト雖モ亦遵奉セシムルモノトス

公法上ノ境界ハ干潮ノ時ニ測量シテ三海里以内ノ場所及海灣内島嶼ノ海岸三里以内ノ場所ナリ
堰斷水トハ魚類カ他ヨリ侵入シ或ハ流出スルコト能ハサル場合ヲ謂フ故ニ出入自在ナラサルモ或ハ他ヨリ來ルノミナルカ又

他ニ出ルノミナルモノモ亦堰斷セサル水ト稱スヘシ
千八百八十二年八月一日ノ法律第百二條ニ據レハ斯ノ如キ爭
議ハ縣委員會ノ決議ニ任スルモノトス

漁權ノ制限及濫漁ノ禁止

第五條 從前ノ漁業權ハ此ノ法律ノ制規ニ從ヒテ制限ヲ受クヘシ
漁權所有者ノ損害ヲ全償スル時ハ堰斷セサル水中ニ於テ一定ノ漁
具或ハ裝置(鮭鱒ヲ捕獲スル堰堤水柵、梁筌、建網、擴網)ヲ施用スルノ權
利ヲ減殺シ或ハ禁止セシムルヲ得

左ノ場合ニ於テハ右ノ如キ制限若クハ禁止ヲ行フヘキモノトス

第一項 政府ニ於テ之ヲ制限禁止スルヲ以テ公益ナリト認定シ
タル時

第二項 該湖池ノ上流若クハ下流ニ於ケル漁權所有者及漁業組合
ニ於テ魚類ノ保存蕃殖ヲ害シ漁業經濟ニ反對スルモノタルヲ
證明シテ之レカ廢止ヲ請求スル時

(參照) 千八百八十三年九月一日行政廳及行政裁判所職務規程第

百二條第二項ニ曰ク漁權所有者若クハ漁業組合ヨリ一定ノ漁
具或ハ裝置ヲ使用スルヲ制限シ或ハ禁止セラレシムルヲ請求
スル時ハ州法令ノ範圍内ニ於テ縣委員會ノ決議ニ從ハシムト

此請求(第二項)ヲ爲ス者アルニ際リテハ之ヲ關係者ニ通知シ且鑑識
者ノ審査ヲ經タル後縣委員會ニ於テ之ヲ裁決ス

此裁決ニ對シテ不服ノ廢アレハ裁決書ヲ落手シタル日ヨリ起算シ
テ三週日以内ニ農務大臣ニ上告スルヲ得ヘシ

協議ノ調ハサル場合ニ於テハ裁判規則上ニ於テ定メタル賠償ハ第
一項ノ場合ニ於テハ政府之ヲ負擔シ第二項ノ場合ニ於テハ該漁權

ノ廢止ヲ請求シタル者ニ於テ之ヲ負擔スヘシ
日業課役ノ廢止ニ關スル現行法律ハ此ノ漁業律ノ爲メニ變更セサ
ルモノトス

第六條 或ル土地ノ所有權ニ附帶スルモノニアラスシテ從前一町村

ノ人民或ハ組合員ニ於テ共有シ來リシ漁權ハ今後尙ホ従前ノ町村
行政區ノ所有ニ屬スルモノトス

(參照) 第六條及第八條ノ規則ハ町村内ニ於テ自家ノ食用ニ供ス
ルカ爲メニ釣漁スル者ニ應用セズ(千八百七十八年十二月十八
日ノ省達)

私有水中ニ於ケル漁權ハ水ノ使用權ト同ク其岸地ノ所有主
ニ屬ス

若シ二人以上ノ所有ニ屬スル漁權ニシテ一人ノ耕作ヲ害スル
カ爲メニ漁權ノ使用ヲ廢止セシメテ請求セテ賠償ヲ出ス時ハ
他ノ一人ハ其漁權ヲ拋棄セサルヘカラス(千八百三十六年十月
十八日上等裁判所ノ判決)

私有川中ノ漁權モ亦河岸所有主ニ屬ス
公河ノ岸ヲ所有スル者ニシテ實際種々ノ利益營ヘハ新鮮ナル
空氣及日光其他通船ノ便利等ヲ有共シ來リタル者アリト雖モ

若シ政府ニ於テ川流川底等ヲ變更シタルカ爲メニ右等ノ利益
ヲ失フコトアルモ之レカ爲メニ賠償ヲ請衆スルノ權利ナシトス

第七條 從來自由捕魚ヲ許シタル湖河ニ於テ内地漁業ヲ營ムノ權利
ハ其標杭以內ハ該町村行政區ニ屬ス
二町村若クハ數町村ノ境界ニ亘ル湖河ニシテ全ク一町村ニ專屬セ
ズ其一部分ノミ屬スル所ノ水中ニ於テハ該水ニ境接スル町村ハ同
等ノ魚權ヲ有スルモノトス

江河及通船ニ堪ユル川流中ニ於テハ各人隨意ニ釣漁ヲ爲スノ權アリ
トノ佛蘭西法ニ倣ヒタル制規ハ此ノ漁業律ヲ以テ廢止ニ歸スル
モノトス

(參照) 本條末項ノ規則ハ千八百八十年三月三十日ノ法律第一章
ニ依リテ追補セラレタルモノナリ

第八條 町村ニ於テ其權利ヲ有スル内地漁業ヲ行ハントスル時ハ雇
入レタル漁夫ヲシテ之ヲ行ハシメ或ハ漁權ヲ賃貸スルニ限ルヘシ

自由捕魚ノ法ヲ禁止ス
 貸貸條約ノ期限ハ通常六ヶ年以上タルヘシ更ラニ短期ノ定約ヲ締
 ハント欲スレハ特別ナル理由アリテ監視廳ノ許可ヲ經タル時ニ限
 ルヘシ
 一町村ニ屬スル湖河ヲ分割シテ數個ノ貸貸漁場ト爲サント欲スレ
 ハ漁業ノ不經濟的ニ分裂スルヲ豫防スル所ノ監視廳ノ認可ヲ經
 サルヘカラス
 監視廳ニ於テハ各貸貸漁場内ニ於テ幾個以上ノ漁具ヲ使用スル
 ナ得ストノ程度ヲ定ムルノ權利アリトス
 二町村若クハ數町村ニ於テ其境界ニ接スル水中ノ漁權ヲ共有スル
 時ハ該町村委員協議ノ上漁業ヲ營ムヘキモノトス
 捕魚ノ方法上ニ於テ關係町村ノ意見相協ハサル時ハ監視長ノ裁定
 ニ任スヘシ

(參照)

漁場貸貸條約雛形

グムピンネン縣廳直稅官有地兼山林事務課ト何某トノ間ニ於
 テ投票高點ノ廉ニ基キ某漁場ヲ貸貸スルニ關シテ契約ヲ締
 約スルノ如シ

第一條

グムピンネン縣廳直稅官有地兼山林事務課ハ何某ニ次ニ記載
 セル漁場ヲ何ヶ年間貸貸シ其内ニ於テ魚蝦ヲ漁撈シ雜草蘆葦
 及ヒ菅草ヲ採探スルヲ免ルス

餘白(場所ノ明細ヲ記載スルニ供ス)

漁場ノ境界ハ其天然ノ水量ニ從ヒテ之ヲ定ム

記者案スルニ非常ノ洪水或ハ旱魃ニアラサル平水ノ時

ニ際シテ之ヲ定ムルモノトス

第二條

貸借ノ材料トスルモノハ悉皆ノ魚類及ヒ蝦ノ捕獲雜草蘆葦菅

草ノ変採ヲ第三人者ニ對シテ政府カ掌有スル權利内ニ於テ之ヲ行フヲ及ヒ雜草蘆葦菅草ヲ変採スルハ平水ノ時ノ境界以内ニ於テシ又々結氷上ニノミ於テスルヲ

第三條

賃借人ハ漁撈及ヒ之ニ連亘シタル漁場ノ使用法ヲ經濟的ニ施行スルノ義務アリトス賃借人ハ漁撈其他ノ使用ニ關スル現行及ヒ將來發布スヘキ法律及ヒ勅令ヲ遵奉スヘキノ義務アリ且ツ之カ爲メニ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得ス

第四條

漁撈ニ使用スヘキ器具ノ網目ハ濕潤シタル時ニ計算シテ其結節ヨリ結節迄ノ距離盡ク二、五「サ」ヲメトスル(一「メ」トスルハ我三三分餘ナリ)以上ナルヲ要スウグライ「魚名」及ヒ「サ」ト「魚名」漁ノ目的ニ用ユルモノニ限リ賃借人ハ各結節ノ距離〇、七「サ」ヲメトスルヲ有スル漁網ヲ使用スルヲ得ヘシ毎年四月十四日ヨ

リ十月一日ニ至ルノ間ハ禁漁區ヲ除クノ外本漁場内ニ於テ之ヲ使用スルヲ得且賃貸官衙ノ特許ナキ以上ハ本漁場内ニ於テ右ノ如キ漁具ヲ同時ニ幾許個以上ヲ使用スルヲ得サルモノトス

第五條

左ノ場所ヲ以テ禁漁區トス
餘白(地名ヲ明記スルニ供ス)

毎年十一月一日ヨリ三月一日迄ハ禁漁區内ニ於テ「サ」ト「魚名」及ヒ「カウル」ナルニ「網」ヲ除クノ外「ツ」ガ「ル」ヲ「網」ノ名ヲ使用シ及ヒ七月一日ヨリ十一月一日迄網目各節ノ距離濕時ニ計算シテ三「サ」ヲメトスルヨリ短カキ常置網及ヒ立網ヲ使用スルヲ許サス
三月一日ヨリ七月一日ニ至ルノ間ハ禁漁區内ニ於テ一切ノ漁撈ヲ禁止セシム

千八百七十七年五月十一日ノ勅令第十一條ニ掲ケタル權利ヲ得ント欲スレバ賃借人ハ春期休漁期內漁業ヲ營ムトニ關シテ賃貸官衙ヨリ特別ノ許可ヲ經ルヲ要ス若シ此特許ヲ得サルハ休漁期中各種ノ漁撈ヲ行フコトヲ得ス

第六條

漁場ハ有形ノ儘ニテ賃貸スルモノトス故ニ其面積境界収獲額其他賃貸地ノ利益等ニ關シテ一切保證スルノ限リニ非ス賃貸地ニ關スル第三人者ノ權利或ハ將來確定スヘキ漁權及他ノ使用權ニ關シテ賠償ヲ與フルコトナシ賃貸期限內該賃貸地ニ關スル權利ヲ賠償(買ヒ上クルコトナリ)シタルノ場合ニ於テハ賃借人ハ縣廳ノ金庫ヨリ拂ヒ出シタル金額ニ對シ其拂ヒ渡シヲ爲シタル日ヨリ四歩ノ利子ヲ納ムベシ賃貸漁場內ニ於テハ防水堤ヲ築キ通船ヲナシ筏ヲ流シ材木ヲ冬期圍ヒ置キ或ハ浴場材木圍場ヲ設ケ或ハ琥珀採集ノ爲メニ

政府若クハ私人ニ於テ賃貸スルコトアルモ賃借人ハ損害ノ賠償ヲ要請スルコトヲ得ス

第七條

賃借人ハ賃貸漁場內ニ於テ亞麻及大麻ヲ浸製スルコトヲ禁止スルコトヲ得又自ラ之ヲ行フコトヲ得ス

第八條

此條約ノ材料トナリタル漁場ニシテ水面ヲ減少セラレ或ハ排水セラレタルハ賃借年度ノ始メヨリ解約スベシトノコトヲ豫メ通知シテ解約スルコトヲ得ルノ權アリトス

第九條

賃借人ハ凡テ非常ノ災害及ヒ法律ノ明文ヲ以テ示シタル戰爭ノ損害徵發令ハ賠償ヲ要求スルコトナクシテ之ヲ負担セザルベカラズ法律上政府ヨリ戰時徵發件ノ爲メニ與フベキ賠償ハ賃借人ノ所得ニ歸スベシ

戰爭ノ起リタル場合ニ於テハ解約ヲ申出スノ權利ハ契約主双方ニ於テ其施行ヲ猶豫(見合)スベシ賃借人ハ凡テ賃貸地ノ變化其他所謂ル水中役ノ爲メニ生シタル損害ノ賠償ヲ請求スルヲ放棄スベシ

第十條

賃借人ハ總テ賃借地ノ負担スベキ一般ノ國稅地方稅町村稅ヲ拂フベシ而シテ之レカ爲メニ更ニ賠償ヲ請フヲ得ス
貧院學校ノ補助金ニノ賃貸スベキ官衙ニ於テ負担スベキヲ承諾シタルモノ及ヒ千八百四十五年十二月十一日ノ教育令ニ關スル費用モ亦賃借人ニ於テ之ヲ負担スベシ

第十一條

賃借人ハ必要ナル場合ニ於テハ監漁官ノ豫報ニ應シ其事務ヲ執行スルノ船ヲ誘導シ或ハ運轉スルカ爲メニ一名若シハ二名ノ人夫ヲ準備スルノ義務アリ此ノ必要ナルト否トハ監漁官ニ

於テ之ヲ定メ右ニ對スル訴願ハ賃貸シ爲シタル官衙ニ於テ之ヲ決スベシ

第十二條

賃借金額ハ毎年若干馬克即チ何萬何千何百何十何馬克ニシテ之ヲ四分シ六月一日九月一日十二月一日及ヒ三月一日各若干馬克宛チグムピンチン縣廳ノ金庫若シハ別ニ指命セラレタル金庫宛ニ拂ヒ込ムベシ但シ其費用ハ賃借人ニ於テ負擔スベシ
怠納ノ場合ニ於テハ兼テ縣廳ニ委託セラレタル職權ニ基キ賃借人ノ財産ヲ以テ之カ處分ヲ爲スベシ
賃借人若シ二回ノ納金ヲ怠ルキハ縣廳ニ於テハ特ニ通知スルヲ要セズシテ解約シ其土地ハ條約期限中該賃借人ノ費用ヲ以テ之ヲ他ニ賃借シ若シハ管理スルノ權利アリトス
數名ニテ一漁場ヲ賃借シタルキハ總テ條約上ノ義務ハ連帶責任ナルベキト

第十三條

賃借人ハ條約締結ノ日ヨリ十四日以内ニ其額面一年ノ賃借料ニ均キ借地料証或ハ字國若クハ獨逸國ノ諸公債証書ヲ納メ置キ時ヲ違ヘス賃借地ヲ受ケ取リ總テ其義務ヲ負擔シ且賃借人ノ爲メニ生スベキ損害罪料犯罪費用納金延滞ノ利子等ノ抵當トシテ之ヲ納メシム

右ノ公債ノ利子ハ賃借人ニ於テ之ヲ受ケ取ルコトヲ得ル
賃貸官衙ハ何時モテモ此保証金ヲ以テ賃借人カ完了セサル義務ヲ果サシムルヲ得ベシ若シ保証金ノ金額若クハ其一部ヲ引キ去ラレタルキハ期限内ナレバ賃借人ヨリ之ヲ補充セシムベシ

第十四條

賃借人ニ於テ漁場ヲ復貸シ或ハ其使用權ノ全体或ハ一部分ヲ他人ニ讓渡サント欲スルキハ必ス賃貸官衙ノ認可ヲ經ザルベカラズ此認可ヲ經タル場合ニ於テモ亦法律上若クハ賃貸條約

上禁止シタル復賃借人其他第三人者ガ漁場ヲ使用スルニ關シテハ賃借人ハ直接ニ賃貸官衙ニ對シテ其責ニ任スベシ

第十五條

第十三條ニ基キ拂ヒ込ムベキ保証金ヲ其期限ヲ經ルモ拂ヒ込マサルキハ賃貸官衙ハ漁場ヲ引キ渡ストテ拒ムノ外條約ヲ解キ或ハ該賃貸地ヲ他ニ賃貸シ或ハ管理セシムルノ權アリトス而シ其費用ハ怠納者ヲシテ之ヲ負擔セシムベシ
或ル理由ヨリシテ賃貸地ヲ復賃貸セザルヲ得サル場合ニ於テハ全條約ヲ期限内之ヲ復貸スルコトヲ賃借人ニ於テ認承セザルベカラズ

第十六條

賃貸官衙ノ委員カ賃貸漁場ノ經濟法及ヒ作業法ヲ檢査スルキハ賃借人ハ之ヲ許シ且其請求ニ應シテ漁業上ノ説明ヲナシ魚類販賣帳ヲ除クノ外右ニ關スル書類及ヒ計算ヲ示サ、ルベカ

ヲス
條約中ニ載セタル各物件ヲ使用スルコトニ關スル書類及ヒ目錄
ハ貸貸官衙ノ命令ニ從ヒテ調製セザルベカラズ

第十七條

條約ヲ締結シタル以上ハ特ニ漁場受取渡ノ手續ヲ經ルヲ要セ
ズ條約ノ効力ハ契約書中ニ載セタル初日ニ始マリ其期限ト定
メタル日ヲ以テ終ルモノトス
賃借人或ハ其内ノ一人條約期限内ニ死去スルキハ繼嗣者ハ本
條約ヲ繼續スルノ義務アリトス然レモ賃貸官衙ニ於テ賃借人
若クハ其内ノ一人死去シタルキハ其次ノ年度ヨリ本條約ヲ解
クコトヲ得ルモノトス

第十八條

魚蝦ノ蕃殖ヲ謀ルカ爲メニ左ノ規約ヲ定ム
(一)賃借人ニ許可シタル細網第四條ハ其囊ノ長徑ノ中央ニ於

テ少クモ長サ四「メートル」幅三「メートル」ニシテ網目各節ノ
距離二、五「センチ」メートルトシテ網ヲ附セザルベカラズ是レ其
中ニ入りタル幼魚ノ脱去スルニ便ナルガ爲メナリ

(二)卵子ヲ有スル母蝦ヲ獲タルキハ其生存ニ必要ナル手當ヲ
ナシテ直ニ水中ニ放置スベシ

(三)賃借人ハ第五條ニ載セタル禁漁區内ニ於テ冬期常ニ自費
ヲ以テ氷上ニ穴ヲ穿テ置キ魚類ノ生存ニ必要ナル空氣ヲ
水中ニ入ラシメ魚類ヲ窒息セシメサルノ義務アリトス
此穴ノ大小多少ハ賃貸官衙ニ於テ之ヲ定メ賃借人若シ之
ヲ爲サ、ルカ若クハ之ヲ怠ルキハ賃貸官衙ニ於テ之ヲ行
ヒ其費用ハ賃借人ニ拂ハシムベシ

第十九條

賃借人若クハ其監視或ハ漁撈ヲ委託シタルモノ若シ漁業ニ關
スル法律勅令ニ違ヒ或ハ賃貸條約殊ニ本條約第三第四第五第

七第十一第十四第十六及第十七第十八ニ背キタルハ其都度違警罪ヲ以テ問ハレ百馬克(一馬克ハ我三錢余ニ當ル)以下ノ罰金ヲ課セラレ若クハ止テ得サルノ理由ナクシテ再ヒ右ノ罪ヲ犯セバ貸貸官衙ハ特ニ通知ヲ爲サスヲ直ニ解約シ或ハ該貸貸年度ノ終ヨリ六ケ月以前ニ之ヲ通知シ或ハ其適當ナリト見做シタル時間ヲ與ヘテ悉皆ノ貸貸物体及其使用權ヲ他ニ貸貸シ或ハ之ヲ管理シ其費用ハ罪ヲ犯シタル貸借人ヲシテ負擔セシムベシ

貸借人若クハ其内ノ一人ノ財產處分ニ關スル訟訴ヲ開キ或ハ債主ノ爲メニ其營業器具ヲ取り上ケラレタル場合ニ於テハ貸貸官衙ハ前ノ如キ處分ヲ行フノ權利アリトス

第二十條

此貸貸ノ費用殊ニ投票期及當票ノ廣告條約ノ締結ニ關スル裁判所ノ費用及契約印稅ハ貸借人ニ於テ之ヲ負擔スベシ

千八百何年何月何日 グムピンネンニ於テ

縣廳直稅官有地兼山林事務課

漁業組合

第九條 魚類ノ生育ヲ保護スルカ爲メニ適當ナル監視法及協議法ヲ設ケ又第十條ニ掲載シタルカ如ク漁業ト漁場ノ使用ヲ共ニスルカ爲メニ數漁場連合シテ成レル所ノ大漁區ノ漁權所有主ハ國君ノ許可ヲ經テ制定スベキ諸組合規則ノ準則ニ從ヒ漁業組合ヲ組成スルヲ得ベシ而シテ此ノ組合ニ於テハ該規則ノ明條ニ從ヒ總漁權所有主中ヨリ組合長ヲ選舉シテ組合ヲ代表セシムヘシ

漁業組合ヲ組成シ且組合規則ヲ制定スルニ際リテハ漁權所有主ハ該規則ノ認可ヲ仰シ以前ニ之ヲ聞知シ得ヘキハ勿論一人タリトモ異議ヲ唱フル者アル時ハ該組合ニ關係スル一郡若クハ數郡委員ノ協議ヲ經ヘキモノトス

國君ニ於テ此ノ組合ヲ組成スルヲ免許シテ之レヲ公布スルハ千八百七十二年四月十日ノ發布ニ係ル法律ノ明條ニ依ルヘシ

(參照) 千八百七十二年四月十日ノ法律第一條ニ依ルニ國君ヨリ發布シタル法律及其認可シタル諸規則類ハ直チニ官報ニ掲載シテ之ヲ公告スルモノナリ

漁權所有主協同一致シタル場合ニ於テハ其組合規則ヲ設クルハ唯該州太守ノ認可ヲ經ルヲ以テ足レリトス然レモ其組合區域數州ニ跨カルトキハ農務大臣ノ認可ヲ經ルヲ要ス

(參照) 第九條及第十條ニ基キテ組成シタル組合ノ監視ハ町村委員ニ於テ之ヲ行フモノトス

漁業組合ニ於テ此ノ町村委員ノ指圖ヲ以テ法律ニ違フモノト認ムル時ハ其指圖ヲ爲シタル日ヨリ起算シテ十四日以内ニ行政裁判廳ニ訟へ出ツルヲ得ヘシ

漁業組合ノ負擔ヲ分擔スルノ及利益ノ配當ニ關シテ爭議ヲ生スル時ハ組合長ニ於テ之ヲ裁定スヘシ此ノ裁定ニ對シテ異議アレハ十四日以内ニ町村委員ニ訴フヘシ町村委員ノ決議ハ假令不服者アルモ假ニ之ヲ實行スルヲ得ルモノトス

千八百七十七年十月十五日ノダモンチヒ官報ハエルビング漁業組合規則ヲ掲載セリ其他千八百七十八年八月十九日ノチユツセルドルフ官報ハウツタルエルストノ漁業組合規則ヲ掲載シタリ

第十條 漁業組合ノ目的ヲ擴張シテ營業上ノ經濟法ヲ共ニシ且漁場ヲ共用セント欲スル時ハ一名若クハ數名ノ組合員ノ發議ニ由リ左ノ場合ニ限リテ之ヲ許スヘシ

第一項 組合中ノ漁權所有者一致シタル時

第二項 内地漁業殊ニ堰斷セサル水中ニシテ一組合ニ專屬シ其漁權ハ其周邊ノ地主ノ所有ニ屬シ且ツ各個特別ニ漁撈スルカ故ニ到底水産濟經上宜シキヲ得ル能ハサル時

此ノ場合ニ於テハ一人タリトモ漁權所有主ニ異論者アレハ郡區委員ノ協議ヲ經ルヲ要ス

共同漁業上ノ利潤配當高ニ關シテ漁權所有主ノ協議熟セサルハ

ハ漁場各郡ノ價值ヲ鑑査シ其比例ニ應シテ配當額ヲ算出スヘシ其詳細ノ如キハ組合規則ニ於テ之ヲ定ムルヲ要ス
第一項及第二項ノ條規ニ從ヘハ第九條ニ示シタルカ如キ大漁區中ニ於テ漁場ノ經濟及使用上ノ便宜ノ爲メ漁權所有主ノ一部分協議シテ小組合ヲ設クルヲ得ヘシ

(參照)

某郡某川漁業組合規程準則

天佑ヲ保有シテ宇國王タル朕維廉千八百七十四年五月三十日宇國漁業律第九條及第十條ニ基キ某郡ノ郡會ノ贊議ヲ經關係者ハ意見ヲ問タル後勅令スルヲ左ノ如シ

第一條

某地ヨリ某地ニ至ル迄ノ何々川及某地ヨリ某地ニ至ル迄ノ某支流ノ漁權ヲ掌有ルス所ノ地主輩ハ魚類ノ保存上整育セル監視法及共同ノ方法ニ因リ且前記ノ漁場ノ共同經濟及使用ノ爲

メニ一組合ヲ組織ス

第二條

此漁業組合ハ某川漁業組合ト稱シ當時ノ組合長ノ住所ヲ以テ其位置ト定ム

第三條

組合員死去スルカ或ハ其漁權ヲ人手ニ渡スルハ此組合員ノ權利ハ其漁權ヲ受ケタルモノ、掌中ニ歸スベシ

第四條

組合員ノ増加シタルカ爲メニ組合區(第一條ヲ見ヨ)ヲ擴大シ或ハ其退去シタルカ爲メニ狹縮スルルハ總會議(第十條ヲ見ヨ)ノ決議ニ從ヒ州長ノ許可ヲ經ルヲ要ス

第五條

此組合ハ組合員中ヨリ六名(時トシテハ四名)ノ事務委員ヲ撰ヒ各一名ノ代理者ヲ置ク

三年毎ニ事務委員及其代理者ノ半數ヲ改撰ス第一回ハ抽籤法ヲ以テ改撰ヲ行ヒ爾後ハ任期ノ永キモノヨリ之ヲ改撰ス事務委員ヲ撰ビ或ハ其人ノ變更スルキハ組合長或ハ其代理者ニ於テ直ニ其趣ヲ監視廳ニ届出ベシ任期中事務委員ノ欠員シタルキハ次ノ總會ニ於テ之ヲ補欠ス其間ハ代理者ニ於テ其事務ヲ取ルベシ若シ代理者之ニ任スルヲ能ハサルカ或ハ退去シタルキハ組合長ニ於テ組合員中ノ一人ニ命ジテ其事務ヲ取ラシムルノ權アリ事務委員ハ其内ヨリ組合長及其代理者ヲ撰舉ス事務委員ハ時ヲ違ハス組合總會議ヲ召集シ(少クモ三名以上ヲ要ス)組合長或ハ其代理者ノ出席スルキハ決議スルノ權アリ議事ハ多數決ノ法ニ因ル若シ可否同數ナレバ組合長ニ於テ之ヲ決ス最初組合長及其代理者ヲ撰舉スルニハ假リニ事務委員ノ年長者ヲ議長ト爲ス

第六條

事務委員及其代理者ハ其居住地以外ニ於テ事務ヲ取リタルカ爲メニ總會ニ於テ定メタル費用及旅費ヲ受クルヲ得ベシ總會ニ於テ十分ノ報酬額ヲ許可セサルキハ事務委員任期中ノ報酬額ハ監視廳ニ於テ定ムヘシ

第七條

事務委員會議ニ於テ決議シタル議事録ハ組合長及筆頭ノ事務委員ニ於テ之ヲ記名スヘシ

第八條

事務委員ハ諸般ノ事件上組合員ノ代理者タルヲ得組合ノ名義ヲ以テ事ヲ爲スハ組合長ニ於テス其事故アルキハ其代理人ニ於テ之ヲ行フ金銀ノ受取證ニハ筆頭事務委員ノ記名ヲ要ス

第九條

各組合員ハ事務委員ニ撰舉セラレタルコトヲ承諾スルノ義務アリトス
次ノ事故アルモノハ事務委員タルコトヲ拒絕シ或ハ辞退スルコトヲ得

- (一) 長病ニ罹ル時
- (二) 直接ニ政務ニ従事スル時
- (三) 六十四年ノ老歳ニ至リタル時
- (四) 最後ノ三年間組頭ノ事務ヲ取リシ時
- (五) 其他總集會ニ於テ適當ナル理由アリト見做シタル關係ヲ有スル時

充分ナル辭退スヘキ原因ナクシテ撰舉ヲ拒ミ或ハ職務ヲ辭スルキハ組合ノ金庫ニ向テ二十六馬克以下ノ科料金ヲ拂ハシム

第十條

凡テ法律上有効ノ裁判ニ由テ公權ヲ失ハサル組合員ハ事務委

員ニ撰舉セラレ、コトヲ得ベシ事務委員及其代理者ヲ撰舉スルハ各組合員特別ニ之ヲ行フ第一ノ撰舉ニ依テ多數ヲ得ザリシキハ更ニ投票ノ多數ナル二人ノ中ニ付之ヲ撰舉セシム若シ投票同數ナルキハ組合長自ラ抽籤シテ之ヲ定ム其他ハ町村會議員ヲ撰舉スルノ法ヲ適用ス最初ニ總會ヲ開クキハ郡書記(戸長、郡委員、縣委員或ハラゾドドロスタイン(官名)ヲ以テ議長トナス

第十一條

左ノ場合ニ於テハ總會議ヲ開クモノトス

- (一) 經過シタル貸借年度ノ會計決算
- (二) 漁權或ハ土地ヲ買入ル、コトノ許可
- (三) 事務委員代理人及會計掛ヲ撰舉シ被撰ニ與ベキ報酬金額ヲ定ムコト(但シ第六條ヲ見ヨ)
- (四) 組合區ノ範圍ヲ變更スルコト

(第四條ヲ見ヨ)

(五) 事務委員ノ執行シタル事務ノ爲メニ生シタル新願ヲ決議スルヲ

(六) 組合員ノ出金ヲ公告スルヲ

(七) 毎年ノ總出入ノ豫算ヲ定ムルヲ

(八) 特別ニ漁者ヲ置キテ漁業ヲ營ミ或ハ漁場ヲ貸貸シ或ハ一時之ヲ停止(第十六條ヲ見ヨ)スルヲ決議スルヲ

(九) 仲裁々判人及其代理者ヲ撰擧スルヲ

(十) 組合規則ヲ變更シ或ハ組合ヲ解散スルヲ決議スルヲ

第十二條

總會ノ決議録ハ閉會後十四日內ニ事務委員ヨリ警視廳ニ届出ツベシ

第十三條

總集會ヲ分テ定期總集會及臨時集會トス定期總集會ハ組合設立及第一回事務委員撰擧會ヲ開キタル後三年毎ニ之ヲ行フ臨

時總集會ハ事務委員ニ於テ必要ト見做スカ組合員ノ三分一其目的ヲ書記シテ之ヲ請求シ或ハ監視廳ニ於テ之ヲ望ムキニ於テ之ヲ開ク

總集會ヲ招集スルコハ議スベキ事件ヲ記載シ該組合ノ公告ヲ記載スルニ定メ置ク處ノ新聞紙ニ依リ(第十九條ヲ見ヨ)且該組合區處屬ノ町村ニ於テ慣用スル處ノ公告法ヲ以テ之ヲ通知スベシ

此公告ト開會トノ間ハ少クモ十四日ヲ隔ツルヲ要ス

此集會ハ集會者ノ多少ニ係ラス決議スルノ權アリ可否同數ナレバ(第十條ニ掲ゲタル撰擧ノ場合ヲ除クノ外)組合長ノ意見ヲ以テ之ヲ決ス組合長ハ議長ノ位地ヲ占ム又總集會ハ直接ニ監視廳ヨリ招集セラル、トテ得此場合ニ於テハ監視廳ヨリ任命セラレタル委員ヲ以テ議長トス
總集會ヲ招集シタル以上ハ其集會セザル者或ハ相當ノ代理人

ヲ出サザル者ハ集會者ノ多數說ニ同意シタルモノト見做スヘキヲ豫定スルモノトス

第十四條

數人漁權ヲ共有スルキハ其總集會ニ於テ可否ノ投票ヲナス者ヲ定メ置キテ之ヲ事務員ニ通知シ置クヘシ
法人(ユリスチツエベルソ)商業會社同業組合及被後見者ハ其法律上ノ代人ヲ出スヲ得ル

妻ノ投票權ハ其夫ニ於テ之ヲ執行ス事故アル場合ニ於テハ投票權所有主ハ他ノ相當ナル人物ニ委任狀ヲ渡シ之ヲ代理セシムルヲ得ヘシ
如斯委任ヲ受ケタルモノハ其不在者一名ヲ代理スルニ止マルモノトス

第十五條

最初ノ總集會ニ於テハ組合員ノ員數ニ從テ可否ヲ決シ次會ヨ

リハ各漁權ノ評價ニ從テ投票權ノ範圍ヲ定ム

此目的ノ爲メニ各漁權ノ代價ヲ知ラシムル處ノ帳簿ヲ設クヘシ
漁權ノ價格ハ十馬克以下ハ四拾五入ノ法ニ從ヒ端數ヲ除クヘシ

此價格ヲ定ムルニハ組頭中ヨリ鑑識者二名ヲ撰拔シ組合長ノ命ヲ奉リテ之ヲ秤定セシム組合長ハ鑑識者ノ意見合ハサルキ之ヲ決ス漁權ノ最小價格ヲ有スルモノヲ以テ一位ト定メ之ト同價ヲ増ス毎ニ投票數ヲ増ス然レハ一人ニシテ總投票數三分一以上ヲ占ムルヲ得ス如斯帳簿ハ組合員ニ知ラシムルカ爲メニ一週間組合長ノ家ニ於テ之ヲ縦覽セシムベシ此評價ヲ定メタルキハ其所屬ノ權内ニ於テ慣用スル方法ニ依リ或ハ其組合ノ機關トナス新聞紙(第十九條ヲ見ヨ)ヲ以テ之ヲ公告スヘシ若シ之レカ變更ヲ乞フ者アレバ之ヲ公告セタル后四週間以内ニ組合長ニ當テ、請求書ヲ送ルベシ此時間ヲ經過スレバ組合長

ハ其落手シタル請求書ヲ監視廳ニ送附スベシ監視廳ニ於テハ其撰擧スベキ鑑識者ノ意見ヲ問ヒタル后其請求ヲ判決スベシ
 漁權ノ代價ヲ秤定シタル其元帳ヲ調製スル費用ハ組合ニ於テ負担スベシ回復ノ請求ニシテ成立サリレキハ其所有ニ關スル費用ハ回復請求者ニ於テ監視廳ニ上納スベシ確定シタル元帳簿ヲ修正スルハ事務委員ニ於テ之ヲ決シ監視廳ヨリ之ヲ命ス修正事務ニ關スル費用等ハ元帳確定ノ場合ニ行ベキ法ニ從フベシ

第十六條

各組合員ハ其組合區内ニ於テ自ラ漁業ヲ行フヲ得ベシ
 漁權ヲ貸貸スルハ通常投票多數ノ法ヲ以テス然レモ事務委員ハ總會ノ同意ヲ得テ特別ナル漁夫ニ命シテ漁業ヲ行ハシメ或ハ一時漁撈ヲ停止セシムベキノ權アリ
 漁業監視人ヲ置キ漁業犯罪者ヲ探求確定スルガ爲メニ賞金ヲ

掛ケ其他種々ノ方法ニシテ苟モ漁業ヲ振作スルニ足ルベキモノハ事務委員ノ權内ニ於テ之ヲ施行スルヲ得又事務委員ハ貸貸ノ目的ヨリシテ組合漁業區ヲ分割シテ數小部分ト爲スヲ得ベシ

漁權貸貸ノ約束ヲ定ムルハ事務委員ノ權内ニアリ
 事務委員ハ貸借人が能ク經濟的ノ漁業ヲ營ミ得ルカ否ヤニ注意シ且適當ナル魚苗ヲ放養シ及魚卵休養區ヲ設ケシムルヲ要ス

第十七條

漁權ヲ貸借シタルガ爲メニ得タル處ノ收入金ハ組合ノ費用ヲ引キ去リタル後漁權ノ評價ニ準シテ組合員ニ分配スベシ
 漁權所有主ノ變更シタル場合ニ於テ本帳ヲ書キ改ムルハ新權利者ヨリ組合長ニ報道スベシ

第十八條

總會ニ於テ組合ノ分担額ヲ決議シタルキハ(第十一條ヲ見ヨ)事務委員ハ第十七條ノ利益金配當ノ比例ニ準シ各組合員ノ負担額ヲ定ムベシ

第十九條

組合ヨリ發スル處ノ報告ハ何々縣何々川漁業組合ノ名義ヲ用ヒ組合長之ニ記名スベシ
公衆ニ對スルノ公告ハ何々ノ縣ノ官報何々郡ノ達某新聞紙ニ於テスルコトヲ定メ置クベシ

第二十條

組合員ノ内ニ於テ土地ノ所有權土地ヲ使用スル權利及範圍其他ノ權利殊ニ種々ノ特別ナル權利ニ關シテ爭議ヲ生シタルハ普通ノ裁判所ニ於テ之ヲ判定スベシ之ニ反シテ他ノ訴願則組合共同ノ事件或ハ其内ノ一己人カ組合規則ニ依テ定メタル權利ヲ侵シタルニ當リ組合規程ニ於テ別ニ定メタル明文ナク

或ハ法律上他ノ官衙ノ裁定ヲ仰クベシトノ明文ナキモノハ組頭ニ於テ之ヲ審問判決スベシ
判決ニ對シテ其不服ヲ訴ベキ官衙ノ定メナキ場合ニ於テハ仲裁人判ノ判決ヲ乞フコトヲ得ベシ若シ此判決ヲ乞ハント欲ス

レハ事務委員ノ判決ヲ受ケタル日ヨリ起算シテ十四日以内ニ其趣ヲ組合長ニ報道スベシ仲裁人判ノ費用ハ曲者ニ於テ負擔スベシ

仲裁人判ハ總集會ノ代理者二名及三名ノ仲裁人ヲ以テ組織ス其任期ハ各三ヶ年監視廳ニ於テハ右ノ内ヨリ撰拔シテ裁判長ヲ命ス總テ其居住地ニ於テ町村吏ニ撰バルベキ資格ヲ有スル者ハ右ノ仲裁人ニ撰バル、コトヲ得ベシ

仲裁人判ハ裁判長之ヲ招集シ多數說ニ依テ之ヲ判決ス
仲裁人判人カ(事故アリテ)拒絕シタルキハ代理者中ヨリ之ヲ補ヒ或ハ必要ナル場合ニ於テハ被撰權ヲ有スルモノ、内ヨリ撰

拔シテ監視廳ヨリ之ヲ定ムベシ

第二十一條

此組合規程ヲ變更スルハ必ス國君ノ許可ヲ經タル後ニ於テス
ベシ

記者曰第二十一條ノ前ニ於テ左ノ個條ヲ挿入スルヲ可トス

第二十一條

此漁業組合ハ政府ノ監視ヲ受クベシ

直接ニ此監視ヲ行フモノハ某郡々長ニシテ更ニ其上ノ監視ヲ
爲スモノ即控訴廳或ハ終審官衙ハ何々縣ノ縣廳ナリ初審廳ノ
命令或ハ判決ニ對スル訴願ハ其申渡ヲ受ケタル日ヨリ起算シ
テ十四日以内第二官衙或ハ終審官衙ニ提出スルヲ要ス

千八百八十三年八月一日ノ公布ニ係ル行政裁判所職務章程第
百一條ニ據レハ組合ニ係ル費用ヲ負擔スル義務及共同漁業ノ
利潤ヲ分収スルノ權利ニ關シテ爭議ヲ生スルキハ組合長ニ於

テ之ヲ處分スベシ若シ此ノ處分ニ對シテ抗論セント欲スル者
ハ二週日以内ニ郡(市)委員ニ告訴スベシ委員處分ハ更ニ告訴ス
ルト否トヲ以テ執行ヲ停止スルノ限リニアラス

免許鑑札

第十一條 他人ノ漁業區内ニ入り或ハ自己ノ漁業區或ハ自由漁業區
ノ境界ヲ超ヘテ漁業ヲ營ム者ハ次條ノ例規ニ準シテ下附シ且認認
ヲ經タル免許鑑札ヲ所有セザルベカラズ而シテ此ノ鑑札ハ其免許
ヲ得タルヲ証明セシカ爲メニ營業ノ際必ス之ヲ携帯シテ監漁官
及地方警察官ノ請求ニ應シテ之ヲ示スヘキモノトス

第十二條 免許鑑札ハ漁權所有主若クハ漁場賃借人カ其賃借期限内
ニ於テノミ交附ヲ請フヲ得ヘシ

組合ニ所屬タル漁業區内ニ於テ漁場ノ經濟及利用ヲ共ニスルニ際
シテハ其組合長ハ各漁權所有者ノ總代タルヘシ
免許鑑札ニハ本人ノ資格一箇所若クハ數箇所ノ漁業區ノ字及三ケ

年ヲ超過セサル有効期限ヲ記載スヘシ且漁具ノ種類員數及捕魚ノ際使用スル船數ニ關スル制限ヲ附記シ置クモノトス
下附スヘキ免許鑑札ノ員數ハ堰斷セサル諸水ヲ管理スル監視廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(參照) 本條ノ末項ハ千八百八十年三月三十日ノ法律第二條ヲ以テ増補セタル所ナリ

第十三條 漁業鑑札ハ左ノ認證ヲ經ルヲ要ス

第一項 組合ノ漁業區内ニ屬スル漁場ニ於テ營業セント欲スレハ漁業監視ノ任ニ當ルヘキ組合長第九條ノ認證ヲ要ス

第二項 其他ノ水中ニ於テ漁業ヲ營マント欲スル者ハ其居住地ヲ管轄スル地方警察署ノ認證ヲ要スルモノトス

或ル官衙若クハ官吏ヨリ其職權内ニ於テ町村長若クハ免許鑑札認證ノ爲メニ特撰シタル漁業組合長ニ下附スヘキ漁業免許鑑札ハ其組合規程ニ於テ特ニ定メタル約束ナキ以上ハ本條ニ掲ケタル例規

ニ從フノ限リニアラス

第十四條 免許鑑札ノ認證ハ唯請求者ノ署名ノ真偽如何ヲ證認スルニアリテ請求權ノ有無ヲ保證スルニアラス

第十五條 地方警察署ニ於テ免許鑑札ヲ認證スルハ印稅及手数料ヲ收メサルモノトス

然レモ組合漁業區ニ關スル免許鑑札ノ認證ハ組合ニ對スル眞加金トシテ各壹馬克ヲ拂ハシムルヲ得ヘシ尙ホ其細則ハ各組合ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第十六條 凡ソ自己ノ權利若クハ賃借人タルノ權利ヲ以テ堰斷セサル水中ニ於テ漁業ヲ營ム者ハ其監視廳ニ又組合漁區ニ於テセント欲スル者ハ其組合長ニ豫メ其趣ヲ申出別ニ印稅及手数料ヲ拂ハスシテ其證書ヲ受領シ營業ノ際常ニ之ヲ携帯スヘシ

第十七條 漁權所有主漁權賃借人若クハ漁業鑑札所持人ノ現在ニ於テ漁權ヲ補助スル者ハ別ニ證書ヲ所有スルヲ要セス

第十八條 千八百五十九年七月二日ノ發布ニ係ル破墨隣州内ニ在ル
 カイデル河ノ一部分ハツフ及其河口ノ漁業ニ關スル條例第四十一
 條及千八百六十五年八月三十日ノ發布ニ係ルストラールズノ縣
 ノ漁業規則第四十九條ハ本法律第十一條乃至第十七條ニ換用スヘ
 キ効力ヲ存スルモノトス然レモ右ノ兩條中ニ定メタル監漁長(マチル
 フヒツシユ)ノ職務ハ組合漁區ニ於テ組合規則ニ基キ其漁業ノ監視ニ
 任シタル組合長(第九條)ニ引渡スヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テ鑑札(契
 符、漁符)ノ下附及認證ハ本法律第十五條第二段ノ規則ヲ適用スヘシ
 堰斷セサル水中ニ於ケル漁業免許鑑札ヲ下附スヘキ員數ハ監視廳
 ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(參照) 本條第二段ハ千八百八十年三月三十日ノ法律ヲ以テ追補
 シタル所ニ係ル

第十九條 捕魚ノ爲メニ漁具ヲ裝置シ漁者其場所ニアラサル時ハ其
 捕魚裝置ノ標示

漁者ノ誰某タルヲ知ラシムルカ爲メニ一定ノ標示ヲ爲シ置カサル
 ヘカラス此ノ標示ヲ爲ス方法ハ組合漁業區ニ於テハ組合規程ニ由
 リ他ノ漁業區ニ於テハ警察規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

魚類交通妨碍物ノ排除

第二十條 捕魚ノ目的ヲ以テ水流中ニ漁具ヲ裝置スル者ハ平水ノ時
 兩岸ヨリ測定シタル水面ノ半徑以上ヲ遮斷シ且右ノ如キ漁具ヲ接
 近裝置シテ魚類ノ交通ヲ妨碍スルヲ得ス

他國トノ境界ニ在ル江河ニ於テハ隣國ニ於テ全權ナル制規アル時
 ニ限リテ右ノ規則ニ從ハシム又農務大臣ハ所々ニ他國ノ領地ヲ交
 ヘタル江河中ニ於テ一時本規則ノ執行ヲ停止セシムルノ權利アリ
 トス

従前ヨリ使用シ常備漁具ニシテ特別ナル權利ニ附帯シタルモノハ
 本規則ヲ遵奉スヘキノ限リニアラス然レモ他ハ總テ此ノ規則ニ準
 據セサルヘカラス若シ此ノ規則ニ抵触スルモノアレハ此ノ法律ノ

發布後遲クモ二ケ年内ニ其所有主ニ於テ之ヲ改正スヘシ若シ必要ナリト見做ス時ハ行政上ノ處分ヲ爲スヘシ

(參照) 千八百八十年三月三十日ノ法律第五條ニ據レハ「ツルピン」

水車ノ爲メニ魚類ノ徒死スルヲ防ガンカ爲メニ工務大臣及

農務大臣ハ右ノ如キ水車ノ所有主ヲシテ自費ヲ以テ水車前ニ

欄柵ヲ設ケシムルノ權利アリトス

有害漁具ノ禁止

第二十一條 漁撈ノ際有害物及爆裂藥(魚類ヲ麻醉セシメ或ハ之ヲ盡

殺スベキ毒餌藥料及爆發質)ヲ使用スルヲ禁止ス

漁業警察

第二十二條 州會ノ贊議ヲ經タル後國君ノ勅令ヲ以テ左ノ條件ヲ制

定スヘシ

第一項 寸尺ト重量トニ注意シテ濫リニ捕獲セシムヘカラサル水

族ノ種類

第二項 全然漁業ヲ禁止シ或ハ漁場ノ一部分ニ限リテ漁撈ヲ禁止

スヘキ時期及制限スヘキ漁具ノ種類及魚介ノ種類

第三項 漁業ノ際使用スヘカラサル方法及器具

常置漁具(第五條及第二十條)ヲ使用スヘキ特權ハ此ノ法律ノ爲メ

ニ變更スルヲナシ又他ノ漁具ト雖ヒ畜ニ其種類ノミヲ用ヒテ漁

撈ヲ爲ス者ハ此ノ法律ニ從ハシムルノ限リニアラス

第四項 許可スベキ漁具ノ性質及之ヲ使用スルノ制限

第五項 漁者交互ノ妨害ヲ除キ交通船ノ便利及監漁官ノ監視ヲ容

易ナラシムルノ方法

第六項 海藻類ノ採集ヲ禁止スベキ場所及停止スヘキ期節

以上ノ規則ニ違背シタル者ハ國貨百五十馬克以下ノ罰金ヲ課シ或

ハ拘留ニ處シ其犯罪ニ使用シタル漁具ヲ沒収セラルヘシ

本條ニ記載シタル國君ノ勅令ヲ布告スルニ至ル間ハ此等ニ關スル

従前ノ法律規則ハ其効力ヲ有スルモノトス

休漁期及魚兒ノ保護

第二十三條 第二十二條ニ準シテ設クヘキ休漁期ハ此ノ法律ニ掲ケタル魚類ノ他ノ保護法ヲモ参照シテ之ヲ制定シ魚類ヲ保存スルニ必要ナル的ニ止メ漫リニ漁業ヲ妨碍セサルヲ要ス

魚類保存上殊ニ緊要ナル漁場ニ於テ日曜日及祭日ヲ除クノ外別ニ漁業ヲ禁止セントスル時ハ每週三日ヨリ多カルヘカラス

右等ノ場合ニ於テハ或ル魚類ノ捕獲及或ル漁具ヲ使用スルコトハ全体漁期ヲ通シテ之ヲ禁スルコトヲ得

(参照) 獨逸國人若クハ獨逸國ノ船手ニ備入レラレタル外國人ニシテ獨逸連邦參議院ノ同意ヲ經テ皇帝ヨリ發布シタル勅令ニ背キ制限及禁止ノ時日内ニ於テ英國グリニオンウイチ天文臺ヨリ起算シテ東經五度西經十七度及北緯六十七度乃至七十五度ノ位地ニ於テ海狗ヲ漁獲シタル者ハ五千馬克以下ノ罰金ヲ課セラル、モノナリ

第二十四條 時期ヲ定メテ捕獲ヲ禁シタル魚類或ハ寸尺若クハ重量ニ由リテ捕獲ヲ禁シタル魚類ニシテ偶々漁者ノ手ニ入ルコトアレハ直ニ之ヲ水中ニ放還スヘシ

第二十五條 第十九條乃至第二十四條ノ規則ハ堰斷水中ノ漁業ニ適用セズ

第二十六條 一定ノ寸尺或ハ重量ニ充タサルモノヲ捕獲スルコトヲ禁シタル魚類ハ其禁止ノ範圍内ニ於テ之ヲ店頭ニ排置シ販賣シ或ハ運搬スルコトヲ得ズ

第二十七條 養魚場ノ魚兒ニ限リ第二十四條乃至第二十六條ノ規則ヲ適用セズ

監視廳ニ於テ學術上ノ研究或ハ公益ニ關スル試驗及人工養魚上ノ目的ニ必要ナリト認ムルコトアレハ適當ナル取締法ヲ設ケテ第二十四條及第二十六條ノ例外ナル特許ヲ與フルコトヲ得ヘシ

堰斷水(第四條)ノ所有主ハ養魚ノ目的ヲ以テ魚苗ヲ販賣シ且運搬ス

ルヲ得ヘシ

第二十八條 休漁期內ニ在リテハ此ノ法律ヲ以テ禁止セザリシモノト雖モ堰斷セサル水中ニアル常置漁具(第五條及第二十條)ハ除去シ或ハ移置スルヲ要ス
右等ノ漁具ノ所有主ハ時宜ニ由リ行政ノ處分ヲ受クルコトアルヘシ
魚類ノ蕃殖ヲ害セサルモノト見認ムル時ハ縣令ニ於テ本條第一段ノ制限ヲ解クコトヲ得

(參照) 本條第三段ハ千八百八十年三月三十日ノ法律ヲ以テ追加セラレタルモノナリ

第二十八條ハ縣令ニ特許ノ職權ヲ與ヘテ法律ヲ圓滑ナラシムルモノナリ然レモ休漁期內ニ於テ常置漁具ノ使用ヲ許可スルニハ先ツ私權上ニ關スル漁權ノ性質ヲ調査シ又魚類蕃殖ノ利害ヲ檢定シ且鰻魚ヲ捕獲スルノ便否ニ注意セサルヘカラス故ニ左ノ規則ニ據ルヲ要ス

(イ) 毎週ノ休漁期及冬期休漁期ニ於テハ常置漁具ヲ使用スルコトヲ許可セス

(ロ) 春期ノ休漁期內ニ在リテハ常置漁具ヲ使用シテ鰻魚ヲ捕獲スルコトヲ許ス然レモ他ノ魚類殊ニ昇降魚ヲ害スルコト大ナレハ之ヲ許可セス

(ハ) 春期休漁期內ニ於テハ每週始メテ三日ヲ以テ常置漁具ヲ使用シテ鰻魚ヲ捕獲スルコトヲ許可スヘシ

(ニ) 鰻魚ニ限リテ許可スルモノナレハ漁者ハ鰻魚ニ他ノ貴重ナル魚類ヲ混シケルキハ直チニ之ヲ水中ニ放還スヘシ

禁魚區

第二十九條 普通ノ漁業區ニ在リテハ區內漁權所有者又組合漁業區ニ在リテハ組合長ノ承諾ヲ經タル後左ニ掲ケタル場所ヲ以テ禁漁區トナスコトヲ得

第一項 漁業鑑識者ノ意見上魚類ノ放卵及生育ニ最適當ナリト認

定シタル場所(魚卵禁漁區)

第二項 魚類ノ海中ヨリシテ湖河等ニ昇ラントスル入口ニ當ル海河ノ一部分(魚類禁漁區)

禁漁區ハ農務大臣ノ達ヲ以テ之ヲ定ム若シ政府ニ於テ漁權ヲ有スル場所ヲ以テ禁漁區ト爲サントスル時ハ特ニ大藏大臣ニ稟議スルヲ要ス

該達ハ漁業關係者ニ公達シ場所ノ景況ニ從ヒ成ルヘク其禁漁區タルヲ表スル標示ヲ設置スヘシ

第三十條 禁漁區内ニ於テハ休養ノ目的或ハ公益經濟上ノ目的ヲ害スルモノトシテ監視廳ヨリ許可セサル方法ヲ以テ魚類ヲ捕獲スルヲ禁ス

第三十一條 魚卵禁漁區内ニ於テハ水底ヲ掃除シ蘆葦香蒲等ヲ刈取リ砂礫泥土ヲ掘採シ其他魚類ノ蕃殖ヲ害スルモノハ魚類放卵期中ハ溢水防禦及耕作上止ムヲ得サル場合ノ外總テ之ヲ禁止スヘシ右

ノ休養ニ關スル監視保護上ノ細則ヲ必要ナリトスル場合ニ於テハ縣廳ノ布達ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

(參照) 千八百八十三年八月一日ノ行政廳及行政裁判所職務章程第九十八條第一項ニ據ルニ此ノ如キ布達ハ縣委員會ノ決議ヲ以テ制定スルモノナリ

第三十二條 禁漁區ハ成ルヘク自由漁區ノ一部分或ハ全ク政府ニ於テ漁權ヲ掌有スル漁場若クハ本法律第七條ニ據リテ漁權ヲ町村ニ附シタル漁場ノ一部分ニ就キテ之ヲ撰定スヘシ

右等ノ場合ニ於テハ漁業ヲ停止シタルカ爲メニ他ニ賠償ヲ與フヘキノ限リニアラス

魚類保護ノ爲メ他ノ湖河ヲ以テ禁漁區ニ充ツルノ必要ナル場合ニ於テハ禁漁期内吾權利ヲ執行スルヲ停止スルカ故ニ國庫金ヲ以テ其損害ヲ全償スヘシ若シ此ノ金額ニ就キテ協議ノ熟セサルヲ以テハ裁判上ニ於テ之ヲ決定スヘシ堰斷シタル漁場ニ於テハ所有主

ノ意見ニ反對シテ禁漁區ヲ設ケ或ハ之ヲ漁區内ニ編入スルヲ得
ス

第三十三條 從來ノ法律及勅令ニ由リ禁漁ノ目的ヲ以テ各種ノ漁撈
ヲ停止シタル河海ノ諸部ハ此ノ法律ニ所謂ユル禁漁區トシテ之ヲ
繼續セシメ本法律第二十九條乃至第三十一條ノ規則ニ從ハシム
第三十四條 禁漁區ヲシムルノ必要ナラサルニ至レハ農務大臣ノ
達ヲ以テ之ヲ廢止スヘシ此ノ場合ニ於テハ漁權ノ關係ハ舊ニ復セ
シム然レモ若シ國庫金ヲ以テ漁權ヲ全償シタル場合ニ於テハ其漁
權ハ全ク政府ニ歸スルモノトス

魚道

第三十五條 本法律ノ布達後本法律ノ範圍内ニ屬スル水中ニ於テ堰
堤水閘水車等ヲ設置シテ昇降魚類從來ノ通路ヲ妨碍スル者ハ自費
ヲ以テ魚道ヲ設置シ且之ヲ保存スルノ義務アル者トス
左ノ場合ニ於テハ此ノ規則ノ例外許可ヲ爲スヲアルヘシ然レモ此

ノ許可ハ何時ニテモ取消スヲ得ヘシ

第一項 既ニ在來ノ工事ニ由リ昇降魚類ノ通路ヲ妨碍シ或ハ他ノ
原因ニ由リテ一時之ヲ閉塞シタルモノ

第二項 新タニ起スヘキ工事ノ目的唯一時ノ事ニ止マリ暫時ノ後
必ス之ヲ除去スヘキモノ

魚道ノ構造法使用法及其例外ノ許可ニ就キテハ之ヲ許可スヘキ
官廳ニ於テ豫メ鑑識者ヲシテ之ヲ檢査セシムヘシ右ノ官廳ノ許
可ヲ要セサル場合ニ於テハ監視廳ニ於テ之ヲ定ムヘシ

(參照) 千八百八十三年八月一日ノ行政廳及行政裁判所職務章程
第九十八條第二項ニ據ルニ魚道設置ノ方法ヲ許否スルハ縣委
員會ノ決議ニ由ルモノトス

第三十六條 天然ノ湖河ニ設置シタル水閘堰堤其他全ク昇降魚ノ通
行ヲ遮斷シ若クハ著シク之ヲ妨碍スヘキ築建物ノ所有主ハ左ノ場
合ニ於テ魚道ヲ布設スルノ義務アルモノトス

第一項 政府ニ於テ魚道ノ布設ヲ公益ト見認ノル時
 第二項 右等ノ建築物ノ上流若クハ下流ニ於テ漁業ヲ營ムノ權利
 ナ有スル一個人若クハ組合ヨリ魚道ノ布設ヲ請求シ縣廳ニ於テ
 此ノ方法書ヲ堰水權所有主ニ示シタル後右ノ請求ヲ許可シタル
 時

(參照) 千八百八十三年八月一日ノ行政廳及行政裁判所職務章程
 第九十八條第二項ニ據ルニ此等ノ場合ニ於テ魚道ノ可否ヲ判
 定スルハ縣委員會ノ任ナリトス

第三十七條 第三十五條及第三十六條ノ規則ハ左ノ各項ニ於テハ適
 用セサルモノトス

- 第一項 堰斷セサル水中(第四條)
- 第二項 人造水路及直接ニ之レニ附屬シ或ハ其一部分ヲ形成スル
 天然水中
- 第三項 排水堰水閘等ノ如キ土木ニシテ外部ヨリ侵入スル潮水ヲ

防遏スルカ爲メニ低地ニ設置シタルモノ或ハ將來之ヲ設置スル
 時

第三十八條 第三十六條ニ掲ケタル土木ノ爲メニ堰水權ヲ妨害セラ
 ル、トアレハ該起業者ヨリ其損害ヲ全償スヘシ
 然レモ魚道ヲ布設シタルカ爲メニ將來漁業ノ利益ヲ減損スルトア
 ルモ其賠償ヲ爲サ、ルモノトス

第三十九條 漁權所有主或ハ組合ニ於テ魚道ヲ布設セントスル時ハ
 必ス縣廳ノ認可ヲ經ルヲ要ス而シテ縣廳ニ於テ此ノ起業草案ヲ檢
 査スルニ際リ河岸水上及通船ノ警察上ニ關係アルヤ否ヤニ注意ス
 ヘキハ勿論此ノ魚道布設ノ爲メニ堰水權所有主ノ意ニ反シテ不
 要ナル魚道ヲ布設セシメサルトニ注意スヘシ

第四十條 政府ニテ布設スヘキ魚道又ハ縣廳ノ認可ヲ經タル起工草
 案ニ於テ定メタル條規ニ從ヒ漁權所有主ニ於テ布設スヘキ魚道ノ
 爲メニ必要ナル土地ハ布設者ニ於テ其全償ヲ負擔シテ地主ヨリ之

ヲ買上クヘシ
所有地買上及賠償金額各地方ニ於テ湧水防禦ノ爲メニ土地ニテ
買上ル時ノ賠償法ニ準シテ之ヲ取扱フヘシ

第三十六條ノ場合ニ於テ賠償金額ヲ定ムルモ亦同シ

(參照) 本條第二項ニ掲ケタル賠償法ハ千八百十一年十一月十五

日及千八百六十七年二月九日ノ湧水防禦條例ニ示シタルモノ

ヲ指スモノトス

領主ト人民トノ關係ヲ調理シ土地ニ關スル負擔ヲ解キ土地分

合及排水灌漑等ノ爲メニ特別ナル法律ヲ以テ定メタルモノハ

此ノ賠償法ヲ行フノ限リニアラス

第四十一條 縣廳ニ於テハ各般ノ利益ヲ害スルコト寡ナキ時ヲ計リ毎年何

月何日ヨリ何月何日マテ魚道ヲ閉塞スヘシトノ制規ヲ定ムヘシ

(參照) 魚道閉塞命令ニ對スル訴願ハ農務大臣ニ出スヘシ千八百

八十三年八月一日ノ行政廳及行政裁判所職務章程第九十八條

第三項ニ據ルニ魚道開閉時ノ期ヲ定ムルハ縣委員ノ判決ニ由

ル魚道ノ上下流幾何ノ距離内ニ於テ魚業ヲ禁止スルモ亦同シ

第四十二條 魚類ノ通行ノ爲メニ設ケタル魚道ニ於テハ各種ノ漁具

殊ニ魚箔網罟等ヲ懸垂シ或ハ挿入スルコトヲ禁ス其他官廳ヨリ土地

ノ狀況ニ由リテ定ムヘキ魚道ノ上下流一定ノ距離内ニ於テハ魚道

放開ノ期中各種ノ漁撈ヲ禁止ス若シ此ノ禁止ノ爲メニ漁權所有者

ノ權利ヲ損スルコトアレハ其損失ヲ全償スヘシ

第四十三條 農業上若シハ工業上ノ排棄物ニシテ漁場中ニ入リテ他

人ノ漁權ヲ妨害スルノ性質ヲ有スルモノハ其有害的ノ分量ヲ漁場

中ニ投棄シ誘道シ或ハ注流セシムルコトヲ許サス

農業上若シハ工業上ノ利益極メテ浩大ナル場合ニ於テハ此等ノ物

質ヲ水中ニ投棄シ或ハ誘導注入セシムルコトヲ許可スルコトアルヘシ

然レモ此際ニ於テハ土地ノ狀況ニ由リ工事ノ所有主ニテ可及的

漁業ノ妨害ヲ防クニ適當ナル方法ヲ設ケシムヘシ

本法律ノ發布以前既ニ設立シ或ハ前項ニ準據シテ許可セラルヘキ農場或ハ工場ノ汚穢物ヲ放流シテ湖河ノ魚類ヲ盡滅シ或ハ著シク其蕃殖ヲ害スル時ハ其損害ヲ蒙リタル漁權所有主ノ請求ニ由リ行政上ニ於テ農工場所有主ヲシテ其職業ヲ妨害スルコトナクシテ可及的漁業ノ損害ヲ減少スルニ適當ナル方法ヲ設ケシムヘシ此ノ如キ方法ヲ設ケルニ必要ナル費用ハ該農場若クハ工場所有主ニ對シテ請求者ヨリ仕拂フヘシ

請求者ハ農工場所有主ノ需メニ應シテ豫メ右ノ方法ヲ設ケルノ費用ヲ支辨シ或ハ保証ヲ設ケヘシ

本條第二段ニ掲ケタル汚穢物放流ニ係ル許可並ニ第三段ノ成規ニ從ヒテ處理スヘキ汚穢物ハ千八百六十九年六月廿一日ノ公布ニ係ル北獨逸聯邦職業條例第十六條(聯邦法律類纂第二百四十五葉)ニ於テ許可ヲ經テ建設スヘキ義務アル場所ト稱スルモノ、排棄物ニ屬スル時ハ該場ノ許可上ニ於テ定メタル法規ニ從ヒテ之ヲ處分シ他

ノ場合ニ於テハ水車工場ノ水ヲ堰積スルコトヲ許スカ爲メニ設ケタル法規ニ準シテ之ヲ處分スヘシ

第四十四條 堰斷セサル水中ニ於テ亞麻及大麻ヲ浸製スルコトヲ禁ス縣廳ハ土地ノ狀況ニ由リ相當ナル浸製溝ヲ設ケルニ便ナラス堰斷セサル水中ニ於テスルニアラサレハ一町村若クハ一地方ニ於テ亞麻及大麻ヲ製造スルコト能ハサル場合ニ限り一時例外ノ特許ヲ與フルコトアルヘシ然レモ此ノ特許ハ何時ニテモ取消スルコトヲ得ルモノトス

(參照) 千八百八十三年八月一日ノ行政廳及行政裁判所職務章程第九十九條第二項ニ據ルニ此ノ特許ヲ與フルト否トハ縣委員會ノ決議ニ從フモノトス

有害動物殺獲權

第四十五條 漁權所有主ニハ銃炮ヲ用ヒスルヲ水獺、鷺、鷓鴣、魚狗、鴨、鵝及鴨、鳩ヲ殺獲シ且己レノ所有ト爲スコトヲ得ヘシ

各地方ニ於テ從來ノ法律上漁權所有主ニ有害鳥獸ヲ殺獲スルコトヲ
許スノ程度更ニ廣ケレハ尙ホ從前ノ法律ヲ適用スヘシ

漁業監視

第四十六條 本法律文中監視應ト稱スルハ其所轄縣廳ヲ指スモノト
ス

内地漁業、禁漁區及魚道ノ取締ハ特ニ政府ヨリ任命シタル官吏(即監
漁長及監漁官)ヲ以テ之ヲ執行セシム又漁權所有主、漁業組合及町村
ニ於テ設ケタル監視人ハ本法律ノ範圍内ニ於テ該官吏ノ命令ヲ奉
スルノ義務アルモノトス

(參照)

細勒西縣監漁長職務章程

第一條 監漁長ハ細勒西府内ニ居住スヘキモノトス

第二條 監漁長ノ監視區ハ本縣管轄地内トス

第三條 監漁長カ直接ニ命令ヲ受ケ及ヒ其報告ヲ爲スヘキ官

衙ハ縣廳ナリトス

第四條 漁監長ハ政府ノ官吏ノ權利及義務ヲ示シタル處ノ規
則ヲ遵奉セザルベカラス此故ニ監漁長ハ政府ノ許可ヲ經ス
シテ他ニ職務ヲ奉シ副業ヲ營ムヲ得ス且賜暇ヲ得サレハ其
管轄區ヲ去ルコトヲ得ス監漁長ハ其監視ノ下ニ立ツ處ノ人物
ヨリ一切贈物ヲ請ルヲ得ス

第五條 監漁長ハ現行及將來發布スヘキ漁業警察的ノ法律規
則ヲ熟知シ懇ロニ之ヲ執行スヘキモノトス

第六條 漁業ヲ監視スルニ際シ監漁長ハ其依托セラレタル監
視區内ニ於テ縣廳ヨリ時々達スヘキ細則ヲ遵奉スヘシ殊ニ
其注目スヘキモノハ規則ニ違ヒタル漁具及禁止シタル漁撈
法ヲ使用スルモノアルヤ否禁漁區内ニ於テ漁撈ヲ營ミ又許
可証ヲ所持セサルモノアルヤ否及休漁期ニ注意スヘシ要ス
ルニ現行規則ニ於テ許可シタル處ノ方法ニ非ラサレハ漁業

ヲ管マシムヘカラス此故ニ漁者ノ網罟及其他ノ器具ハ陸上ニ於テモ又之レヲ検査スルヲ得ヘシ且市場ニ於テ成規ノ寸尺ニ至ラサル魚類ヲ店頭ニ排列シ販賣或ハ運搬スルモノヲ検査スヘシ兼テ反則者多キ漁業區タル事ヲ知レハ時々臨時ノ検査ヲ行ヒ反則者アル事ヲ發見スレハ直ニ之ヲ取押ヘテ其審査ヲ爲シ所轄警察所或ハ裁判所ノ檢事局ニ通知スヘシ報道ヲ受ケタル反則事件ハ之レカ表ヲ造リ此事件ノ完結シタル後ニ其表内ニ其趣ヲ記載スヘシ

第七條 監漁長ハ常ニ漁業ヲ獎勵スル事怠タル可ラス漁者若シ不適當或ハ有害ナル漁具或ハ方法ヲ以テ漁撈スル者アレハ之ヲ説諭シ適當ナル方法ヲ指示シ且漁業協會及漁業組合ヲ設ケ漁道ヲ設置スル事等ヲ進ムヘシ若シ漁者ノ請願及訴願アレハ之ヲ受理シ其他漁業ノ種類及範圍器具ノ種類及員數漁獲ノ多少水産製造法ノ種類(鹽藏 煮製カヒヤ(鹽藏 鱈 鱈 肝

油肥料等ノ製造等ニ關シ絶エズ統計ヲ採集シ成ヘク漁業者ノ人口及營業ノ景況ヲ明瞭ナラシムヘシ殊ニ其注目スヘキハ何等ノ方法ニ因レハ漁業ヲ勸奨スルニ適當スルカニアリ而シテ其意見ヲ縣廳ニ具伸スヘシ

第八條 職務旅行ヲ爲スニ當リ監漁長ハ必ス日記ヲ調整スヘシ而シ其内ニハ其巡回シタル處ノ水面及場所漁獲ノ多少風雨及其漁業上ノ景況其他注目スヘキモノト認メタルモノハ悉ク記載スヘシ而シ此日記ハ毎年三月七月九月及十二月ニ縣廳ニ差出スヘシ其經驗シタル處ノ事物ハ四半ケ年毎ニ簡明ナル報告ヲ縣廳ニ爲スヘシ

第九條 總テ落手シ及送付シタル物件ハ第一號ノ書式ニ習ヒ事務帳簿ヲ調整シテ之レニ記載スヘシ
第十條 他ニ送付スヘキ報告文書諭示等ハ其概略ヲ事務帳簿

ニ記載シ明瞭ナルモノハ名ノミヲ記載シ置ヘシ取扱タル事務ハ直ニ番號ノ順序ニ從ヒ事務ノ種類ニ從ヒテ特別ニ設クヘキ帳簿ニ記入スヘシ但シ完結スル事能ハスベシテ再ヒ之ヲ取扱ハザルベカラザル事務ハ特別ニ記載シ置ヘシ此帳簿ハ監漁官ノ調整スヘキナルミンカレンデル(記者日帳簿ノ)ト俱ニ第二號表ニ進メテ之レヲ記載シ置ヘシ總テ一般ノ規則ニ關スル辭令書及布達類ハ特ニ適當ナル方法ヲ以テ記載シタル帳簿則「ゲネラリヤ」(原名帳)ヲ調整シ法律彙纂帝國法律報告或ハ官報ニ記載セサルモノハ悉ク此内ニ登記スヘシ是等帳簿ニ記載シタルモノハ「ゲネラリヤ」中ニ謄寫シ漁業ニ關スル規則ヲシテ明瞭ナラシムルヲ要ス

第十一條 官物ノ目錄ハ第三號書式ニ從テ之レヲ調整スヘシ官物ニ出入増減アレハ其都度之ヲ記載シ何時ニテモ其現在高ナ明瞭ナラシムルヲ要ス法律彙纂帝國法律報告及ヒ官報

ハ此目錄中ニ記載シ置ヘシ

第十二條 監漁長ハ政府ノ所有ニ屬スル漁場ヲシテ成ヘク利益多カラシメ最モ善長ナル方法ニ依テ之レヲ保護シ常ニ収獲多カラシメンコトヲ勤ムヘシ此故ニ之レ等ノ事ニ關シテ意見アレハ種々ノ漁場ノ使用法ニ關シテ建議ヲ爲スヘシ此際殊ニ從來ノ使用法ヲ妨ケサルコトヲ説明スヘシ

第十三條 監漁長ハ相當ナル事務室ヲ置ベシ而シテ其内ニ塗板ヲ擧ケ訪問者ヲシテ其何時家ニ在ルヤ又旅行中ナレハ何時ニ歸宿スルヤヲ知ラシムヘシ

第十四條 一年ノ終ニハ成ルヘク明瞭ニ説明シタル事務豫定書ヲ縣廳ニ呈スヘシ二月一日迄ニ其前年度ニ於テ漁業上一般及特別ノ景況ヲ明カニシ殊ニ漁業律ノ効力ニ注目シタル年報ヲ呈スヘシ氣候一般ノ收獲及各般ノ収獲重ナル漁業價額水産ノ製造(熏製鹽造等)魚類販賣外國ノ競争輸出入漁業養

魚上ノ進歩(養魚池魚梯等)漁具捕獲ノ方法協會組合等ノ景況
殊ニ漁業ヲ進ムヘキ職業ノ進歩(網ノ製造運輸造船等)ノ事ヲ
記載スヘシ其他官有漁場ノ働ラキ、執行シタル爵、將來發布ア
ラソト望ム規則ノ意見書等ハ悉ク此豫定書ニ記載スヘシ
千八百七十七年十一月廿六日

シユレースウカック 縣廳內務部

ルモール 手畧

細勅西縣監漁官職務章程

第一條 監漁官カ直接ニ隸屬シ必用ナル命令ヲ受ケ及其報告
ヲ爲スベキ上官ハ監漁長トス

第二條 監漁官ハ政府ノ官吏ノ權利及義務ヲ示シタル處ノ規
則ヲ遵奉セザルヘカラス此故ニ監漁官ハ管轄廳ノ許可ヲ經
スシテ他ニ職務ヲ奉シ副業ヲ營ムヲ得ス且賜暇ヲ得サレハ
其受持區ヲ去ル事ヲ得ス監漁官ハ其監視ノ下ニ立ツ處ノ人

物ヨリ一切贈物ヲ受ケルヲ得ス

第三條 監漁業官ハ現行及將來發布スヘキ漁業警察的ノ法律
規則ヲ熟知シ悉ク之ヲ執行スヘキモノトス

第四條 漁業ヲ監視スルニ際シ監漁官ハ其依托セラレタル監
視區内ニ於テ監漁長ヨリ定メタル處ノ細則ニ從ヒ巡回ヲ爲
スヘシ若シ他ニ巡回スルヲ要スルハ直ニ之ヲ監漁長ニ
申出ツヘシ其巡回中殊ニ注目スヘキハ規則ニ違ヒタル漁具
及禁止シタル漁撈法ヲ使用スルモノ在ルヤ否禁漁區内ニ於
テ漁撈ヲ營ミ又許可証ヲ所持セザルモノ在ルヤ否及休漁期
ニ注意スヘシ要スルニ現行規則ニ於テ許可シタル處ノ方法
ニ非ラザレハ漁業ヲ營マシムヘカラス

此故ニ漁業者ノ網罟及其他ノ器具ハ陸上ニ於テモ亦検査ス
ヘシ且市場ニ於テ成規ノ寸尺ニ違セザル魚類ヲ店頭ニ排列
シ販賣シ或ハ運搬スルモノヲ検査スヘシ兼テ反則者ノ多キ

漁業區タル事ヲ知レハ時々臨時ノ検査ヲ爲スベシ反則者アル事ヲ發見スレハ近傍警察署ニ訴出其處分ヲ仰クベシ警察署ニ訴ヘ出タル反則事件ハ表ヲ造リ其表内ニ罪狀ヲ記載スベシ千八百七十四年五月三十日ノ漁業律第四十九條乃至五十二條及千八百七十七年十一月二日ノ執行條例第九條ニ關シテハ千八百七十七年一月一日ノ獨逸治罪法中物品沒収及搜索ニ關スル箇條(治罪法第九十四條以下)又假ニ物品ヲ取押ル事ニ關シテハ(治罪法第二百二十七條以下)同治罪法ノ規則ニ依ルベシ但該治罪法ノ實行セラレタル後チテ指スモノナリ其實行セラレ、迄ハ千八百六十七年六月廿五日ノ治罪法(法律全集九百三十三葉以下)第九十一條以下及第二百二十三條以下ニ從フベシ又該治罪法第二百九十六條及第二百九十六條ノ(イ)ノ第三百七十條第四項ニ注目スベシ

第五條 其他監漁官ハ常ニ漁業ヲ獎勵スルヲ志タルベカラ

ズ漁業者不適當若クハ有害ナル漁具或ハ方法ヲ以テ漁撈スルモノアレハ之レヲ説諭シ適當ナル方法ヲ指示シ且漁業協會及漁業組合ヲ組織シ魚道ヲ設置スル等ノ事ヲ獎勵スベシ若シ漁業者ノ請求及請願アレハ之レヲ受理シ其他漁業ノ種類及範圍器具ノ種類及欠數漁獲ノ多少魚類ノ隱顯(昇降)種類或ハ放卵期及漁業ニ關スル氣候ノ影響水産製造法ノ種類(熏製)鹽藏カヒヤ鱒魚ノ卵ノ事肝油肥料等ノ製造等ハ勉メテ之レカ統計ヲ集メ漸チ以テ漁業及漁業者ノ景況ヲ明瞭ナラシムルヲ要ス

第六條 職務旅行ヲ爲スニ當リ監漁官ハ必ス日記ヲ調整シ第五條ニ示シタル事物ノ如ク總テ其注目シタルモノハ之レヲ記載シ三月六月九月及十二月ノ始メ毎ニ此日記簿ヲ監漁長ニ差出シテ一覽ニ供スベシ且四半ケ年毎ニ經驗シタル事件ノ簡明ナル報告書ヲ造リ監漁長ニ呈スベシ

第七條 總テ落手シ送付シタル物件ハ第一號ノ書式ニ習ヒ事務帳簿ヲ調整シテ之レニ記載スヘシ

第八條 他ニ送付スヘキ報告文書諭示等ハ其概略ヲ事務帳簿ニ記載シ明瞭ナルモノハ其名ノミヲ記載シ置クヘシ
取扱タル事務ハ直チニ番號ノ順序ニ從ヒ事務ノ種類ニ從ヒ特別ニ設クヘキ帳簿ニ記入スヘシ

總テ一般ノ規則ニ關スル辭令書及布達類ニシテ法律彙纂帝國法律報告或ハ官報ニ記載セザルモノナクテラリヤ(監漁官事務本帳)
ニ登記スヘシ官報等ニ登記シタル場合ニ於テハ又「グテラリヤ」帳ニ謄寫シ漁業ニ關スル規則類ナシテ一目瞭然ヲラシムルヲ要ス

第九條 官物ノ目錄ハ第二號書式ニ習ヒ之ヲ調整シ出入増減アレハ其都度之ヲ記載シ何時ニテモ其現在高ナ明知シ易カラシムヘシ法律彙纂帝國法律報告及官報ハ此目錄中ニ記載

シ置クヘシ

第十條 毎年一月監業長ニ年報ヲ差出スヘシ此年報ハ受持區内ノ漁業ノ景況ヲ明瞭ナラシムルヲ要ス殊ニ次ノ諸件ヲ明カニスヘシ風雨氣候及其魚類及漁業ノ關係一般ノ収額或ハ魚類ノ収額緊要ナル漁場ノ景況價格水産ノ製造(熏製鹽藏等)魚類販賣外國競争輸出入漁業及養業上ノ進歩漁具捕獲ノ方法協會組合等ノ方法殊ニ漁業ヲ進ムヘキ職業ノ進歩(網罟ノ製造器械製網罟ノ擴布運輸造船等)或ル方法規則ノ効力及將來改良ヲ要スルヤ否ニ關シテ監漁長ヨリ下附シタル諮問紙ニ之レニ答辭ヲ記載シテ監漁長ニ送付スルヲ要ス
千八百七十八年三月一日

シニレースウツク 縣廳內務部
ルモール 手署

組合漁業區ニ於ケル直接ノ漁業監視ハ其組合長之ヲ擔任シ其他總

ヲ組合ニ屬セサル内地漁業區ニ於テハ其區標内町村及警察官吏之レニ任ス

漁權所有主、漁業組合或ハ町村ニ於テ定メタル監視人ニシテ信任スルニ足ルヘキモノハ其請求ニ依リ官吏ノ資格ヲ以テ其職務ヲ執行スルコトヲ得セシム

組合漁業區外ニ於ケル沿海漁業ヲ直接ニ監視スルハ行政官之レニ任ス

(參照) 千八百八十三年七月三十日地方行政法第三百三十四條ヲ看ヨ

第四十七條 官吏ノ資格ヲ有スル監視人ハ其監視區内ニ於テ此ノ法律ノ成規及其他ノ現行漁業警察規則ニ違背セタル者ヲ搜索追究スルニ際シテハ該地方警察官吏ノ職權ヲ有ス且何時ヲ問ハス漁業上ニ使用スル漁具及漁船ニ附屬シタル船具及魚類ヲ検査スルコトヲ得

堰斷セサル水中ニ置キタル貯魚器ハ該官吏ニ於テ何時ニテモ檢視

メルトヲ得

第四十八條 犯則ノ際又ハ犯則後直チニ捕ヘラレ或ハ追究セラル、者アル時ハ犯則者ノ携帯シタル物件ニシテ沒収スヘキモノハ取上ケラル、モノトス同一ノ場合ニ於テ犯則ニ供シタル漁具及漁船ハ抵當トシテ拘取スルコトヲ得

其沒取スヘカラサル物品ハ所有主ノ損害及費用ヲ以テ其地ノ主管(郡長)ニ引渡スヘシ然レモ主管ニ於テ定ムル所ノ金額即凡ソ裁判ニ由リテ贖フヘキ金額ト貯藏費ト合算シタル金額若クハ抵當物ノ價值ニ等シキ金額ヲ現納シテ保釋料ト爲ス時ハ該物品ヲ返附スヘシ但保釋差入ハ主管或ハ裁判所ニ宛テ、之ヲ爲スヘシ若シ八日以内ニ之ヲ納メサル時ハ掛裁判所ノ職權ヲ以テ之ヲ公賣スルコトアルヘシ

罰則

第四十九條 左ニ掲クル所ノ場合ニ於テハ帝國貨幣三拾馬克以下ノ

罰金若クハ一週日以内ノ禁錮ニ處ス

第一項 第十條ニ示シタル場合ニ於テ漁業ヲ營ム者ニシテ第十二條及第十三條ノ規則ニ從ヒテ下附證認シタル免許鑑札ヲ所持セズ又ハ千八百五十九年七月二日ノ公布ニ係ル破墨隣州ヲ經過シテ一デル河ノ一部分ハ一フ及其河口ニ於ケル漁業條例及千八百六十五年八月三十日ノ公布ニ係ルストラールズント縣漁業條例ノ有効區域内ニ在リテ例規ニ從ヒテ下附証認シタル証符(契符、漁符)ヲ所持セズシテ漁撈シタル者(第十八條ヲ見ヨ)

第二項 第十九條ノ成規ニ背キ標目ヲ附セスシテ漁具ヲ裝置シタル者

第五十條 左ニ掲グルル犯則者ハ帝國貨幣百五十馬克以下ノ罰金ヲ課ス若クハ禁錮ニ處ス(譯者云本文禁錮ノ上何日等ノ文字ナシ)

第一項 町村有ニ屬スル漁業場ヲ賃借シタル者ニシテ監視廳ヨリ定メタル漁具ノ數ヲ超過シタル者(第八條)

第二項 免許鑑札或ハ証符ヲ權利ナクシテ授受シタル者

第三項 堰斷セサル水中ニ於テ漁業ヲ營ムニ際シ第二十一條ニ掲ケタル漁具ヲ使用シタル者

第四項 第二十八條ノ規則ニ背キ期限ニ至リテ常置漁具ヲ撤去セス又ハ其位置ヲ變更セス或ハ第二十條ニ示シタル漁具ヲ制限外ニ増大シタル者

第五項 禁漁區内ニ於テ禁ヲ犯シテ漁撈シタル者(第三十條)或ハ魚類保護ノ爲メニ發布シタル諸規則ニ違背シタル者

第六項 魚類ノ通行ヲ便ニスルカ爲メニ布設シタル魚道中及其前後一定ノ距離以内ニ於テ設ケタル禁漁場ニ於テ漁撈シタル者(第四十三條)

第七項 第四十二條ノ規則或ハ之ヲ執行スルカ爲メニ制定シタル法令ニ背キ漁業ニ有害ナル物質ヲ漁場ニ投入シ誘導シ或ハ禁ヲ犯シテ亞麻或ハ大麻ヲ堰斷セサル水中ニ於テ浸製シタル者(第四

十四條

(參照) 獨逸帝國刑法第三百六十六條ニ據ルニ公ケノ道路街區及水上ノ安全、便利、清潔及靜穩ノ爲メニ設ケタル警察規則ニ背キタル者ハ六十馬克以下ノ罰金ニ處シ或ハ十四日以内ノ禁錮ニ處セラル、モノトス

千八百八十年四月一日ノ發布ニ係ル圍場山林警察規則第二十七條ニ據ルニ左ノ罪ヲ犯シタル者ハ五十馬克以下ノ罰金若クハ十四日以内ノ禁錮ニ處セラル、モノトス

(一) 千八百七十四年五月三十日ノ漁業律第五十條第七項ニ背

キ亞麻及大麻ヲ浸製シタル者

(二) 公水中ニ生皮ヲ浸シ酒ヲ洗滌シ或ハ綿羊ヲ洗浴セシメタル者

(三) 刑法第三百六十六條第十項ニ背キ公水ヲ汚穢シ或ハ其使用ヲ困難ナラシメ又ハ障礙シタル者

第五十一條 左ノ場合ニ於テハ帝國貨幣九十馬克以下ノ罰金ヲ課シ

或ハ四週日以内ノ禁錮ニ處ス

本法律第二十四條及第二十六條ノ規則ニ違反シタル悉皆ノ行爲

總テ本罰ノ外禁制ニ背キテ店頭ニ置キ或ハ販賣若クハ運搬シタル魚類ハ所有主ノ誰ナルヲ問ハス之ヲ沒取スヘシ

第五十二條 本法律ニ揭示シタル罰則ヲ犯スニ際シ漁者若クハ附屬人

傭入、徒弟或ハ職工ヲ使用シ彼等ニ於テ罰金ヲ納ムヘキ資力ナキト

キハ本人ノ處罰ノ外彼等ノ命セラレタル罰金ヲモ負擔スヘキモノトス

總則

第五十三條 從前發布シタル諸規則ニシテ此ノ法律ニ抵觸スルモノ

ハ悉ク之ヲ廢止ス

第五十四條 農務大臣ヲシテ此ノ法律ノ執行ヲ負擔セシムルモノナ

(參照) 農務大臣及商工務大臣ハ「ツルピン」水車ノ爲メニ魚類ノ壓死スルヲ防カシメシカ爲メニ此ノ法律ノ發布以後ニ「ツルピン」水車ヲ建設スル者ニ對シテ自費ヲ以テ水柵等ノ裝置ヲ爲シテ漁類ノ壓死ヲ防カシムルノ權利アリトス

千八百八十年一月七日ノ發布ニ係ル海上船舶衝突豫防條例第十條ニ據ルニ

- (イ) 航行スル漁舟及他ノ甲板ナキ船ハ他ノ船舶ノ使用スルカ如キ舷燈ヲ点スルノ義務ナキモノトス然レトモ此ノ舷燈ニ易ユルニ一方ニ綠色一方ニ赤色ノ玻璃ヲ張りタル洋燈ヲ用意シ置キ他ノ船舶ニ近キタル時ハ衝突ヲ防クカ爲メニ速カニ之レヲ點火シ綠色ハ取楫ノ方ヨリ赤色ハ面楫ノ方ヨリ見ルヲ得サル如ク維持スルヲ要ス
- (ロ) 投錨シタル漁舟及甲板ナキ船ハ白色ノ燈火ヲ點シ置クニ

- (ハ) 引網ヲ以テ漁獲セツ、アル漁舟ハ各其檣ニ二個ノ紅燈ヲ掲ケ其上下ノ距離ヲ一「メートル」以上ヲラシムヘシ
 - (ニ) 底網ヲ以テ營業スル漁舟ハ其檣ニ二個ノ燈火ヲ掲ケ其距離ヲ一「メートル」以上ヲラシムヘシ而シテ其上部ニ掲ケル燈火ハ赤色ニシテ下部ノモノハ綠色タルヘシ此ノ他右ノ漁舟ハ他ノ船舶ニ近寄りタル時ハ他船ノ如ク舷燈ヲ掲ケ或ハ舷燈ヲ掲クルヲ能ハサル時ハ第七條ニ掲ケタル彩色燈或ハ(イ)ニ示シタルカ如キ一方赤色一方綠色ノ玻璃ヲ張りタル燈ヲ用意シ置キ速カニ之ヲ點用スヘシ
 - (ホ) 漁舟及甲板ナキ船ハ右ノ外其危急ノ時ニ於テハ燈火ヲ示スヘシ
 - (ヘ) 舷燈ヲ除クノ外ハ總テ此ノ條中ニ載セタル燈ハ球形ニシテ全地平上ヨリ望見シ得ルヲ要ス
- 此ノ法律ハ朕自カラ署名シ且國璽ヲ鈐セシム

千八百七十四年五月三十日 伯林府ニ於テ

維 廉

勅 奉

カンブハウセン外五名

右ノ如ク漁業律ヲ發布シテ全國畫一ノ大綱ヲ設ケ爾來十三州ニ各々
執行條例ヲ發布シテ細目ヲ定メタリ各州ノ地形情況等ニ從ヒ各異同
詳畧アリ然ルニ破墨隣州ハ海ニ濱シ且執行條例モ亦他ニ比スレハ完
全ナリトス故ニ今之ヲ反譯シ他州ノ條例ハ唯其異ナル點ノミヲ擧ケ
テ參照ニ供セントス

- (一) 千八百七十七年五月十一日プロイセン州漁業律執行條例
- (二) 全月廿日ポリーゼン州全
- (三) 全年十一月二日ブランデンブルグ州全
- (四) 全 シュレೀゼン州全

(五) 全

カクセン州全

(六) 全

シコレースウキック、ホールスタイン州全

(七) 全

ハンノーベル州全

(八) 全

ウエストフハーレン州全

(九) 全

ライン州全

(十) 全

カッセル縣全

(十一) 全

ウキッスハーゲン縣全

(十二) 全

ホーヘンツォルレン國全

破墨隣州漁業律執行條例(千八百七十七年五月十五日)

天祐ヲ享有シテ宇漏西國王タル朕維廉千八百七十四年五月三十日ノ漁業律ニ基キ破墨隣州會ノ贊議ヲ經タル後該州ニ向ヒテ漁業執行條例ヲ布告セシムルノ如シ

沿海及内地漁業ノ境界(漁業律第三條)

第一條 チーデル河ニ於テハ左ノ場所ヲ以テ沿海漁業ト内地漁業トノ境界ト定ム

(參照) 本文境界ヲ定ムルニ悉ク地名ヲ詳記シタリ然レモ今特ニ地名ヲ記載スルモ參考ノ料ニ供スルニ足ラス故ニ以下地名ノミヲ以テ其區域等ヲ示スモノハ暫ク之ヲ省略セリ

魚類ノ保護(漁業律第二十二條第一項)

第二條 沿海ト内地トヲ問ハス總テ堰斷セサル水中ニ於ケル漁業上ニ於テハ左ノ條規ヲ遵奉スヘシ

第一項 總テ魚苗ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

第二項 左ニ列記スル魚類ハ其寸尺頭ヨリ尾ニ至ルマテ少クモ左

ニ示シタル數ニ達セサルモノハ之ヲ捕獲スルコトヲ許サズ

寸尺イサトナルメ

一〇〇

鱒魚

鮭魚

四〇

ダロッセマレーネ

三五

鰻

サンダー

〜ヒト

鰯魚

二八

鱒魚

鯉魚

マイフヒツシユ

アラソド

二〇

シユライエ

二〇

フォレルレ

アツシユ

鱸魚

アレツツ

カラウシユ

ギーベル

クライチマレーチ

川蝦

(一) パルベ

ラツペン

(二) ウェルス

ツエールテ

(三) フキンテ

二八

二〇

六〇

二八

二八

一〇

一ニ

一三

一八

デーベル

シユテツベル

ロートフェーデル

(六)ロートアウゲ

サンダー

(十二)マクレール

二〇
二〇
一五
二〇
三〇
二〇

第三項 第二項ニ掲ケタル魚類及魚苗ニシテ其下ニ示シタル寸尺ニ達セサルモノ生活シタル儘ニテ漁者ノ手ニ入リタル時ハ必要ノ注意手當ヲ爲シテ再ヒ水中ニ放還スヘシ

第四項 第二項ニ掲ケタル魚類ニシテ其下ニ示シタル寸尺ニ充タサルモノハ魚餌ニ供用スルヲ得ス

第五項 養魚池ニ放養スルカ爲メニ幼小ナル魚鱒ヲ捕獲スル時ニ限リ監視廳ヨリ魚權所有主ニ之ヲ漁撈スルヲ特許スルヲアルヘシ然レモ此ノ許可ハ何時ニテモ取消スルヲ得ヘシ

第三條 本條例第二條第五項及漁業律第二十七條ニ掲ケタル特例ヲ除クノ外第二條第二項ニ列舉シタル魚苗及魚類ニシテ其下ニ示シタル寸尺ニ充タサルモノハ堰斷水中ニ漁撈シタルト堰斷セサル水中ニ捕獲シタルトヲ論セス總テ之ヲ店頭ニ排置シ販賣シ或ハ運搬スルヲ得ス

休漁期(漁業律第二十二條第二項)

第四條 堰斷シタル水中ニ於テハ特ニ休漁期ヲ設クルヲシ總テ堰斷セサル水中沿海及内地漁業ニ屬スル水中ニ於テハ毎週及毎年ノ兩休漁期ヲ設ク

第五條 毎週ノ休漁期ハ毎土曜日ノ日没ヨリ日曜日ノ日没マテトス内地漁業ニ屬スル水中ニ於テハ毎週ノ休漁期内ト雖モ手釣漁ニ限リ縣廳ヨリ之ヲ許可スルヲ得ル

第六條 毎年ノ休漁期ハ冬或ハ春ニ於テ一回之ヲ設ク冬ニ在リテハ十月十五日ニ始マリ十二月十四日ニ終リ春ニ在リテハ四月十日ニ

始マリ六月九日ニ終ル

(一) 春ノ休漁期ハ四月十五日ヲ以テ始トシ六月十四日ヲ以テ終ルトス

同一ノ水中ニ於テ毎年ノ休漁期ヲ設クルハ一年一回ニ限ルモノトス

第七條 冬ノ休漁期ヲ設クルハ鮭鱒類ノ放卵ニ適スル左ノ内地漁業場トス

(一) ストラームズント縣某地

(二) ステッチン縣某地

(三) ケスリン縣某地

第八條 春ノ休漁期中ハ勿論「マレ」魚ノ放卵期節即十一月十五日ヨリ十二月七日「マ」湖及「シヤ」湖ニ於テ漁撈スルヲ禁ス

「マレ」魚ヲ他ニ放養スルノ目的ニ出ルモノハ縣廳ヨリ特許ス

ルヲ得ヘシ

(一) 一部分隣州若クハ隣國ト境ヲ接スル漁場中ニ於テハ其年々ノ休漁期ヲ定ムルハ隣州若クハ隣國ト同シカルヘシ但シ之ヲ定ムルハ縣廳ニ於テスヘシ

第九條 每週及毎年ノ休漁期(第五條乃至第七條中ハ千八百七十四年五月三十日ノ漁業律ニ由リテ排除スヘキ常置漁具ニシテ堰斷セサル水中ニアルモノハ悉ク之ヲ撤去シ或ハ他ニ移サ、ルヘカラス(漁業律第二十八條)

第十條 每週ノ休漁期(第五條)中ハ次ニ記載セタル特例ヲ除クノ外總テ堰斷セサル沿海及内地ノ諸水中ニ於ケル漁業ヲ禁止ス

沿海漁業ニ屬スル部分ニ於テハ常置漁具ヲ使用セスシテ所謂靜漁法(スナレ、フヒツシエライ)ヲ行フ者ニ限リ每週ノ休漁期内ト雖モ沈メ置キタル「ゼツ、ネツ」ロイセ及流繩ヲ引揚ケ且復ヒ之ヲ沈メ置クヲ得ヘシ

縣廳ニ於テ魚類ノ交通ヲ妨碍セサルモノト見做セハ他ノ内地漁業ニ屬スル水中ニ於テモ亦右ノ特許ヲ與フルノ權アリトス緊要ナル必要ヲ告ケタル場合ニ於テハ沿海漁業ニ屬スル水中ニ於テ毎週ノ休漁期中ト雖モ或ル魚類ニ限リ捕獲ヲ許可スルヲ得ヘシ

第十一條 毎年冬ノ休漁期中ハ休漁場内ニ於ケル各般ノ漁業ヲ禁止ス(第七條)第十二條ニ掲ケタル特例ニ適セサル内地漁業ニ屬スル水中ニ於テハ春ノ休漁期中各般ノ漁業ヲ禁ス

第十二條 縣廳ニ於テハ魚類ノ蕃殖ヲ害セサルモノト認ムル時ハ春ノ休漁期中ト雖モ内地漁業ニ屬スル水中ニ限リ漁業ヲ營ムヲ特許スルヲ得

許可セラレタル漁具ト雖モ魚苗ノ蕃殖ヲ害スルヲ多キモノハ此ノ限リニアラス

右ニ關スル細則ハ其都度警察ノ規則ヲ以テ之ヲ達スヘシ
常置漁具即網若クハ漁箔ヲ杭及錠ニ締結シタル漁業ハ何等ノ事故

アルモ毎年ノ休漁業中其使用ヲ禁ス

第十三條 毎年春ノ休漁期中ハ左ノ制限ヲ守ルヘシ

第一項 左ノ漁場内ニ於テ漁業ヲ營ムヲ許サス

(一) クラムス海峽

(二) マイニンゲン海峽

以上ノ漁場ノ境界ハ特ニ之ヲ確定スヘシ

農務大臣ハ千八百七十四年五月三十日ノ漁業律第二十九條乃至

第三十四條ノ規則ニ準シテ右ノ休漁區ヲ伸縮スルノ權利アリト

ス

第二項 左ノ場合ニ於テハ「ツ」グ「ツ」エ「ガ」ル「チ」ン「ツ」エ「セ」ン「ス」トロイ

エ「ン」等ノ漁具ヲ使用スルヲ禁ス

魚苗ノ群集スル場所放卵場水蘊葦菰及菅草ヲ生スル土地ノ周邊

第三項 氷流ニ任シテ使用スル漁具「ト」ライ「ア」チ「ツ」「グ」ル「ン」ド「チ」ツ「」等

ヲ禁ス

「トリフト」ト稱スル漁網ニ限リ放卵場外ニ於テ使用スルハ
縣廳ニ於テ特許スルヲ得ヘシ

第四項 一處ニ定在スル網罟及魚箔「ツヅ」チツエ「ロイセン」ビエーゲルロ
イセ「ケル」ハ放卵場魚苗群集場水草葎菅草ヲ生スル土地ノ周
邊及此等ノ場所ニ魚類ノ入ルヘキ通路ニ於テ使用スルヲ許サ
ス

第五項 數層ノ網壁ヲ有スル所謂ル「レー」デリング「ク」ヲ使用スルヲ
禁ス

第十四條 第六條乃至第十二條ノ規則ハ川蝦ノ漁撈ニ適用セス
總テ堰斷セサル水中ニ於テハ毎年十一月一日ヨリ五月三十一日マ
テ川蝦ヲ捕獲スルヲ禁ス
右ノ休漁期內ニ於テ適マ生活シタル儘漁者ノ手ニ入りタル川蝦ア
レハ適當ナル當手ヲ爲シテ再ヒ之ヲ水中ニ放還スヘシ
禁制スヘキ漁具漁業律第二十二條第三項

第十五條

第一項 總テ堰斷セル淡水中ニ於テ漁業上又鎗「ス」ペルレン「ク」ヲ使用
スルヲ禁ス然レモ從來又鎗ヲ慣用シ來リタル漁場ニ限リ縣廳
ヨリ一時之ヲ使用スルヲ許可スルヲアルヘシ
沿海漁業ニ屬ルス水中ニ於テハ鰻魚捕獲スルニ限リ十月十五日
ヨリ四月九日マテ又鎗ヲ使用スルヲ許ス
特ニ又鎗ヲ使用スルニアラサレハ營業スルヲ能ハサル漁業者ニ
限リ之ヲ使用スルヲ許スヘシ
第二項 鈎具ヲ使用スルヲ許可ス
第三項 總テ堰斷セサル水中ノ漁業上ニ於テハ第一項及第二項ニ
掲ケサル漁具「フ」ルレン「ミ」ット「シ」ニ「グ」フ「エ」ト「デ」ルン「ガ」イ「メ」ルン「ハ」ル
ケン「ハ」ウ「エ」ン「ア」イル「ハ」ウ「エ」ン「ス」ト「ヒ」アイ「セ」ン「ス」タン「ゲ」ン「シ」ース
ツ「フ」エン「ク」ヲ使用スルヲ禁ス
第十六條 右ノ外堰斷セサル水中ノ漁業上左ノ事項ヲ禁止ス

第一項 有害質及爆發質(魚類ヲ麻醉シ或ハ尽殺スヘキ有毒質及火藥等)ヲ使用スルコト(漁業律第二十一條)

第二項 夜間篝火或ハ松明ヲ燃シテ魚類ヲ招集スルコト

第三項 圓盤播槌繩索棍棒礫石等ヲ用ヒ或ハ舷ヲ敲キテ魚類ヲ追集シ捕獲スルコト

第十七條 魚堰魚柵及所謂ユル魚穿ヲ以テ鮭鰻ヲ捕獲スルハ從來其權利ヲ所有スル者ノ外新クニ之ヲ許可スルコトナシ

(五) 監視廳ノ許可ヲ經スルテ流水ヲ堰キ水ヲ溜ラシメ魚類ヲ捕獲スルコトヲ禁ス

許可スヘキ漁具律網目(漁業律第二十二條第四項)

第十八條 堰斷セサル水中ノ漁業上ニ次ニ掲ケル特例ヲ除クノ外網目ノ結節ト結節トノ距離即チ「マツ」ニシテハ漏氣ヲ帶ヒタル時ニ於テ少ナクモ二「サン」チメートル以上ノ漁具ヲ使用スヘキコト右ノ規則ハ何等ノ漁具ニ於テモ皆然リトス

縣廳ニ於テハ漁具ノ或ル種類ノ爲メニ必要ナル場合ニアリテハ更ラニ細小ナル網目ヲ有スル漁具ヲ使用スルコトヲ特許スルコトヲ得ヘシ

第十九條 沿海漁業ニ於テハ左ノ漁具ニ限リ第十八條ニ示シタル制限ヨリ細小ナル網目ヲ使用スルコトヲ得

以下第二十一條ニ至ル總テ漁具ノ性質ヲ示シタルニ過キス而シテ實物ニ就キテ調査スルコトアラサレハ明瞭ナラサルノミナラス敢テ施政上ノ參考ニ供スルノ必要ヲ見ス故ニ今之ヲ省略セリ

第二十二條 第十八條乃至第廿一條ノ規則ハ本條例發布ノ日ヨリ起算シ滿三ケ年ノ後ヨリ効力ヲ有セシム其以內ハ尙ホ舊規則ニ據ラシムルモノナリ

許可セラレタル漁具ヲ使用スルノ制限

第二十三條 沿海漁業ニ屬スル漁場ニ於テハ通船路湊杭筋海峽入江湖水、川河、運河等ノ入口ニ網罟ヲ定置シテ之ヲ遮斷スヘカラス

「ヘーリソングスロイゼ」及ヒ「ビーゲルロイゼ」其他網罟ニ換用スルニ「ス
ターヘンデチツエ」ヲ以テスルヲ許サス
網罟ハ他人ノ網罟ヲ距ル一「下流二百メートル」以上ノ場所コアラサ
レハ之ヲ裝置スヘカラス

第二十四條 フトラールズンド縣及ステッチン縣ニ屬スル沿海漁業ニ
於テハ杭若クハ錨ヲ以テ固着シ上部ヲ開キテ咽喉ニ蓋ヲ設ケタル
建網即「ヘーリソングロイゼ」ヲ新設シ或ハ之ヲ轉置スルヲ得ス若シ
該漁具ノ裝置法ヲ變更セント欲スレハ通船ト漁業トノ警察ヲ掌理
スル監漁長ノ認可ヲ經ルヲ要ス

「ヘーリソングロイゼ」ノ建網ノ長サハ二百二十五「メートル」以上ナルヲ
得ス必要ナル場合ニ於テハ監漁長ハ此ノ制限ヲ伸縮スルノ職權
ヲ有ス

第二十五條 監視廳(漁業律第四十六條)ノ許可ナクシテ河流及支流ノ
岸邊及水底ニ於テ杭或ハ錨ヲ以テ固着セタル漁具或ハ浮網ヲ裝置

セント欲スル者ハ平水ノ時水岸ヨリ測量シタル水面ノ半徑以上ヲ
超過スヘカラス
同時ニ此ノ如キ漁業數個ヲ一岸若クハ兩岸ヨリ張出ス時ハ其距離

最大網ノ長サニ三倍以上ナラサルヘカラス
營業ノ方法(漁業律第二十二條第五項)

第二十六條 氷鏡ヲ破リテ漁業ヲ營ム者ハ其氷塊ヲ漁孔ノ周邊ニ立
テ置キ決メテ孔中ニ投入スヘカラス

「カルソツグ」ヲ使用スルガ爲メニ設ケタル氷孔ニ限リ其孔アルヲ
標示スル的ニ止メ他ノ氷塊ハ孔中ニ投入スルヲ得ヘシ
氷上ニ道路ヲ布設セタル場合ニ於テハ少ナクモ之ヲ距ル一「四」メー
トル以内ノ場所ニ於テ漁孔ヲ穿ツヲ得ス

氷路上ニ取設ケタル標示類ヲ破壊シ或ハ移動スルヲ禁ス
此ノ法律ニ關スル詳細ノ規則ハ警察規則ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十七條 他人ノ既ニ漁業ヲ始メ或ハ既ニ漁具ヲ投シタル區域内

ニ入リテ漁業ヲ爲スヲ得ス
 若シ「ガロン」或ハ「ツエーセン」ヲ以テ漁業ヲ營ム者ニテ他ノ投シ置キ
 タル網具若クハ釣具ノ其漁具ニ觸ル、モノアレハ之ヲ引揚クルノ
 權利ヲ有スル者ニ對シテハ網及釣ヲ用ユル漁者ハ歩ヲ讓ラサルヲ
 得ス偶々引揚ケラレタル漁具類ハ之ヲ所有主ニ返附スルカ或ハ八
 日以内ニ監視廳或ハ監視官ニ引渡スヘシ
 第二十八條 通船アル水中ニ於テハ漁業ノ爲メニ船行ヲ妨碍スヘカ
 ラス
 一處ニ固定シ或ハ浮在スル漁具ハ自由ニ舟筏ノ通航スルカ如ク裝
 置スルヲ要ス
 「ロイゼン」網罟、囊釣具等ヲ固着スルカ爲メニ設ケタル杭ハ少ナクモ
 水面上ニ顯ハル、一「メートル」ナルヘク且漁業ヲ終リタル後ハ直
 ニ之ヲ拔キ取ルヘシ
 漁者ハ水面下ニ於テ杭ヲ折リ或ハ鋸斷シ置クヲ得ス

通船ヲ保護スルカ爲メニ漁具ニ標示ヲ設クルノ必要ナル場合ニ於
 テハ警察上ノ達ヲ以テ其細則ヲ定ムヘシ
 第二十九條 漁者ハ營業スルニ際シ航路ヲ標示スルカ爲メニ設ケテ
 ル桶樽浮標ヲ網繩等ヲ以テ移動セシメタル時ハ直ニ最寄水先案内局或ハ最寄
 警察署ニ届出ツヘシ
 第三十條 沿海漁業ニ於テハ海上船舶衝突規則ヲ適用ス
 總テ沿海漁業ニ用ユル漁船ハ艦頭ノ右側ニ所有主ノ住所姓名ヲ彫
 刻シ周圍ヲ黒ク文字ヲ白ク「ペンキ」ヲ以テ塗抹シ置クヘシ
 縣廳ハ此ノ規則ヲ推シテ内地漁業ヲ營ム漁船ニモ亦此ノ標示ヲ設
 ケシムルヲ得ヘシ
 尙ホ此ノ他公共ノ交通或ハ通船上必要ナル事項アレハ警察上ニ於
 テ之レカ規則ヲ設クヘシ
 第三十一條 漁業監視上ニ供用スル船舶ニシテ監漁長ノ乗込ミタル

モノハ赤色ニシテ白キ部分ニ字鷲ヲ畫キタル旗章ニ旒ヲ附シタルモノハ其他ノ監視官ノ乗リ込ミタル時ハ旒ヲ附セサル同様に赤色旗ヲ樹ツヘシ夜間ハ之レニ代ユルニ赤色ノ舷燈ヲ以テス其他下等官吏ノ職務ヲ執行スルニ際シテハ胸間ニ同様ノ記章アル鑲牌ヲ帶フヘシ

一個人若クハ組合ヨリ設ケタル監視者ハ特ニ縣廳ヨリ指定スヘキ旗章ヲ用ユヘシ

監視官ノ旗章船旒或ハ夜間舷燈ヲ掲ケタルヲ見レハ總テ漁撈ニ從事シタル漁者ハ直ニ帆ヲ卸シ棹ヲ停ムヘシ監視官ノ許可ヲ得サル間ハ他ニ船ヲ行ルヲ得ス

海藻ノ採取

第三十二條 毎年四月一日ヨリ九月一日ニ至ル間ハ海岸ニ生スル雜草及昆布ヲ除クノ外海藻類ヲ採取スルヲ禁ス

第三十三條 此ノ勅令ニ違背スル者ニシテ獨逸帝國刑法及千八百七

十四年五月三十日ノ漁業律ニ明條ナキモノハ帝國貨幣百五十馬克以下ノ罰金ヲ課ス

漁業ニ供用シタル禁制漁具ハ同時ニ沒取スルモノトス

總則

第三十四條 内地漁業ニシテ多少他國ノ版圖ニ屬スル漁場ニ於テハ農務大臣ハ本勅令第四條乃至第十四條(休漁期)第十五條乃至第十七條(禁制スヘキ漁具)第十八條乃至第二十二條(許可スヘキ漁具)第二十三條乃至第二十五條(許可セラレタル漁具ヲ使用スルノ制限)ノ全文或ハ一部分ノ執行ヲ停止セシムルノ權利アリトス

第三十五條 學國領サールレボッテンニ於テハ一時此ノ勅令ヲ適用セス

此ノ勅令ニ代ユルニ千八百四十五年三月四日及七月五日ノ漁業規則ヲ以テス

農務大臣ハ將來墨林堡大公國政府ト此ノ勅令ノ成規上協議ノ調ヒ

タル時ニ於テ字領サーレルボツデニ於テモ亦此ノ勅令ノ全文或ハ一部分ヲ執行セシムルノ職權ヲ有ス

第三十六條 此ノ勅令ニ抵觸スヘキ他ノ勅令法律規則ハ總テ効力ヲ失フモノナリ

以上

漁業協會

上記記載ノタル漁業律同執行規則及漁業組合等ハ主トシテ漁業上ノ妨碍ヲ禁制スルヲ以テ目的トス漁業協會ハ篤志者ノ團結シテ一般ノ漁業ヲ振興セシムルヲ以テ主旨トス伯林ニ設置シタル獨逸漁業協會ヲ以テ中心トシ各州ニ中央協會及支會ヲ置ク等畧ホ農業協會ノ組織ニ類ス今獨逸漁業協會規則及監視長ダルメル氏ヨリ得タル所ノ報告ニ基キ細勒西苛拉斯天州中央漁業ノ組織及業務ハ別ニ略述セントス

獨逸漁業協會規則

第一條

本協會ハ獨逸帝國鹹淡兩水中ノ漁業ヲ興起セシムルノ目的ヲ以テ協會自由ノ活動ニ由リ政府ノ事業ヲ輔翼スルニアリ

第二條

本協會ハ專ラ公益ヲ研究シ苟モ漁業ヲ興起シ漁獲ヲ増加シ人民ノ内地ニ於テ漁業ヲ營ム者ヲシテ其營業ヲ容易ナラシムルヲ勉ムルモノ

トス
本協會ハ又鹹淡水漁業ノ需要ニ關スル問題ニ對シテ鑑識者の及學術的ノ試験ヲ行フノ任ニ當ルモノトス

第三條

本協會ノ位地ヲ伯林府ト定ム

本協會員ハ毎年一回常會ヲ開クモノトス
集會ノ決議ハ出席會員ノ多數說ニ從フ
必要ナル場合ニ於テハ會員中ニ於テ漁業上特別ナル目的或ハ問題ニ關シテ特別ナル部分若クハ委員ヲ置ク

第四條

本協會ハ内外國ニ多少ノ通信員ヲ置キ成ルヘク内外國ニ現存スル類似ノ協會ト終始通信スルヲ勉ムヘシ

第五條

本協會ノ交際ハ事務委員ニ於テ之ヲ掌理ス事務委員會ハ會長一名代

理者二名及拾貳名ノ會員ヲ以テ組織ス而シテ事務委員ハ協會ノ決議ヲ實行シ事務ヲ處辨シ且會計記簿ヲ整理スルノ任ニ當ルモノトス通信委員ヲ命スルモ亦事務委員ニ於テ事務委員ニ事務ノ分擔ヲ命スルハ會長ニ於テ又必要ナル場合ニ於テハ事務委員ハ發議ニ依リ臨時集會ヲ開クヲ得

第七條

本協會ノ費用ハ全會員ニ於テ之ヲ負擔ス然レモ同一年度各會員ノ出金額ハ三「ター」レル九馬克ヲ超過スヘカラス

第八條

新クニ本會員ヲラント欲スル者ハ協會事務所ニ報告スヘシ

第九條

本協會ヲ脱セント欲スル者ハ必ス該曆年度ノ終リタルヘシ而シテ該年十二月一日以前ニ豫メ之ヲ事務所ニ通知スヘシ脱會シタル者ハ協會ノ經濟上ニ關シテ請求スルノ權利ナキモノトス

第十條

本協會ヲ解散スルコハ本會員三分ノ二以上ノ同意ヲ得サルベカラス

細^{シユ}勒^ス西^ウ奇^ク拉^ホ斯^ホ天^ホ州^ス中央漁業協會ノ組織及業務

監漁長ダ^ルメ^ル氏曰ク各種ノ漁業ハ經濟上重大ナル職業タルヲ知
 了^シ漁業及養魚ヲ興起セシムルヲ勉ムルニ至リタルハ近年ノ事ナ
 リトス獨逸漁業協會委員ノ伯林府ニ始メテ集會シタルハ千八百七十
 年ニシテ爾來地方ニ漁業ヲ起シ通常一州若クハ一邦ニ一協會ヲ置ク
 一トハナレリ是皆ナ伯林中央協會殊ニ其會長輩ノ獎勵ニ基キタルモ
 ノトス本州ノ漁業協會モ亦右ニ同シク千八百七十七年始メテ組織シ
 タル所ニ係ル而シテ當初ハ會員モ亦甚タ寥寥ナリシ
 最初本協會ハ主トシテ人工孵卵法ノ實効ヲ得ンヲ以テ目的トナシ
 幼漁夫一名ヲ選ヒテ一時發來堡ニ滞在セシメ人工養魚法ヲ傳習セシ
 メ其後ノルトルフノ近在アルトミユレンドルフニ一小孵卵場ヲ設
 置シ孵卵舍及居室ヲ作り右ノ幼漁夫ヲシテ該養魚場ヲ掌理セシメタ
 リ
 今日ニ於テモ亦鮭鱒類ノ蕃殖ヲ以テ本協會ノ主眼トナス何ントナレ

ハ人工ヲ以テ他ノ魚類ヲ繁殖セシムルニハ多少避クヘカラサルノ困難アレハナリ最初本協會ヲ設立スルノ時ニ際シテヤ鮭鱒ノ卵子ヲ本州内ニ得ルヲ能ハス止ムヲ得ヌ之ヲ他州ニ仰キ獨逸漁業協會ノ手ヲ經テ之ヲ取寄セ或ハ他ニ於テ孵化セシメタル魚苗ヲ購ヒテ本州ノ養魚場ニ於テ成育セシメタリ然ルニ今ヤ多ク鮭鱒類ノ魚苗ヲ放流シタルガ爲メニ右ノ魚類ノ卵子ヲ充分ニ本州内ニ得ルニ至リ本協會ハ毎年百五十万粒ノ魚卵ヲ産セシメテ之ヲアルトミユールンドルフニ送り其孵化セタルモノヲ本州ノ諸水中ニ放流セシム然レモ是本州ニ於テ毎年孵化セシムル鮭鱒類ノ總數ニアラス何トナレハ今ヤ本州中多數ノ小養魚場アリテ夥シク魚苗ヲ製スルモノアレハナリ是等ノ養魚場ノ庇陰ヲ以テ從來魚類ノ隻影ヲモ見サリシ本州ノ河流ニ於テ多ク鮭「フオレ」ルレ」ヲ産スルニ至リタリ

猶ホ茲ニ注目スヘキ一事アリ他ナシ特ニ魚苗ヲ放流スルモ漁業ノ經濟法ヲ整理一致セシムルニアラサレハ其功ヲ奏スルヲ久シカラサル

ト是ナリ堰斷水中ニ於テモ亦漁期ヲ定ムルヲ要ス是等ハ即チ本協會及監漁長監漁官ノ目下ノ一問題ナリトス然ルニ幸ニシテ監漁長及協會ノ尽力ニ由リ諸方ニ組合ヲ設ケ經濟法ヲ共ニスルモノ多ク而シテ皆其有益ナルヲ知了スルニ至リタリ蓋シ是等ノ組合ハ漸次ニ増加スルノ景況ナリ現ニ諸方ニ散在シテアルトミユールンドルフノ中央孵卵場ト氣脈ヲ通スル小養魚場ハ尽ク右等ノ組合ニ於テ設置シタルモノニ係ル鱒魚ヲモ本協會ニ於テ人工孵卵ヲ試ミタリ右ハ協會カ人工孵卵上ニ効驗ヲ奏シタルノ實況ナリ

然レモ本協會ハ特ニ人工孵卵ノミヲ以テ專務トスルモノニアラス從前ナキ所ノ魚類ヲモ本州ノ水中ニ産セシムルヲ謀リ既ニ好結果ヲ得タルモノアリ「サンデル」(鮭類)及鯉魚是ナリ此ノ二魚ハ今ヤ諸方ノ湖池ニ生スレモ從前ハ曾テアラサリシ所トス

本州中ニハ之ヲ農業ニ使用スレハ毫モ利益ナク或ハ最僅ノ收穫アルニ止マルモ之ヲ養魚池トナセハ頗ル利潤多キ場所寡ナカラス而シテ

溪流多キカ故ニ僅々ノ費用ヲ以テ低地ニ水ヲ流注シ積水シテ養魚地ト爲スノ便アリ協會茲ニ視ル所アリ人民ヲ勸勵シテ數多ノ養魚池ヲ設ケシメタルニ皆利益ヲ占ムルヲ多シ就中巨大ナル養魚池モ亦少ナシト爲サス而シテ其収獲額ハ最良ナル沼澤地ヨリ多シトス

本協會カ右等ノ好結果ヲ得タルハ前記ノ養魚者即發來堡ニ於テ傳習ヲ受ケタル幼漁夫ノ力多キニ居レリ同人ハ苟モ漁業ニ關スルノ事ハ細大漏サス能ク之ニ通曉シ州内諸郡ヲ巡回シテ改良スヘキモノ新設スヘキモノヲ研究シ漁權所有者ヲ獎勵シ且其質問ニ答ヘ種々ノ助力ヲ與ヘタルヲ以テ大ニ州内ノ人望ヲ得タリ故ニ政府ノ手當金ノ外協會ヨリ同人ニ充分ナル補助金ヲ給スルニ至リタリ故ニ同人モ其家計ニ困ムヲ免レ安心シテ巡回等ヲ爲シ力ヲ漁業獎勵上ニ專ラニスルヲ得ルニ至レリ

監漁長ハ又協會ノ議事ニ參シ屢々其意見ヲ述ヘ且配下ノ監漁官ヲシテ其職掌以內ニ於テ成ルヘク協會ノ爲メニ力ヲ致サシム而シテ前ニ

記シタル漁夫ヲ以テ監漁長ニ任シタルヲ以テ今ヤ同人ハ政府ノ官吏ニシテ協會ノ養魚者ヲ兼テ大ニ協會ノ便宜ヲ得ルニ至レリ

協會ハ又其働キヲ海漁ニ及ホシタリ本州ハ海岸ニ富ミ漁業ヲ以テ生計ヲ營ム村落多シ是等ノ村落ニハ從前ヨリ組合ヲ設ケ互ニ利益ヲ謀リ此等ノ諸組合ヲ本協會ト氣脈ヲ通シ本協會ヲ以テ中央協會トナシ此等ノ組合ヲ支會トナシ協會長ハ監漁長ト謀リ毎年本支會員ノ總會ヲ開クニ至リタリ故ニ今ヤ本協會ハ名義ヲ改メテユレースウツク、ホールスタイン中央漁業協會ト稱ス是レ千八百八十三年ノ事ト爲ス

猶後來設置スルヲ要スルノ事アリ他ナシ監漁官ニ任セラルヘキ者及漁業者ヲシテ實際ノ漁業及學理ヲ研究セシムルカ爲メニ學校ニ於テ特別ナル學課ヲ授ケシムルニ是ナリ然レモ猶ホ此ノ如キ設ケアラヌ唯將來ニ於テ設置セラレノヲ企望スルノミ云々

獨逸海學術的研究委員會

帝國政府ハキール府大學校ノ學士數名ヲ以テ東海及北海ノ魚類及氣象等ヲ學術的ニ研究スル委員會ヲ組織セシメ若干ノ保助金ヲ與フルモノナリ其業務等ハ明治十九年九月十三日奧水產局長該委員會事務長大學教授博士ゲーカルス氏トノ問答ヲ掲ケテ參考ニ供セントス

問 本委員會ハ何年ヲ以テ創立セシヤ

答 千八百七十年ナリ

問 本會ハ初發政府ヨリ設立シタルモノカ又ハ有志者ノ建議ニテ成立シモノカ

答 漁業ヲ獎勵改良スルカ爲メニ千八百六十九年ニ漁業博覽會ヲ開クニ當リキール大學校ノ博士カ該會ニ出品スルノ材料ヲ採集スルカ爲メ共同連書シテ海軍省ヨリ船舶一隻ヲ借用セシメテ請求シタルヲ以テ始トス其翌年則千八百七十年ニ政府ノ認可スル所トナリ而テ此委員會ノ目的ヲ達スルカ爲メニ政府ヨリ年々若干

ノ金額ノ補助ヲ受クルニ至リタリ且此ノ補助金ハ最初十ケ年間ハ毎年政府ノ會計豫算表臨時費ノ内ニ編入セシモ爾後該會ノ整頓スルニ從ヒ年々定額トナレリ

問 政府ヨリ年々補助セラレ、金額ハ幾何ナルヤ

答 毎月八百馬克ニシテ則一ケ年ニ九千六百馬克ナリ此費額ヲ以テ試驗者(則漁業者ノ内ヲ以テ人撰マ)ニ毎月十二馬克乃至十五馬克ノ手當金ヲ給與ス殘額ハ委員會研究費事務費及印刷費郵便等ノ諸費ニ充ツルナリ而テ委員ハ年々政府ヨリ九百馬克ツ、ノ報酬金ヲ受ク

問 本會委員ノ數ハ幾何ナルヤ

答 五名ニシテ皆ナキール港大學校ノ教授ナリ拙者モ亦其一ナリ

問 本委員ノ撰擧法ハ如何ノ方法ニ依ルカ

答 初發ハ政府(則農務省)ヨリ之レヲ撰擧任命セリ爾來關員アル毎ニ本委員會ニ於テ其關員ニ適當セル人物ヲ推擧シテ農務大臣ニ上申

問 農務大臣ヨリ之レヲ任命スルコト定マレリ

問 本委員會ハ特立シタルモノナルヤ又ハ大學校ニ附屬スルカ

答 農務省ノ直轄スルモノナリ然レモ其事務ニ至テハ委員中ノ協贊ヲ以テ實施シ特ニ農務大臣ノ指揮ヲ仰ク事ナシ殆ント獨立ノ姿ナリ

問 本委員會ノ内外ニ對スル職務ニ關スル規則書ノ如キモノハ無キヤ

答 別ニ規則書様ナルモノナシ唯委員集會ニ各々擔當ノ部ヲ定メ其事務ヲ取扱フ迄ノ事ナリ而シテ水産上ノ事ニ付テハ總テ政府ノ諮問ニ應スルノ義務アリ

問 本委員會ノ主要ナル目的ハ如何

答 獨逸領ニ屬スル東海ト北海トノ水中動植物及理學的ノ性質ヲ研究スルニアリ故ニ第一ノ着手ニ東海ヲ調査シ次ニ北海ヲ調査シタリ此兩海ノ調査法タルヤ海中水産ノ大体ニツイテ調査報告ヲ

爲シタルモノナレハ從今後ハ各種魚貝類其他水中動植物ノ一種
毎ニ詳細ノ調査ヲ遂ケ研究スルノ目的ナリ現ニ鍊魚ノ分ハ調査
濟ニシテ其研究說ノ報告ヲ六千部印刷シ各沿海ノ漁民等ニ配分
シタリ來年度ハ東海ノ魚類ヲ調査セントス

問 本會ノ外別ニ支會ノ如キモノアルカ

答 東海北海共ニ沿岸ノ漁業者中ヨリ人撰シ數多ノ試驗調査員ヲ設
ケ理學的ノ試驗器械ヲ貸與シ氣象ト理學的ノ顯象トヲ検査シ毎
月本會ニ報道ヲ爲サシム亦丁抹國ニ於テモ本會ト條約ヲ結ビ同
一ナル試驗調査員ヲ置キ其結果ヲ報道シ互ニ連絡ヲ通シテ大成
ヲ謀レリ現ニ英國ヲ除クノ外歐洲各國此ノ如キ氣象學的及理學
的ノ試驗調査所ヲ設クルモノ多シ而シテ沿岸漁業者試驗調査員
配付シタル試驗器械ノ原器ハ本會ニ備置キ各所ニ貸與シタル器
械試驗上ノ正否ヲ本會原器ニ照シ検査シ若シ正當ナラサルモノ
アルキハ交換シテ貸與ス各試驗調査員ニ別紙雛形ノ如キ小冊子

問 本會ハ各漁業組合等ノ諮問ニ應スル事アルカ

答 農務大臣ヨリノ命令ニ應シ之レカ答辨ヲ爲ス然レモ各個人カ直
接質問アルキハ之レニ相當ノ答辨ヲ爲スハ博士ノ本分ナレハ本
會委員ニ於テ辭セサル處ナリ

問 海中動植物ヲ試驗調査セラル、ニハ如何ノ手段ヲ以テセラレシ
カ

答 委員自ラ格物航行ヲ爲シテ實際ニ之ヲ検査ス先年ハ屢々格物航
行ヲ爲シタル尙爲テ甚難常ニ費用ヲ要シ英蘭蘇格蘭ニ赴キタル
カ如キハ一回殆ント四千馬克ヲ費シタリ今ヤ平均毎年三十日ヲ
以テ此航行ノ程度トス右ニ要スル小蒸氣船ノ費用ハ一日四十馬

克乃至五十馬克ナリ此格物航行ノ旅費日當ハ本會ノ定費中ヨリ
支出ス

問 本會ハ何レニ向テ事務報告ヲ爲スカ

答 本會ノ報告類ハ總テ五部ヲ農務省ニ呈シ其他現ニ百八部ハ内外
國ノ學校官衙及學士並漁業家等ノ報道ト交換ヲ爲シ互ニ利益ア
ル者ニハ内外ヲ問ハス分配ス此報告ハ初發ノ部ヨリ總テ伯林府
書店バチルパレー氏ニ於テ購求スル事ヲ得ヘシ

問 沿海漁業ニ於テハ海面ノ漁場並漁業者ノ漁權ヲ定メラレタル制
限アルカ

答 海面ニハ漁場漁權ト特別ニ定メタル事無シ獨逸國ノ人民タル漁
夫ハ總テ萬國公法上ニ因リ獨逸國ノ版圖内ニ在ル水中ニ於テ隨
意ニ漁業ヲ行フ事ヲ得ヘシ然レモ漁夫ハ通常巨大ナル船舶ヲ所
有セザルカ故ニ多ハ州内其ノ沿海ニ於テ漁業ヲ營ム事常トス
沿海ノ漁業ニ於テハ休漁期又ハ禁漁區ノ設アルカ

問 沿海ノ場所ニ因リ禁漁區ヲ設クルヲアリ然レモ休漁期ニ至ツテ
ハ漁場ニヨリテ同シカラザルカ故ニ若シ一漁場毎ニ適當ニタル

休漁期ヲ定ムレハ他ヨリ多ク漁船ノ來リテ營業スルカ爲ニ往々
爭議ヲ生ス故ニ沿海漁業ノ休漁期ヲ設クルノ可否ハ目下ノ一問
題トナリ居レリ

問 海中ノ魚類ニモ人工孵卵法ヲ以テ蕃殖ヲ計ラレシ事アリシカ
鰈魚ノ人工蕃殖法ヲ試ミシ事アリ然レモ海魚ノ人工蕃殖法ハ必

要ト爲サ、ルナリ如何トナレヤ海水中ノ魚類ノ蕃殖ハ其海中ノ
魚餌ノ多少ニ應スルヲ以テ仮令人工ヲ以テ之ヲ蕃殖セシムルモ
餌無ケレハ成長スルヲ能ハサルモノナレハナリ

問 本會ノ報告ハ定期報ト臨時報トノ區別アルカ
答 毎月各試驗者ヨリ報道シタル試驗表ヲ整理シテ別紙雛形中ニ記
入シ農務省ニ報告ス(雛形類略ス)

千八百八十四年乃至八十五年度字國政府漁業獎勵ニ關スル支出額(全年度歲計豫算表抄譯)

千八百八十四年四月一日ヨリ千八百八十五年三月三十一日ニ至ル會計年度内ニ於テ歲出入豫算表中農務殊ニ其定額第百五項ニ基キ漁業獎勵ノ爲メニ支出シタル金額ハ二拾壹万六千七百七十四馬克ニシテ之ヲ前年度ノ貳拾壹万四千四百〇四馬克ニ比スレハ千七百七十馬克ノ増加ナリ此増加ヲ生シタル所以ハ監視ヲ要スル禁漁區ヲ増加シタルニ因ル適當ナル禁漁區ヲ設クルハ漁業ヲ獎勵スルノ最モ必要ナルモノ、一ナリ而シテ是等ノ禁漁區ハ充分ニ監視ヲ施スニ非レハ其効少ナシ多クハ其地方ノ警察官ヲ以テ之ヲ監視セシムルト雖也遠隔ノ地ニ在ルモノ、如キハ下流監視人堤防及山林監視人ナシテ傍ラ禁漁區ノ漁業ヲ監視セシメサルヲ得サルモノアリ斯ク禁漁區ヲ設クルノ必用ヲ感スルト常ニ多ク其監視人ノ報酬ヲ與フルカ爲メニ右ノ如キ増加ヲ生レタリ

昨年度ノ會計豫算表ニ從ヒテ收入シタル處ノ同費額ノ殘金三万七千八百六十四馬克七十二片ヲ加エテ次ノ如キ計算トナル

計算表

漁業獎勵ノ目的ニ供スヘキ總金額二拾五萬四千零三十八馬克七十貳片ニシテ其支出シタル金額ハ左表ノ如シ

- (一) 監漁長及監漁官ノ俸給 五〇七〇〇馬克
 - (二) 全上役宅補助料 四七二八〇〇
 - (三) 漁業監視人雇使丁及雇入助手ノ報酬及代理旅行轉役費 三四九二八〇〇
 - (四) 臨時報酬及保護金 一六〇〇〇〇
 - (五) 漁業ニ關スル官吏ノ職務勉勵ニ對スル慰勞金 三〇一六五〇〇
 - (六) グライフワルデル、ナイノ漁船風避ケ港ノ保存費 四九七四、七六
- 全上燈臺點燈火 四二、九八
- 五〇一七、七四

(七) 漁業ニ關スル官吏ノ職務上ニ使用スル船ノ保存費其他雜費 七六八三、〇九

(八) 在キール獨逸海學術的研究委員會費 一一六五〇、〇〇

(九) 一般ノ漁業獎勵ニ關スル費用

(甲) 漁業協會ノ目的ヲ助クルカ爲メニ與ヘタル費額

(イ) 獨逸漁業協會及其千八百八十三年英國龍動ニ於テ開設シタル萬國漁業博覽會ニ出品シタル報告書類ノ印刷費 一〇三〇〇、〇〇

(ロ) 東プロイセン州ケイニグスブルグノ漁業協會 三〇〇〇、〇〇

(ハ) 西プロイセン州漁業協會 三〇〇〇、〇〇

(ニ) シュレスウヰツク、ホオルスタイン州中央漁業協會 一〇〇〇、〇〇

(ホ) 其他ノ漁業協會及漁業ヲ振興スル事ヲ勉ムル農業協會

學國政府漁業獎勵ニ關スル支出額

小計

(乙) 漁道ノ修築及保存費

(イ) ベツキンググハウゼン漁道布設保助費	一〇〇〇、〇〇〇
(ロ) シユレスタルノスウドミウレニ於ケル鮭梯建設費	六〇四、〇〇〇
(ハ) 萊因河フルートシユロイゼニ於ケル魚道建設費	四八九、一九〇
(ニ) モーゼル河バラレルウエルケンニ於ケル隧道漁道布設費	四八三、四二〇
(ホ) 單一ナル魚梯器械試験費	三七〇、六〇〇
(ヘ) ツルピン「水車」ノ前ニ設クル鰓魚ヲ保護スル鐵網補助費	一〇〇、〇〇〇
(ト) 魚道ヲ建設スルカ爲メニ生シタル漁權賃借人ノ損害賠償金	六〇、〇〇〇
小計	三、八五〇、〇〇〇
	二、一五〇、〇〇〇

(ナ) 魚道建設計畫費

(リ) フロイヒニ於ケル鮭梯ニ供スル籠構造費	三〇、〇〇〇
(ス) 諸方魚道ノ保存費	一六、〇〇〇
小計	三二二、七四七

(丙) 養魚場及之レニ類似シタル目的ヲ有スルモノ、建設費及保存費

(イ) アンゲンブルク養魚場	一四七、三七九
(ロ) フロイデンタル養魚場	二二五、〇〇〇
(ハ) ナイベルウエーセル魚卵孵化場設置費	六五〇、〇〇〇
(ニ) スタインホルン魚類孵卵場設置費	五二七、六六〇
(ホ) グラドウ「フォレル」魚卵孵化場設置費	一二四、五〇〇
(ヘ) ラッペルスドロフ孵卵場増築補助費	二〇〇、〇〇〇
(ト) 右等ノ場所ニ於ケル水管密塞ヲ豫防スル装置及修繕費	四一、五六〇

- (ナ)人工孵卵場設置計畫費 三一四、七六
 - (リ)各種孵卵器械製作費 五三三、九五
 - (ヌ)トルケミットニ養魚池設費及其必用ナル保護裝置ノ費用 一八六一、七〇
 - (ル)シュハルツナルト養魚池設置費 一三二五、七〇
 - (チ)ガルウイデン川及チーベルヘルステライ及クヂッペン「フォレル」
レ魚飼養場設置費 七〇九、八〇
 - (ワ)チーベルステライ、ホーフツアイトニ於ケル鯉卵孵化池設置費 一五六七、〇〇
 - (カ)貴重ナル魚類ノ魚卵ヲ購求シ孵化シ及流放シタル費用 二二〇五、六五
 - (ヨ)山林家ニ人工孵卵法ヲ傳習シタル費用 七三二、四二
 - (タ)其他ノ人物ニ人工孵卵法ヲ傳習シタル費用 九六、三〇
- 小計 一一九五九、七九

- (丁)禁漁區ヲ設置シ及標示スル費用 三六一五、二〇
但拂込タル貸借料ヲ差引
 - (戊)監視上ニ使用シタル費額 六五四二、一二
 - (イ)漁業ニ關スル官吏ノ職務上ニ使用スル舟及船具製造費 三五四七、三六
 - (ロ)漁業長ノ囑托ニ應シテ尽力シタル土地改良土木官及動物博士ノ報酬金日給及旅費 一七二五、〇〇
 - (ハ)漁業及魚市ノ監視殊ニ漁業ニ關スル反則ヲ探索シタル警察官ノ賞與金 一一八一四、四八
- 小計 八二二、六〇
- (己)漁業ヲ害スル動物類ヲ獲殺シタル費用及報酬金 三七五二、七一
 - (イ)鴉 但群集シタル森ヲ伐木シタル辨償金
 - (ロ)水獺

小計

四五七五、三一

(庚)海上漁業ヲ振興スヘキ船舶及諸器械ヲ製作セシムルカ爲メニ
漁業組合ニ貸與シ及補助シタル金額 八二〇〇、〇〇

(辛)其他ノ支出額

二三九六、五七

(イ)暴風信號局設置費及其裝置費

(ロ)漁業獎勵上水先案内者ヲ使用シタル報酬(殊ニ漁業者ヲシテ

港ヲ發見シ及其内ニ投碇スルヲ容易ナラシムル爲メ)

六〇〇、〇〇

(ハ)レバリー河口漁港建設計畫費

三六九、五〇

(ニ)漁村ニ配布スル爲ニ購求シタル各國船旗圖

一四〇、〇〇

(ホ)漁業獎勵ニ關スル旅費及漁業集會ニ出席シタル博士ノ報酬

九六二、六三

(ヘ)北海鰈比目魚及鱒魚之試漁ニ使用スヘキ漁船ノ製作費

一八八、〇四

(ト)或ハ運河中ニ於ケル漁業及之レニ附屬スル養鯉ノ總費用(從
來生シタル利益ハ國庫ニ収マリ) 三九四、五五

(チ)種々ノ小支出額

七一、七三

小計

五一二三、〇二

惣計

二一六一三七、三〇

(八)及(九)項ノ費額ハ歲計豫算表中次年度ニ繰込ム事ヲ得ヘキモノニシ
テ此殘額七九〇、二七九及三三六四六、六六合計四一五四九、四五馬克之
レ次年度ニ繰込ムヘキモノトス故ニ之ヲ支出額ニ合算スレハ二五七
六八六、七五トナル故ニ之ヲ最初ノ目的二五四〇、三八七二馬克ニ比ス
レハ三六四八、〇三馬克ノ超過ナリ之レ千八百八十三年十二月ノ海嘯
ニヨリ破損シタルグライフ、ツワ、モデル港ヲ修築シタルニヨルナリ

宇國漁業ニ關スル税法

(甲)營業稅

左ノ職業ヲ營ムモノニハ營業稅ヲ賦課セス

(一)自家ノ需用若クハ快樂ヲ主トシテ漁獵權ヲ賃借シ魚類若クハ鳥獸ヲ捕獲シテ其一部分ヲ賣却スル者ニハ營業稅ヲ課セス

(右千八百七十五年五月廿日營業稅賦課法ニ關スル指令第七條營業稅ノ目的ハ野漁ニ及ハス唯故ラニ池湖等ヲ賃貸シタルキハ此ノ池湖ニ課稅スルノミ

是故ニ池湖及ヒ内地漁業場ノ漁業其物ニ對シテハ營業稅ヲ課セス
鯨魚漁及ヒ右ニ連亘シタル鹽藏蒸製ノ事業ニシテ自家ノ手ニテ捕獲シタルモノニ限り製造スルモノモ亦然リ

然レモ自ラ捕獲シタル魚類ヲ市場ニ賣リ或ハ鹽藏若クハ蒸製スル
ヲ以テ足レリトナサス他ヨリ購求シテ市場ニ販賣シ或ハ製造ス
ルモノハ營業稅ヲ課スヘシ又漁業ノ目的ヲ以テ多ク船舶ヲ機裝ス

ルヲ營業トナスモノモ亦然リ其他沿海及ヒ内地漁業ヲ行フモノニ
シテ三「ラスト」一「ラスト」ハ二噸ナリノ船ヲ使用スルハ船ニ對シテ
課稅セラル、ハ勿論ナリトス

(右千八百二十年十二月二十八日ノ内務省指令)

世襲ノ法ヲ以テ川池湖等ヲ賃借シ其内魚類ヲ捕獲シテ販賣スルニ止
マルモノニハ營業稅ヲ賦課セス

(右千八百二十五年五月廿五日内務省指令)

漁權賃借人ニシテハフ及チीडル或ハ堰斷セサル水中ニ於テ漁業ヲ
行ヒ其自ラ得タル所ノ魚類ヲ其地或ハ其居住地每周市場ニ於テ販賣
スルモノニ限り營業稅ヲ課セス然レハ魚類ヲ購入シテ之ヲ販賣シ或
ハ自ラ漁撈シタルモノト雖ヒ之ヲ行賣スルモノハ營業稅規則ノ成規
ニ從ヒテ課稅スヘキモノトス

(右千八百五十五年四月五日内務省指令)

(乙)地租

水上ニ於ケル漁業收穫高ヲ確定スルニハ能ク多年ノ平均數ヲ察シ水
族保護放殖樋門堤防漁具ノ費用ヲ酌量シ而シテ其地租ヲ定ムベシ
養魚地トナシ或ハ圃場又ハ牧場ト爲シテ使用スル土地ハ此各収額高
ヲ平均シテ地租ヲ定メ其地方ノ圃場牧場ノ地租ニ準シテ之ヲ定ムル
ヲ要ス

(右土地収獲測定原則第十三條)

每「ヘクタール」(凡我一町ニ)ノ水面ノ収獲九十片以下ナレハ十片毎ニ等級
ヲ定メ九十片以上ナレハ三十片三馬克以上ナレハ一馬克五十片ヲ増
ス每ニ等級ヲ遞昇セシムベキモノトス

(右地租等級確定法)

(丙)關稅表

千八百七十九年七月十五日獨逸帝國關稅表中ヨリ漁業ニ關
スルモノヲ拔萃シタルモノナリ

凡我二百六十六ノタリテ

關稅額	數量	名物種	
0	—	漁業ニ用ヒタル古網古網等	1
3	100 基	新規ナル木綿製ノ流網	2
10	〃	(ノモルサセ造製) 鯨ノ鬚	13
0	—	湖河ニ浮フヘキ松及附屬物等 鐵蒸氣鐘 珊瑚製ノ物	15
600	100	全部或ハ一部分異 珠若クハ珊瑚製ノ物	20
3	〃	他ニ特定セサル魚類	25
200	〃	全部或ハ一部分號 玳瑁泡石 青貝 龜甲 製ノ物	20
3	1 桶	(ノモルタシ) 魚鯨	25
60	100 基	包裝ノ具 ナルモノハ每一〇〇基ニ付 二馬克トシ肥料ニ用ルモノハ無稅トス	60
24	100 基	海中動物 製造シタル海魚類 即牡蠣類 等鐵詰	24
3	100 基	鱈魚油魚	3
0	—	魚生	0

荷蘭陀國海上漁業律

千八百八十一年六月二十一日發布

第七十六號

第一條 左ノ條々ヲ遵奉スルモノハ何人ト雖モ己レノ欲スル如ク漁業ヲ營ムヲ得ヘシ

第一章 海上漁業船舶ノ証印ヲ明カニスルヲ

第二條 海上沿海若クハ河川ニ於テ一時又ハ永久漁業ヲ營マントスル荷蘭陀國ノ船舶ハ其所屬地名及該所屬地ニ於テ定メタル番號ヲ記載スヘシ

第三條 各所地ヲ定ムルニ方テハ之ヲ海上漁業局ニ届ケ出テ水務大臣ニ呈シ其認可ヲ經以テ官行ノ報告書ニ記載スヘシ

第四條 各所ノ長官ハ記錄書ヲ作り之ニ其所轄船舶ノ數番號船名記號及船主ノ名ヲ記載シ置クヘシ

第五條 各船舶ハ其所屬地名及番號ヲ其本帆ノ兩側ニ記載スヘシ尤

モ其大小ハ海上漁業局ヲ經水務大臣ノ認可ヲ得テ之ヲ定メ官行ノ
書冊ニ記載スヘキモノトス
船長ハ漁業ヲ營ム間其船舶ノ名號番號等ノ隱蔽セサル様注意スル
ノ義務ヲ有スルモノトス

第二章 海上漁業ヲ妨害セサル心得

第六條 荷蘭陀國漁民ノ漁獲シタル青魚コシテ其内臟ヲ去リタルモ
ノハ各漁民尽ク之カ鑑定ヲ乞フヲ得ヘシ(其入費ハ自辨タルヘシ)而
シテ其鑑定法ハ海上漁業局ノ議案ニ依リ國王之ヲ定ム

第七條 左ノ「サンチメイトル」ヨリ小ナル魚類ハ之カ魚獲販賣貯蓄及
運搬ヲ嚴禁ス

青魚ノ十「サンチメイトル」ヨリ小ナルモノ
大口魚ノ八「サンチメイトル」ヨリ小ナルモノ
「スピリーング」魚(香魚)ニ類スル魚コシテ荷蘭陀語ノ七「サンチメ
イトル」ヨリ小ナルモノ

第八條 五月十五日ヨリ七月十五日ニ至ル間ハズイダル海ニ於テ「キ
ール」若クハ「クハキール」網ヲ用フルヲ嚴禁ス(キール網ハ海底ニ存ス
ル大小魚類ヲ漁獲スル爲メニ用フルモノコシテ囊網ノ如キモノナ
リ)

第九條 海岸及河岸ニ於テ行フ蠟若クハ其他貝類ノ養殖及漁獲ニ關
スル心得ハ特別ニ頒布スルモノトス

第十條 北緯六十七度乃至七十五度東經五度乃至西經十七度(經度ハ
英國綠林府ヲ以テ零度トナシタルモノ)ノ間ニ於テ國王ハ某日間海
豹ノ漁獲ヲ禁スルヲ得ヘシ

第三章 海上漁業ノ利益増進ニ關スル注意

第十一條 海上漁業利益ノ増進ヲ謀ルヲ海上漁業局ニ委任ス
海上漁業局ハ海上漁事萬端ノ事ニ關シ政府ニ報告及ヒ助言シ又
外國ニ於テ爲シタル改良アレハ之ヲ尋ネ之ヲ印刷シ之ヲ輸入シテ
以テ海上漁業ノ發育ヲ謀ルヘシ

海上漁業局ノ局員ヲ十五名トシ國王之ヲ任命ス而シテ其過半數ニ當ル局員ハ海上漁業ニ直接ノ利害ヲ有セサルモノトス
 該局員ノ任期ヲ三年トス
 該局員ノ三分一ハ毎年名簿記載ノ順ニ依テ退任セシムルモノトス
 (退任ノ順序ハ抽籤法ニ依ル)
 此退任シタル局員ハ直ニ復テ就任スルヲ得ヘシ
 海上漁業局ニ於テ執行スヘキ業務ノ諸規則ニ關スル必要ナル事項ハ國王之ヲ命ス
 海上漁業局ニ於テ漁業政務及其他ノ事ニ關シテ必要ナル諸經費額ハ國王之ヲ定メ政府ノ豫算書内ニ記載スルモノトス
 第十二條 青魚漁業ノ監督者ヲ要求スル所アリテ海上漁業局之ヲ必要ト見認ムレハ水工商務大臣ノ認可ヲ經テ監督者ヲ置クヲ得ヘシ
 該監督者ヲシテ其職ニ就クノ前就職後ハ注意信實及正直ヲ以テ己レノ義務ヲ尽クスヘシトノ誓約ヲ其住所ノ長官ニナサシム該監督

者ノ給料ハ監督者ヲ求ムル所ノ人民之ヲ支辨シ其員額ハ國王ノ認可ヲ得テ海上漁業局ニ於テ定ムルモノトス

第十三條 第二條第五條第七條第八條及ズイザル海ニ關スル事項ノ規則ヲ執行スルカ爲メニ一名若クハ數名ノ監督者及其他ノ役員必要ナルキハ海上漁業局ノ上申ヲ以テ國王之ヲ命スルモノトス
 監督者及役員ノ住所及其施行スヘキ業務ハ海上漁業局ニ於テ之ヲ定ム
 監督者及役員ハ其就職前ニ就職後ハ注意信實及正直ヲ以テ己レノ義務ヲ尽クスヘシトノ誓約ヲ其住所ノ長官ニナスヘシ

第四章 罰則

第十四條 第二條及第五條ノ執行ヲ怠リタル船長ハ七十五ギユルデ
 (凡一我ギユルテシ)ノ罰金ニ處スルカ若クハ七日間ノ禁錮ニ處スヘシ
 船長ノ此怠リヲナシタルヲ船主ノ承知シ居リタルコト明白ナル
 キハ船主モ船長同様ノ處分ヲ蒙ルモノトス

第十五條 政府ニ於テ用ヒタル往昔ノ魚類鑑定ノ証印ヲ構ニ捺シ以テ魚類ヲ販賣スルモノハ何人ト雖トモ一千ギユルデンノ罰金ヲ科スヘシ此場合ニ於テハ構及魚類トモニ沒收スルヲ得ヘシ

第十六條 第七條ニ違犯シタルモノハ七十五ギユルデンノ罰金若クハ七日間ノ禁錮ニ處ス尤モ制限外ノ魚類全收穫高二十分一以上ニ當ラサルモノハ違犯者ト見做サス

第十七條 第八條ニ違犯シタルモノハ五百ギユルデンノ罰金ニ處スルカ若クハ一ヶ月ノ禁錮ニ處スヘシ

第十八條 第十條ニ違犯シタルモノハ三千ギユルデンノ罰金ニ處スヘシ

禁漁期ニ際シ海豹漁業ヲ爲シタル船長アリテ其船主之ヲ承知シ居リタルキハ船長及船主共ニ三千ギユルデンノ罰金ニ處スヘシ

第十九條 法律違犯人ヲ罰スルニハ最少ノ罰金ハ五十仙ヨリ少ナルヲ得ス禁錮ハ一日ヨリ短キヲ得ス

第五章 終局

第二十條 第二條ニ違犯シタル船ニ舟人ヲ雇入レ帳簿ニ其證明記入ヲ要請スルキハ「ウオルタルスホート」官名之ヲ登記スヘカラス

第二十一條 青魚監督長及監督者ニ限ラス(第十二條及第十三條)警察官吏税關官吏若クハ領事館ノ官員ニシテ漁夫ノ漁業律ニ違背シタルヲ認メタルキハ直ニ之ヲ誡メ其由ヲ記録シ置クヘシ

第二十二條 前第二十一條ノ場合ニ於ケル官吏ハ其記録紙ヲ現場ノ長官若クハ違犯者住所ノ長官ニ宛二十四時間内ニ送達スヘシ

第二十三條 第七條ニ違犯シテ漁獲シタル魚類ヲ見認メタル官吏ハ之ヲ拋棄セシムルカ若クハ販賣ニ適セサル様ニ之ヲ處分スヘシ漁獲シタル魚類法律制限外ノモノ全収獲高ノ二十分一内外ナルヤ否ヲ檢スルハ之ヲ持テ來リタル處ノ長官之ヲ行ヒ其結果ハ之ヲ記録シ置クヲ要ス

第二十四條 右ノ長官其違犯者ヲ見認メタルキハ之ヲ司法省ニ通報

スヘシ
 第二十五條 第八條ハ千八百八十五年第一月一日前ニ之カ改正ヲ行
 フヘシ
 第二十六條 此新法律ヲ以テ千八百五十七年六月十三日發布ノ法律
 第八十六號千八百五十七年八月十三日發布ノ法律第百二號千八百
 七十八年五月七日發布ノ法律第三十七號千八百七十六年十二月卅
 一日發布ノ法律第百八十九號ニ換ユルモノトス
 千八百八十一年六月廿一日

奉 勅

水務大臣署名

千八百八十一年六月廿八日發布ノ法律
 第九十八號

荷蘭陀國海上漁業者逃亡處分法

第一條 海上ニ於テ漁業ヲ營ム爲メノ定約ヲ以テ舟主若クハ船長ニ
 雇ハレタル漁夫其出帆前ニ逃亡スレハ一日乃至十四日ノ禁錮ニ處
 ス
 第二條 漁夫其定約期限ヲ終ラヌシテ半途ニ逃亡スレハ全期限ノ逃
 亡者ト見做シ一日乃至三十日ノ禁錮ニ處ス
 第三條 船長其船主ニ定約シタル期限ヲ終ラヌシテ其定約ヲ破ルキ
 ハ一日乃至三十日ノ禁錮ニ處ス
 第四條 第一條及第二條ノ犯罪者タル漁夫アルキ之ヲ知リテ其犯罪
 シタル日ヨリ三十日以内ニ此漁夫ヲ雇ヒタル船長ハ一日乃至三月
 ノ禁錮ニ處スルカ若クハ半「ギユルデン」乃至三百「ギユルデン」ノ罰金
 ニ處ス尤モ漁夫ノ定約ヲ破リタルモノ外國ノ港灣等ニ在リ他船ノ

荷蘭陀國海上漁業者逃亡處分法

船主若クハ船長其破約者タルヲ知ルモ該處ニ駐在ノ荷蘭陀國領事ノ一致ヲ得テ之ヲ雇フキハ船主若クハ船長共ニ犯罪者ニ非ラス若シ駐在領事ナキハ該處長官ノ一致ヲ得テ之ヲ雇ヘハ船主若クハ船長ハ亦タ犯罪者ニアラス

第五條 前條ノ犯罪者ハ治安裁判所ニ於テ之ヲ審判シ其判決ハ通常警察署ニ於テ爲スモノト同シ
犯罪者若シ治安裁判所ノ判決ヲ不服ナリトスルキハ控訴裁判所ニ訴ルヲ得ヘシ

千八百八十一年

奉勅

司法大臣署名
水務大臣署名

荷蘭陀國海上漁業局員數及經費

該局ハ水務省ノ一部ニシテ局員十五名ト書記一名トヲ以テ組織シ局長ハ勿論局員盡ク給料ヲ受クルナシト雖研究等ノ爲メニ局員旅行シ若クハ會議ノ爲メニ會場ニ出席スルキハ相當ノ手當ヲ受ク書記ハ之ニ反シテ常ニ給料ヲ受クルモノナリ此十五名ノ局員ハ盡ク海上漁業ニ直接若クハ間接ノ利益ヲ有スル人或ハ理論家或ハ實業家ナリ而シテ書記トナルヘキ人ハ大學校ノ教授ニシテ且ツ著名ノ法律學者ナラサルヘカラズ該局員ハ毎年集會スルノ義務アリテ一年二回ノ集會ヲナシ之ヲ夏冬ノ二期ニ於テシ其會場ハ一定スルナク多クハ沿岸ノ各所ヲ以テ循環ニ開會スルヲ常トス之レ各局員己レノ住所外ノ漁業ニ關スル事項ヲ知ルニ便ナルヲ以テナリ尤モ冬期ノ會場ハ荷蘭陀國海牙府ヲ以テスルヲ常トス

千八百八十五年度ニ於テ該局ノ經費ハ左ノ如シ

一ケ年ノ給料

書記	一名	六〇〇
監定長(青魚)	一名	一八〇〇
監督長(青魚)	一名	三〇〇〇
監督者	七名	三二〇〇
蒸汽船ニ關スル入費		四八八五
小計		一三四八五
局員旅費		一四〇〇
書寫賃郵便印刷其他小費		五〇〇
小計		一九〇〇
右ノ外ニ要スル警察費即チ		一八四五
蒸汽船修繕掃除費		一〇〇〇
巡回用ノ小舟七艘雇賃及氷夫賃金		一一八四五
小計		一一八四五
漁業ニ關スル研究保護費等即チ		

「キニルチ」

研究試驗費
鮭魚養殖保護費

小計	一二五〇〇
小計	一五五〇〇
總計	四二七三〇

當荷蘭陀國ニ於テハ鮭魚養殖ノ爲メニ人工孵化法ヲ行フニ會社若クハ一私人之ヲ行フモノニシテ其孵化シタル幼魚養育費トシテ政府之ニ保護金ヲ與フ其割合ハ幼魚ノ臍囊ヲ有シ他ヨリ食料ヲ要セサルモノハ一尾ニ付蘭貨二仙宛其生長シテ一ケ年三ヶ月ニ至リタルモノニハ一尾ニ付蘭貨二十五仙宛ヲ給與ス然リ而シテ此保護金ヲ得ンコトヲ出願スルモノアルキハ會社タルト一私人タルト論セス海上漁業局員一名若クハ二名其場ニ出張シテ之ヲ算シ其數ニ應シテ保護金ヲ給與ス(此幼魚ヲ一尾宛算スレハ頗ル時間ヲ費ス大ニシテ且繁雜ナルヲ以テ之カ重量ヲ知り其平均數ヲ得ハ大ニ便利ナルヨリシテ海上氣象部長ヘールト氏ハ之ヲ試驗セシニ臍囊ヲ有スル幼魚一「キログラム」ノ重

量ナレハ平均其數六千九百尾アリ其一ケ年三ケ月ニ至リタルモノハ
二キログラムニ付百五十七尾アルヲ目撃セリト云フ尤モ右ノ數ハ一
定不變ノモノニアラスシテ頗ル異ナルアレハ未タ其平均數ヲ確然極
ムル能ハスト云フ

荷蘭陀國海上漁業局條例

第一條 海上漁業局ヲ海牙府ニ置ク

第二條 局員中ヨリ二名ヲ撰ヒ其名ヲ國王ニ呈スレハ國王ハ其一名
ヲ以テ局長ニ命ス

第三條 局員二名ノ名ヲ國王ニ呈スレハ國王ハ其一名ヲ書記ニ命ス
此人局員ナレハ局員ヨリ除名スヘシ

書記ノ期限ハ三ケ年トシ任終レハ再ヒ就職スルヲ得
第四條 局員在職三年ニ至レハ抽籤法ニ依テ退職セシム第一回ノ退

職ハ千八百五十八年六月一日ヲ以テスヘシ
局員其期限ヲ全フセスシテ退職スルモノアレハ他人ヲ以テ之ニ充

テ其年限ハ三ケ年トス
第五條 局員ハ少クモ一ケ年一回集會スヘシ尤モ局長ノ必要ト見認

ルキハ幾回モ集會ヲ開クヲ得ヘシ又局員三名臨時ニ開會ヲ求メ其
理由ヲ書綴シテ之ヲ局長ニ呈スルキハ亦之ヲ開クヲ得

局長ハ全局員ヲ集會セシムルノ權ヲ有ス
 局中ニ於テ爲スヘキ業務ノ順序ハ局員自ラ之ヲ草シ水務大臣ノ認
 可ヲ經テ之ヲ實施ス而シテ其向來爲スヘキ變革等モ同様トス
 第六條 集會處ハ局長之ヲ定メ而シテ局長ハ一名乃至數名ノ局員ヲ
 シテ其住處外ニ派出シ研究セシムルノ權ヲ有ス
 第七條 該局ハ局員中ヨリ委員ヲ命ジテ該局法規ノ許ス事業ヲ爲サ
 シムルノ權ヲ有ス
 第八條 該局ハ水務大臣ト直接ノ連合ヲ有スルヲ得ヘシ青魚漁業ニ
 關シタル地圖ヲ作ル爲メニ該局ハウトレクトニ在ル氣象所ニ評議
 スルヲ得
 第九條 該局ハ青魚漁業監督者ヲ常ニ嚴密ニ支配スヘシ
 該局ニ於テ該監督者其義務ヲ尽クサ、ルト見認ムルキハ其就職期
 限内ト雖水務大臣ノ認可ヲ經之ヲシテ某日間休職セシムルカ或ハ
 之ヲ退職セシムルノ權ヲ有ス

第十條 該監督者ニ關スル訴訟該局ニ來ルキハ該局ニ於テ之ヲ決ス
 ベシ

第十一條 該局ニ於テ爲シタル前年度ノ業務ノ精密ニシテ佳良ナル
 報告及ヒ前年度ノ海上漁業ノ有様ヲ精密ニ書綴シタルモノ及ヒ該
 局業務上ニ要スル翌年度ノ會計豫算書ヲ毎年五月若クハ四月中ニ
 於テ水務大臣ニ呈出スヘキモノトス

前條ハ總テ國王ノ裁可ニ屬スル卅三號ノ法令ニシテ千八百五十
 七年十一月卅日水務大臣發布ノモノナリ

荷蘭陀國海上漁業局集會規則

- 第一條 該局員ハ一ヶ年一回五月ニ集會ヲ開クモノニシテ局長必要ト見認ムレバ幾回モ集會スルヲ得又ハ局員三名臨時會ニ望ミ其理由ヲ局長ニ書綴シテ呈出スルモ亦之ヲ開クヲ得局長ハ集會ノ時日ヲ決定スルヲ得
- 三名ノ局員臨時會ヲ局長ニ書綴シテ望ムアレバ局長ハ其書ヲ落手シタル日ヨリ十四日間内若クハ其以外ニ於テ該局員ノ要求スル時ニ集會ヲ開クベシ
- 第二條 開會ノ時ハ局長ノ名ヲ以テ書記全員ヲ召集スベシ此召集狀ハ開會日前八日ニ發スベキモノトス
- 但至急集會ヲ要スルキハ此限ニアラス
- 第三條 召集狀ニハ其議スベキ事件ヲ記載スベシ
- 第四條 集會所ハ兼テヨリ局長注意シテ之ヲ用意スベシ
- 第五條 五名以上ノ出席員ナキハ開會スベカラズ若シ開會時刻一

時間ヲ經ルモ五名以上ノ出席員ナキハ局長之ヲ延期スベシ

第六條 集會ニ出席スル能ハサル局員ハ可及的速ニ其理由ヲ局長ニ報スベシ

第七條 集會ヲ開クハ書記前年ノ報告ヲ朗讀スベシト雖前會ニ於テ讀示シタルモノハ之ヲ要セズ該報告書ニハ出席員ノ姓名該局ノ落手シタル通信議事ノ要点每集會ニ於テ起草シタル案文及ヒ可決シタル者此可決ヲ得タル投票數起草案ニ反對シ或ハ之ヲ贊成シタル事ノ要点等ヲ記載スベシ而シテ后局長ハ該報告書ニ付キ全員ノ贊成ヲ受クヘシ是ニ於テ局長及ヒ書記之ニ証印スヘキモノトス

第八條 集會ニ於テ可決シタル箇條ニ反對シタル局員ハ之ヲ報告書ニ記載セラレノヲ要求スルノ權ヲ有スルモノトス

第九條 局長ハ前會后其受取リタル書簡及通信等ヲ集會ノ時全員ニ讀示スベシ

第十條 局長ハ集會ヲ整理スベシ

集會ニ提出シタル案ニ付之ヲ論議セントスル局員ハ局長ノ許可ヲ得ヘシ論議余リ長キニ亘リ局長之ヲ完了ト見認ムルキハ其停止ヲ集會ニ助言スルヲ得ヘシ

第十一條 局員ハ議案ノ修成變革ヲナスヘキ權ヲ有ス議案ハ討論ヲ始メル前之ヲ提出スベシ

或點ニ關シテ局員動議ヲ發スルキハ此動議ノ取捨ヲ全員ニ問ヒ其決スル迄ハ本論ノ討論ヲ爲スヘカラス

第十二條 万般ノ事物ニ關シ決ヲ取ルヲ要スルキハ投票ヲ以テセス口頭ヲ以テス而ノ各事皆ナ多數ニ依テ決ス贊否若シ同數ナルキハ局長之ヲ決ス

第十三條 人ニ關シテ投票ヲナスキハ小切ノ紙上ニ其人名ノミヲ書シテ己レノ名ヲ認ムヘカラス一紙葉ニ一人ノ姓名ヲ認メ決シテ一葉ニ二人若クハ多數ノ人名ヲ記スヘカラス(第十五條ヲ參看セヨ)第一回ノ投票ニ於テ多數ヲ得ルモノナキキハ第二回ノ投票ヲ行フヘ

シ第二回ノ投票ニ於テ多數ヲ得ルモノナケレハ第三回ノ投票ヲ行
 ヒ此時ニ於テハ第一回ノ投票ニ於テ其多數ヲ得タル二名ヲ取りテ
 其中一名ヲ投票ニテ推撰スヘシ同一ノ多數者多キハ其人ヲ悉ク
 取り以テ其投票ヲ行フヘシ若シ又テ第三回ノ投票ニ於テ多數ヲ得
 ルモノナキハ第四回ノ投票ヲ行ヒ此時ハ第三回ノ投票ニ於テ多
 數ヲ得タル二人ヲ取り投票ニテ推撰スベシ若シ又テ第四回ノ投票
 ニ於テ多數ヲ得ルモノナキハ抽籤ヲ以テ之ヲ決スベシ

第十四條 該局ニ於テ至急ヲ要スル場合アルキハ局長ハ之ヲ書面ニ
 認メ局員ニ送り其意見ヲ尋ヌルノ權ヲ有ス此場合ヲ以テ決シタル
 事件ハ次回ノ集會ニ於テ之ヲ朗讀シテ局員ニ示シ以テ之ヲ記録ニ
 留メ置クベシ

第十五條 永久調査委員ハ局員投票ノ多數ヲ以テ之ヲ定メ臨時調査
 委員ハ局長之ヲ命ス

第十六條 調査委員ハ其報告書ヲ綴リ之ト共ニ各自ノ意見ヲ集會ニ

際シテ提出シ其意見ノ可否ヲ局員ニ問フベシ

第十七條 永久調査委員ハ前回ノ集會後ニ於テ其行ヒタル業務ノ報
 告書ヲ次回ノ集會ニ提出スベシ

第十八條 集會ニ於テ豫定ノ議案ヲ議シ終リ尙時間ニ餘分アルキハ
 局員新クニ問題ヲ提出シ討議ヲ望ムノ權ヲ有ス此ノ場合ニ於テハ
 此新問題ヲ直ニ討議シ若クハ之ヲ延期スルトモ集會其權ヲ有スル
 モノトス

第十九條 集會ニ際シ局長欠席スルキハ最老ノ局員其代理ヲ爲スベ
 シ

書記若シ欠席スルキハ局員中ヨリ局長之ヲ命ス

第二十條 局長ハ如何ナル事件ト雖之ヲ回文ニ綴リ局員ノ自家ニ遞
 送シ其意見ヲ問ヒ之ヲ決スルノ權ヲ有ス

第二十一條 各局員ハ其地方ノ海上漁業ニ關スル事項及漁業貿易ノ
 景況ヲ毎年三月ニ於テ局長ニ報スヘシ此時亦タ向來爲スベキ若ク

ハ從來爲シタル各自ノ事業上ニ付水務大臣ニ呈スルヲ有益ナリト
認メタル事ハ盡ク之ヲ報告スヘシ
前條々ハ千八百五十八年五月十九日ノ集會ニ於テ定ム

局長署名
書記署名

荷蘭陀國海上漁業局書記心得

- 第一條 海上漁業局集會及日々業務ヲ取ル調査委員ノ集會アルキハ書記必ス出席スベシ(海上漁業局集會ニ關スル規則第十五條ヲ見ヨ)
 - 第二條 每集會ノ記事ハ書記之ヲ記錄ニ留メ置キ集會ニ於テ決議シタル事項ヲ記シ局長ノ証印アル簿冊ハ書記之カ保護ヲ担当スベシ
 - 第三條 書記ハ永久及臨時調査委員ヲ扶クベシ(海上漁業局集會ニ關スル規則第十五條ヲ見ヨ)
 - 第四條 書記ハ局長ヲ扶ケ局長自家ニ書記ヲ招クキハ書記其招ニ應ズベシ
 - 第五條 海上漁業ニ關シ書記ト談話ヲ求ムル人アルキハ書記之ヲ諾スヘシ
- 該局ヨリ回答ヲ出スヘキ書簡ヲ受取リタル時ハ可及的速カニ之カ回答ヲ爲スベキ様書記注意スベシ又々各般ノ議事ニ關シ及書簡ノ送達ヲ要スルモノアルキハ之カ送達ヲ猶豫セサル様書記注意スヘシ

第六條 該局ニ於テノ受取物或ハ該局ヨリ送達セタル書簡若クハ万般ノ書類ニハ書記之ニ番號ヲ付シ簿冊ニ書キ留メ置クベシ

第七條 該局ノ送達ニ係ル万般ノ書類ニハ書記之ニ局長ノ証印ヲ捺スベシ而シテ如此書類ハ書記尽ク之ヲ謄寫シ置クベシ

第八條 書記ハ該局ニ属スル万般ノ書類ヲ保存スルノ責任ヲ有スト雖モ該局之ヲ命セサルモ此限ニアラズ

第九條 局員書類ノ借用ヲ請フモハ書記其証書ヲ得之ヲ送達スルノ義務ヲ有シ局員外ノ人之ヲ請フモハ局長ノ許可及其請求者ノ証書ヲ得テ書記之ヲ貸附スベシ

第十條 郵便書寫等ノ如キモノニ關スル入費ヲ書記支出シタルモノハ之カ受取証ヲ取置キ毎年之ヲ書綴スベシ右等ノ入費ノ外ハ書記之ヲ管掌スルヲ得ス此場合ニ於テハ局長ノ許可ヲ受クルヲ要ス

第十一條 該局ニ屬スル金錢ヲ書記受取ルモハ之ヲ保存シテ一年一

回局長ト共ニ之ヲ調査スベシ

第十二條 該局若クハ調査委員ノ集會ニ於テ書記欠席スルモハ海上漁業局集會ニ關スル規則第十九條ニ示シタル如ク其代理者ヲ置クベシト雖モ每會欠席スルモハ局長之ヲ處分スベシ

千八百五十八年六月十九日ノ集會ニ於テ定ム

局長 署名
書記 署名

荷蘭陀國海上漁業監督長心得

第一條 監督長ハ其住居ヲ海上漁業局ノ命スル處ニ定ムベシ監督長私用ヲ以テ六日間ヨリ長ク其住所ヲ去ラント欲スルハ海上漁業局長ノ許可ヲ受クベシ

第二條 監督長ハズイダル海漁業ニ關シテ千八百八十一年六月廿一日發布ノ法令ヲ適當ニ實施シアルヤ否ヲ監視スルヲ以テ殊特ノ職務トスベシ故ニ左ノ諸点ニ付キ殊ニ注意スルヲ要ス

- 一 各漁舟ハ法令ノ命スル記號ヲ有スルヤ否
- 二 各漁舟其漁業ヲ營ムル船長其舟ノ記號ヲ被覆セサルヤ否
- 三 各船長ノ海岸ニ持チ來リタル魚類ノ大小ハ法律ニ違背セサルヤ否

四 ズイダル海漁業用ニ禁スル魚網ヲ漁夫用ヒサルヤ否但シ五月十五日ヨリ七月十五日迄ハ此禁ヲ解ク

第三條 監督長ハ前條ノ四点ヲ監視スルガ爲メ之ニ與フル小蒸氣船

ヲ以テ常ニズイダル海ヲ巡航スベシ

第四條 ズイダル海漁業ノ順序ヲ亂タサルカ爲メニ二名ノ監督者
ヲ監督長ニ附與ス此監督者二名ハ監督長ノ指揮ニ從フベキモノト
ス

監督長ハ每週監督者ノ業務ヲ行ヘキ場所ヲ定ムベシ監督長ハ必要
利益ナル事項ヲ綴リタル報告書ヲ每週各所ノ各監督者ヨリ受ケ取
ルベシ

第五條 監督長ハ各監督者其職務ヲ盡スヤ否ヲ嚴密ニ監視スベシ殊
ニ各監督者自ラ漁業ニ從事セサルヤ否又タ各自ノ職務ヲ盡クヌヲ
妨害スル業務ニ從事セサルヤ否ヲ監視スヘシ監督者若シ其職務ヲ
盡クサ、ルキハ監督長ハ之ヲ海上漁業局長ニ報告スヘシ監督長若
シ監督者ヲシテ某日月ノ間ハ其職務ヲ取ルヲ停止セシムルヲ必要
ト見認ルキハ其理由ヲ先ツ海上漁業局長ニ報告スヘシ

第六條 監督長若シハ監督者漁夫ノ法律殊ニ第二條ニ背キタルヲ見

ルキハ直ニ之ヲ誡メ監督者ハ其報告書ヲ監督長ニ送ルヘシ然ルキ
ハズイダル海漁業律第二十四條ニ依テ監督長之ヲ處分スヘシ

第七條 監督長ハ每週一回宛第六條ニ記シタル万般ノ事項法律違背
ノ漁夫ヲ如何ニ處分シタルカ等ヲ海上漁業局長ニ報告スヘシ而シ
テ又其各事項ヲ記録ニ綴リ置キ前後ノ事ヲ比較シテ其改良ヲ致シ
タルヤ否ヲ知ルヘシ

第八條 監督長ハ其支配以外ノ地方ニ於テモ法律ノ許サ、ル小魚ヲ
捕獲シ之ヲ販賣シタルヲ知リタルキハ直ニ之ヲ海上漁業局長ニ報
スヘシ

第九條 監督長ハ毎三ヶ月ノ第一週ニ於テ其前三ヶ月間ニ起リタル
事項及ヒ己レノ行ヒタル經驗等ヲ書綴シテ之ヲ海上漁業局長ニ報
スヘシ

第十條 ズイダル海ニ於テ蠟若シハ貝類ノ養殖ヲ許可スルキハ監督
長ハ漁業局ヨリ其改良ヲ謀ル爲メニ命スル事項ヲ實施スヘシ殊ニ